

圖 情 義 圖

2008年度

# 講 義 計 画

桃山学院大学

回

十

義

講

科 目 名			
日本事情 [外国人留学生用]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	友 沢 昭 江

**【講義概要・学習目標】**

この授業は外国人留学生を対象とするもので、彼らがもっとも関心をもつ現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察します。日本社会についての知識をえるというよりは、なぜそういう現象となるのかについてディスカッションを通じて学生自身が考え、自分の意見をまとめることをめざします。ディスカッションの幅を広げるために、日本語教師をめざす学生にも参加を求める予定です。

**【講義計画】**

その時々に応じたタイムリーなテーマを設定し、それに関する新聞記事を読んだりテレビ番組などを見ます。その後、それを土台にしてディスカッションを行い、お互いの意見交換をめざします。テーマごとに簡単な課題を提出します。新しい単語や表現がどんどん導入されるので、使い慣れた日本語辞書を持参してください。扱うテーマは現代日本の社会、文化、経済、政治、教育、娯楽などさまざまです。授業は基本的にすべて日本語で行うので、中級以上の日本語能力をもつ学生が対象となります。

**【成績評価の方法】**

出席を第一に重視します。また新聞記事やテレビ番組で知った新出の語彙についての小テスト、授業で取り扱ったテーマについての確認テスト、各自が選んだ「日本」についての発表内容、授業への参加姿勢などを総合的に判断します。

**【教科書】**

特に指定する教科書はありません。必要な資料は教員が用意します。

**【参考文献】**

特にありません。テーマに応じて参考になる文献や資料を紹介する予定です。

**【備考】**

留学生のみ対象

科 目 名			
日本文化研究－交流史からみた伝統と芸術			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	片 平 幸

**【講義概要・学習目標】**

本講義では、日本の造形芸術と伝統文化が、明治期以降、西欧においてどのように受容されたのか、そして西欧における「日本文化理解」について、日本はどのように対応したのかを多面的な資料を用いて考察していく。最終的には、交流史的な観点から、相対的な日本文化の理解を深めることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 世界における日本研究の動向
- 第3週 19世紀末～20世紀初頭の西欧における「異文化」表象—絵画
- 第4週 19世紀末～20世紀初頭の西欧における「異文化」表象—オペラ・バレエ
- 第5週 19世紀末～20世紀初頭の西欧における「日本」表象—絵画
- 第6週 19世紀末～20世紀初頭の西欧における「日本」表象—オペラ・映画
- 第7週 日本文化論の系譜～日本近代編
- 第8週 日本文化論の系譜～日本近代編
- 第9週 日本文化論の系譜～欧米編
- 第10週 日本文化論の系譜～欧米編
- 第11週 日本庭園の文化史
- 第12週 日本庭園の文化史
- 第13週 欧米における日本庭園論の変遷
- 第14週 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席・授業態度20%、講義中の小テスト30%、期末テスト50%

**【教科書】**

岡倉天心『茶の本—英文収録』（講談社学術文庫）講談社

な  
行

科 目 名			
日本文化研究－柳田国男を再読する			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	梅 山 秀 幸

**【講義概要・学習目標】**

今世紀初頭、柳田国男は二度にわたって、かなりの長期の岐阜県の調査旅行を行っており、その成果は『山の人生』および『毛坊主考』といった初期の作品の中に取り入れられている。その足跡をたどりつつ、柳田国男の叙述を読みなおすとき、かなりの「創作」といっていいものが目立つ。たとえば、『山の人生』の冒頭の「西美濃」の山奥の子ども殺しは、その実行者の後年の告白がたまたま残されていて、それと付き合わせると、実に出鱈目である。また、飛騨白川郷での農家の軒先での見聞かあら、『毛坊主考』は書き始められ、浄土真宗の揺籃期について論じているのだが、白川郷は江戸初期に高山に移った照連寺が勢威をふるった真宗王国であった。柳田国男の「勇み足」の意味を考えながら、山国の人々の精神生活に思いを致したい。合わせて、柳田のさまざまな方面での業績を通して、その思想の現代にもつ意味を考えてみたい。

**【講義計画】**

- 1、『秋風帖』を読む
- 2、『越前美濃紀行』を読む
- 3、『山の人生』を読む
- 4、「新四郎さんの告白」
- 5、『毛坊主考』
- 6、一向一揆および真宗の発展について
- 7、飛騨というところ
- 8、飛騨の真宗
- 9、ネプタ考
- 10、人柱について

**【成績評価の方法】**

期末試験による。出席も考慮します。

**【教科書】**

なし

**【参考文献】**

『柳田国男全集』（ちくま文庫）

科 目 名			
日本文化史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	梅 山 秀 幸

**【講義概要・学習目標】**

日本にはさまざまな演劇があり、今日まで伝承されている。中世の能や狂言、そして江戸時代の歌舞伎や人形浄瑠璃など、その成立した社会の背景をさぐりながら、実際に映像に触れて、それぞれの面白さを味わいたいと思う。能のいわゆる「幽玄」という美意識と古来のシャーマニズムとのかかわり、狂言の表現する社会相を考える。「荒事」と「和事」と対照される江戸と上方のそれぞれの歌舞伎を見比べながら、それを支持した住民たちの気質の違いを考えたい。現在、授業担当者の梅山はフランス研修中で、コメディ・フランセーズの舞台を何度か見た。イタリアに飛んで、ピッコロ・テアトロのコンメディア・デルラルテも見つもりである。モリエールやラシーヌ、あるいはゴールドーニといった人のDVDも諸君と見てみたい。

**【講義計画】**

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1) 「葵の上」   | 8) 「助六所縁江戸桜」  |
| 2) 「井筒」    | 9) 「夕霧阿波鳴門」   |
| 3) 「黒塚」    | 10) 「曾根崎心中」   |
| 4) 「身替り座禅」 | 11) 「妹背山婦女庭訓」 |
| 5) 「止動方角」  | 12) 「菅原伝授手習鑑」 |
| 6) 「山椒大夫」  | 13) 「近江源氏先陣館」 |
| 7) 「暫」     | 14) 「仮名手本忠臣蔵」 |

**【成績評価の方法】**

レポートと学期末試験による。

**【教科書】**

必要に応じて、プリントを配布する。

科 目 名			
日本文化論 [02生～]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	深 澤 徹

**【講義概要・学習目標】**

本講義は、春学期開講の「文学」と連動して、平安末期から鎌倉期へ至る日本の過渡期の歴史や文化を扱う。

鎌倉幕府成立後、新たな階層として登場した武士が、日本の歴史を主導する。それは東アジア儒教文化圏の中に位置しながら、以後の日本が、独自の歴史と文化を形成していく端緒となった。鎌倉幕府成立後、室町、戦国、安土桃山、江戸徳川、幕末動乱を経て、明治近代国家が成立までの600年間、武士が時代をリードする。半年間の講義では、武士政権の発生と消滅に焦点を当てて、その歴史を、駆け足でたどる。

とはいえ、鎌倉期の武士と、幕末動乱期の武士とは、大きな時間的隔りがあり、その両者を同列には扱えない。しかし丸山真男は、そこに共通する「武士のエートス」に着目し、原理原則に固執せず、臨機応変に事に処す、日本に独自の文化を見出した。その丸山の日本文化に対する「古層」概念に導かれつつ、武士の特質を明らかにしていきたい。

**【講義計画】**

1. イントロダクション (丸山「武士のエートス」を起点に)
2. 前史としての都市平安京
3. 『新猿楽記』に見る武士の位置づけ
4. 在地領主制論と権門体制論との学術上の対立について
5. 後三条天皇の登場の歴史の意味について
6. 交通の官・大江匡房の多彩な仕事について
7. 保元平治の乱と、武士の登場
8. 法然の専修念仏の時代的・文化的意味について
9. 『王法仏法相依』観と鴨長明『方丈記』
10. 危機の時代に対抗する神国思想と本覚思想
11. 慈円『愚管抄』に歴史的役割
12. 王の首 (主権権力) を切り落とす、承久の乱の壮挙
13. 教場にて中間試験
14. 答案返却と講評
15. 赤穂浪士事件の歴史的・文化的意味について
16. 王の首 (主権権力) を切り落とす、討入りの壮挙
17. 江戸幕府の成立と兵营国家論
18. 東アジア儒教文化圏と敵対する、中世封建制の日欧比較
19. ヨーロッパ中世の騎士道と江戸近世期の武士道
20. 丸山真男「忠誠と反逆」をめぐって
21. 山鹿素行と荻生徂徠の兵法思想
22. 国学と水戸学、そして尊王攘夷思想の展開
23. 『ラストサムライ』に見るオリエンタリズム
24. プリマス植民地と西部開拓の神話、そして開発領土
25. 在地領主制論と権門体制論の確執
26. 女の武士道としての『北の零年』
27. 自由民権運動の展開と挫折
28. まとめ

**【成績評価の方法】**

記述式の試験を2回 (1回目は教場にて中間試験、2回目は期間内の正規試験) 行なう。3回に一度くらいの頻度で出席を採るが、試験の評価の低いものは、その出席回数を考慮する場合もある。

**【教科書】**

特に定めない。

**【参考文献】**

参考文献としては、深澤著『中世神話の煉丹術』(人文書院 1994)、同『愚管抄』の<ウソ>と<マコト>』(森話社 2006)を挙げておく。どちらも複数冊図書館に所蔵されているが、講義内容に特に興味関心のあるものは、書店で購入されることを勧めたい。

科 目 名			
人間発達論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	安 原 佳 子

**【講義概要・学習目標】**

人は、誕生してから自分の周りの環境との相互作用によって育っていく。以前は「発達」というと、乳幼児期から青年期までに焦点が当てられていたが、現在は生涯発達という観点から、人が生まれてから(胎児期から)なくなるまでの変化として捉えられている。

身体的成長や運動能力、言語、認知、社会性など精神活動など、一口に発達といっても幅広い領域にまたがり、また、家族、社会、文化、時代など、多くの環境要因によっても変わってくる。そのため、これまで様々な視点から発達理論が唱えられてきた。

本講義では、発達理論を概観し、ライフステージにおける課題をみていき、人間理解を深めたい。さらに、福祉等の対人援助の仕事の視野にいれ、発達の支援について応用行動分析の立場から触れる。

**【講義計画】**

1. 授業のオリエンテーション
2. 発達とは(人間の発達の概念)
- 3～19. 発達理論の理解(さまざまな領域における各理論の紹介と整理)
- 20～24. 発達における課題について
- 25～28. 発達の支援(発達上の障害と支援、応用行動分析など)

**【成績評価の方法】**

出席状況、授業時の課題、レポート、学期末試験により、総合的に判断する。

**【教科書】**

授業時に提示する

**【参考文献】**

授業時に提示する

な  
行

科 目 名			
ネットワーク実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	初 瀬 慎 一

**【講義概要・学習目標】**

近年、ネットワーク技術の進歩や、インターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せない物となった。また、インターネットの普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本実習では、コンピュータネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、現状の問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

**【講義計画】**

1. コンピュータネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. インターネット詳細
7. さまざまなネットワーク上のサービス
8. HTML、XML、JAVA
9. ネットワークの安全性
10. 現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

**【成績評価の方法】**

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

**【教科書】**

資料は講義時に配布する。

**【参考文献】**

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

科 目 名			
ネットワーク実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	中 崎 修 一

**【講義概要・学習目標】**

近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及により、コンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な情報の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの構築と利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、特にセキュリティ面を重視しての現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を実習によって目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識を持ってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

**【講義計画】**

1. コンピュータ・ネットワークとは
2. インターネットワーキング
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. 様々なネットワーク上のサービス
7. HTML、XML、Java、JavaScript（1）
8. HTML、XML、Java、JavaScript（2）
9. HTTP
10. ネットワーク・セキュリティ
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ、その他サービス利用
13. Windows以外のOS Linux（1）
13. Windows以外のOS Linux（2）

**【成績評価の方法】**

課題提出、出席から総合的に判断する

**【教科書】**

指定無し（Webにて資料提示）

科 目 名			
ネットワーク実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	2単位	初 瀬 慎 一

**【講義概要・学習目標】**

近年、ネットワーク技術の進歩や、インターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せない物となった。また、インターネットの普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本実習では、コンピュータネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、現状の問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

**【講義計画】**

1. コンピュータネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. インターネット詳細
7. さまざまなネットワーク上のサービス
8. HTML、XML、JAVA
9. ネットワークの安全性
10. 現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

**【成績評価の方法】**

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

**【教科書】**

資料は講義時に配布する。

**【参考文献】**

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

科 目 名			
ネットワーク論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	初 瀬 慎 一

**【講義概要・学習目標】**

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

**【講義計画】**

1. 情報通信ネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. 安全性と信頼性
8. さまざまなサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

**【成績評価の方法】**

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

**【教科書】**

資料は講義時に配布する。

**【参考文献】**

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

科 目 名			
ネットワーク論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	中 崎 修 一

**【講義概要・学習目標】**

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

**【講義計画】**

1. 現代社会とネットワーク
2. 情報通信ネットワークとは
3. インターネット
4. ネットワーク基礎知識
5. TCP/IP
6. クライアントサーバシステム
7. ネットワーク構成
8. WWWとその活用
9. 様々なネットワーク上のサービス
10. 安全性と信頼性
11. ネットワークと犯罪
12. ネットワーク構築手法
13. 今後のネットワーク事情
14. まとめ

**【成績評価の方法】**

レポートと試験にて評価する。  
また、授業への参加態度も考慮する。

**【教科書】**

井戸伸彦 新しい情報ネットワーク教科書 オーム社  
必ず購入すること

**【参考文献】**

随時提示

科 目 名			
ネットワーク論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期	2単位	初 瀬 慎 一

**【講義概要・学習目標】**

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

**【講義計画】**

1. 情報通信ネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. 安全性と信頼性
8. さまざまなサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

**【成績評価の方法】**

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

**【教科書】**

資料は講義時に配布する。

**【参考文献】**

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）



科 目 名			
<b>農業経済論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	浦 出 俊 和

**【講義概要・学習目標】**

GATT体制からWTO体制へ移り、経済のグローバル化が進んでいる。同様に農産物貿易においても自由化が進展している。わが国は、世界の中でも農産物輸入大国であり、年々自給率が低下している状況にあるが、WTO体制の下で、わが国の農業をどのようにすべきかということは、非常に重要な課題である。また、世界全体を見た場合、食糧問題は未だ解決されていない状況にある。

本講義では、まず世界の食糧問題を取り上げ、食料の需要と供給について考える。次に、農業生産の特質を理解するとともに、WTO体制下における農産物貿易を取り上げ、先進国およびわが国の農業政策とその問題について講義する。

農業経済論では、若干マイクロ経済学の理論を援用するが、マイクロ経済学の基礎については、講義の中で解説しながら進める予定であるので、マイクロ経済学を履修していなくても歓迎する。

本講義が目標とすることは、各自が日本農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べる事が出来るようになることである。

**【講義計画】**

1. 世界の人口と食糧問題
2. 農産物貿易の特質
3. 農業生産の特質
4. 世界の農業問題
5. 経済発展と食料需給
6. 食料需要のシフト要因
7. 食料供給のシフト要因
8. 農産物価格形成と農産物市場
9. 農産物価格形成の特徴（1）
10. 農産物価格形成の特徴（2）
11. 農産物市場と非農産物市場
12. 途上国の農業問題
13. 途上国における農産物市場の特徴
14. 中間テスト
15. 先進国の農業問題
16. 政府の市場介入
17. 農産物貿易の自由化の過程
18. WTO農業協定の意義と問題点
19. 農業保護政策（1）
20. 農業保護政策（2）
21. 農業保護政策（3）
22. 日本の食料需給
23. 日本の農業生産
24. 日本の農業政策（1）
25. 日本の農業政策（2）
26. 農業と環境（1）
27. 農業と環境（2）
28. 期末テスト

**【成績評価の方法】**

原則として、学年度末試験の成績によって評価する。ただし、受講生数が適度な限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。

**【教科書】**

特に指定しないが、講義概要や講義資料は、下記を参照のこと。  
<http://rio.andrew.ac.jp/~urade/agri-index.html>

**【参考文献】**

- 1) 速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）
- 2) 荏開津典生著『農業経済学』（岩波書店）
- 3) 矢口芳生著『WTO体制下の日本農業』（日本経済評論社）

科 目 名			
<b>博物館概論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	井 上 敏

**【講義概要・学習目標】**

学芸員課程の基幹科目である。はじめの講義で学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的は何かについて、ガイダンスを行う。この講義では博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。また本講義においては学生諸君に博物館に行ってもらい、見学レポートを10月に1本、11月に1本の計2本書いて提出してもらう。その締め切りはそれぞれ10月末、11月末の予定である。見学レポートは2本とも提出しなければならない。1本しか提出しなかった者は本講義を放棄したものとみなすので、十分注意すること。

**【講義計画】**

1. 博物館の目的と機能
2. 博物館の歴史
3. 博物館の現状
4. 博物館倫理
5. 博物館関係法規
6. 生涯学習と博物館

**【成績評価の方法】**

出席を含む受講態度とレポート、及び試験で評価する。

**【教科書】**

広瀬隆人（編）『博物館学基礎資料』樹村房（2001）

**【参考文献】**

全国大学博物館学協議会西日本部会『新しい博物館学』芙蓉書房出版（2008年2月発行予定、なおこの本は博物館学各論Ⅰ・Ⅱではテキストとして使用します。）、倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版（1997）その他適宜指示する。

な  
・  
は  
行

科 目 名			
博物館学各論 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	井 上 敏

**【講義概要・学習目標】**

博物館はその数の増大と共に社会からより質の高い役割を要求されてきている。そのような要求に応えるべく、1997年に博物館法施行規則が改正され、これまで「博物館学」(4単位)しか設けられていなかった博物館学関係科目を「博物館概論」(2単位)、「博物館資料論」(2単位)、「博物館情報論」(1単位)、「博物館経営論」(1単位)に改めた。

本講義はその中の「博物館資料論」にあたる。「博物館資料論」では学芸員として必要な博物館資料の収集・保管・展示に関する基礎知識を身につけると共に博物館における資料保存の重要性とその難しさについて理解することを目指す。尚、講義はチーフの井上以外に下記の講師があたる。

- ・田村哲 (愛知県陶磁資料館)
- ・鮫島泰平 (乃村工藝社)
- ・松田陽 (ロンドン大学)
- ・増澤文武 (元興寺文化財研究所名誉研究員)

**【講義計画】**

1. 博物館資料と国際条約 (井上)
2. 博物館資料論 (田村)
3. 博物館展示論 (鮫島)
4. 博物館社会学 (松田)
5. 保存科学概論 (増澤)

**【成績評価の方法】**

原則として受講態度を含む出席点と試験。変更がある場合は学生に告知する。

**【教科書】**

全国大学博物館学協議会西日本部会 新しい博物館学 芙蓉書房出版

**【参考文献】**

『文化財のための保存科学』 京都造形芸術大学 編 (角川書店)

**【備考】**

インテグレーション科目

科 目 名			
博物館学各論 II			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	井 上 敏

**【講義概要・学習目標】**

博物館はその数の増大と共に社会からより質の高い役割を要求されてきている。そのような要求に応えるべく、1997年に博物館法施行規則が改正され、これまで「博物館学」(4単位)しか設けられていなかった博物館学関係科目を「博物館概論」(2単位)、「博物館資料論」(2単位)、「博物館情報論」(1単位)、「博物館経営論」(1単位)に改めた。本講義はその中の「博物館情報論」と「博物館経営論」にあたる。「博物館情報論」では新しい博物館像が模索される中で、IT分野の発展目覚ましい技術を博物館の活動に取り入れることの必要性と、その活用についての理解を図る。「博物館経営論」ではミュージアム・マネジメントという新しい学問分野の成果を取り入れながら、単なる博物館「運営」ではなく、より積極的な博物館「経営」ができる人材養成を目指す。また「博物館行財政論」では昨今、博物館界で話題として取り上げられる「独立行政法人制度」や「PFI」、「指定管理者制度」等にも触れ、博物館における制度の重要性と「経営」の難しさについての理解を図る。更に地震などの天災による博物館の被害についても、発生してから対応するのではなく、それ以前より周到な対策を講じておく必要性について「危機管理論」で論じる。またチルドレンミュージアム等の教育に力点を置いた博物館の存在など博物館の教育機能からみた多様な問題点については「博物館教育論」で触れる。尚、講義は井上以外に下記の講師があたる。

- ・小原千夏 (ハンズオンプランニング)
- ・山根啓史 (NTT西日本)
- ・宇田川繁正 (京都造形芸術大学)

**【講義計画】**

1. 博物館行財政論・経営論 (井上)
2. 博物館教育論 (小原)
3. 博物館情報論 (山根)
4. 危機管理論 (宇田川)

**【成績評価の方法】**

原則として受講態度を含む出席点と試験。変更がある場合は学生に告知する。

**【教科書】**

全国大学博物館学協議会西日本部会 新しい博物館学 芙蓉書房出版

**【参考文献】**

適宜指示する。

**【備考】**

インテグレーション科目

科 目 名			
博物館実習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	8月集中	1単位	巖 圭 介

**【講義概要・学習目標】**

博物館資料の取り扱いや展示に関する基本的なことを、学内、学外の施設で実習する。分野ごとに専門の教員が担当して指導する。予定している実習は「資料の取材と作成」「展示企画の立て方」「土器の復元」「考古遺物の実測」「文書資料の取り扱い」等である。実習の内容については追って発表するので注意すること。

**【講義計画】**

9月中旬に5日間実施する予定である。詳細な日程については追って発表するので注意すること。

**【成績評価の方法】**

全出席が原則である。主に実習ノートによって評価する。

**【教科書】**

なし

**【参考文献】**

実習中に資料を配付する。

**【備考】**

インテグレーション科目

科 目 名			
博物館実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	1単位	松 永 俊 男

**【講義概要・学習目標】**

省令科目「博物館実習」を、本学では「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」、および「博物館実習Ⅲ」に分割して開設する。「博物館実習Ⅱ」では、博物館の多様性を理解するためにさまざまな博物館において見学研修を行う。専任教員が引率し、見学後は見学館ごとにレポートを提出する。4館は両コース共通、4館はコース別に博物館を見学し、計8館の実習を持って習得する。

**【講義計画】**

両コース共通

- 1) 1-5 和泉市いずみの国歴史館（博物館類似施設）
- 2) 6-10 国立民族学博物館（大学共同利用機関）
- 3) 11-15 大阪歴史博物館（登録博物館）
- 4) 16-20 滋賀県立琵琶湖博物館（登録博物館）

産業文化コース

- 5) 21-25 交通科学博物館（博物館相当施設）
- 6) 26-30 なにわの海の時空館（博物館類似施設）
- 7) 31-35 UCCコーヒー博物館（博物館類似施設）
- 8) 36-40 大阪ガス・ガス科学館（博物館類似施設）

東洋文化コース

- 5) 21-25 和泉市久保惣記念美術館（登録博物館）
- 6) 26-30 大阪府立弥生文化博物館（登録博物館）
- 7) 31-35 堺市博物館（登録博物館）
- 8) 36-40 大阪城天守閣（博物館相当施設）

**【成績評価の方法】**

出席状況とレポートとを総合的に判断して評価する。

**【備考】**

インテグレーション科目

は  
行

科 目 名			
<b>博物館実習Ⅲ</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	1単位	松 永 俊 男

**【講義概要・学習目標】**

省令科目「博物館実習」を、本学では「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」、および「博物館実習Ⅲ」に分割して開設する。「博物館実習Ⅲ」では、実習先の博物館で5日程度の館務実習を行う。実習に先立って2回の事前学習を実施する。また、実習後に実習ノートとレポートを提出し、受講生全員による合同発表会を開催する。

**【講義計画】**

- 1-8 事前学習
- 9-32 博物館における実習
- 33-40 事後学習：合同発表会

実習館は、受講生ごとに別途、指示する。

**【成績評価の方法】**

実習館による評価、事前学習・事後学習への出席状況、およびレポートを総合的に判断して評価する。

**【備考】**

インテグレーション科目

科 目 名			
<b>比較経済体制論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	上 野 勝 男

**【講義概要・学習目標】**

「ソ連（ロシア）の経済ってどんな特徴あるの？」ときかれたら、少し勉強したひとなら、旧ソ連では企業活動の自由がなく命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地がなく商品はいつも不足していた。こうした「社会主義計画経済」が行き詰まってソ連は崩壊に至り、いまでは「体制転換」という「市場経済」＝資本主義のシステムへの移行がすすんでいる、と説明するかもしれない。

たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのは一見わかりやすい。でも、景気回復というが、派遣やフリーターは減らず、年金や生活保障の先行きも不透明、「格差社会」のように貧富の格差が拡大するという状況にある私たちの国日本も「市場経済」＝資本主義だと思つと、少し考え込んでしまいませんか。「はたしてこんな矛盾を抱えた資本主義が旧ソ連の転換の模範になるのか」と。

それに、「社会主義は、本来、資本主義の矛盾を克服した体制のはずなのに、なぜソ連があんなふうに崩壊したのか」「崩壊したのは社会主義だったからなのか」等々。この講義では、こうした疑問をじっくり考えることを目標にして、（1）社会主義とは本来どのようなものか、（2）わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、（3）旧ソ連の経済体制をどう考えるか、また崩壊後の「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。

**【講義計画】**

- 第1回 比較経済体制論で何を学ぶのか？
  - 第2回 第Ⅰ部 社会主義とは何か？
    - 1. 序論（1）
  - 第3回 1. 序論（2）
  - 第4回 2. 資本主義の本性とその矛盾（1）
  - 第5回 2. 資本主義の本性とその矛盾（2）
  - 第6回 2. 資本主義の本性とその矛盾（3）
  - 第7回 2. 資本主義の本性とその矛盾（4）
  - 第8回 2. 資本主義の本性とその矛盾（5）
  - 第9回 3. 社会主義的将来の本質的特徴（1）
  - 第10回 3. 社会主義的将来の本質的特徴（2）
  - 第11回 3. 社会主義的将来の本質的特徴（3）
  - 第12回 3. 社会主義的将来の本質的特徴（4）
  - 第13回 第Ⅱ部 ソ連経済史概説
    - －「社会主義経済」だったのか？－
    - 4. 検討の視点とロシアの20世紀
  - 第14回 5. 十月革命からネップの試みへ（1）
  - 第15回 5. 十月革命からネップの試みへ（2）
  - 第16回 5. 十月革命からネップの試みへ（3）
  - 第17回 5. 十月革命からネップの試みへ（4）
  - 第18回 6. ソ連型経済制度の成立（1）
  - 第19回 6. ソ連型経済制度の成立（2）
  - 第20回 6. ソ連型経済制度の成立（3）
  - 第21回 6. ソ連型経済制度の成立（4）
  - 第22回 6. ソ連型経済制度の成立（5）
  - 第23回 7. ソ連経済の構造と矛盾（1）
  - 第24回 7. ソ連経済の構造と矛盾（2）
  - 第25回 7. ソ連経済の構造と矛盾（3）
  - 第26回 7. ソ連経済の構造と矛盾（4）
  - 第27回 8. ソ連体制崩壊後の行方
  - 第28回 講義のまとめ
- 事情により一定の変更がなされる場合があります。

**【成績評価の方法】**

講義への出席をとくに重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。

**【教科書】**

使用しません。プリント配布に注意してください。また、随時参考文献も指示します。

科 目 名			
比較社会学論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	清 水 由 文

**【講義概要・学習目標】**

本講義では主に社会の基礎単位である家族の国際比較に限定するが、その前に各国の社会の概略を説明したうえで家族の比較をするという順序をとりたいと思います。家族はどここの社会にもあり、それが人間社会の基礎であるといえますが、各国の家族は現代ではグローバリゼーションのなかで核家族になりつつあります。しかし、それでも各国の伝統的性格を残しています。われわれ日本の現在の家族は崩壊しているとか、家族結合が弱くなってきたといわれています。それが事実なのかどうかを各国の家族との比較をとおして検証することが本講義の目的です。

**【講義計画】**

1. 各国の人口データの比較
2. マードックの核家族論とは
3. E・トッドの比較家族の考え方
4. ケンブリッジ・グループの家族、歴史人口学の考え方
5. グードの近代家族の考え方
6. ポストモダン家族の考え方
7. 日本の家族の歴史的变化
8. 日本の家族の現状—家族構成、家族規模
9. 少子化の問題
10. 日本の現代の結婚と離婚
11. 中国の社会の特徴
12. 中国の家族
13. 韓国の社会の特徴
14. 韓国の家族の特徴
15. タイの社会の特徴
16. タイの家族の特徴
17. イギリスの社会の特徴
18. イギリスの家族の特徴
19. アイルランドの社会の特徴
20. アイルランドの家族の特徴
21. 北欧の社会の特徴
22. 北欧の家族の特徴
23. アメリカの社会の特徴
24. アメリカの家族の特徴
25. カナダの社会の特徴
26. カナダの家族の特徴
27. アメリカにおけるアーミッシュの社会の特徴
28. まとめ

**【成績評価の方法】**

テスト（80%）、授業中の小レポート（20%）による総合評価。

**【教科書】**

とくに用いない。

**【参考文献】**

清水編『変容する世界の家族』、1999、ナカニシヤ出版

科 目 名			
比較文学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	岩 男 久 仁 子

**【講義概要・学習目標】**

西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物（特に日本のイソップ寓話）との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。

**【講義計画】**

- ・「イソップ寓話・伝記」と伝承系統
- ・ギリシアの作家とイソップ寓話
- ・近世以後のイソップ寓話
- ・日本に伝播したイソップ寓話
- ・古代ギリシアの世界観

以上のテーマを数回にわたって講義する。

**【成績評価の方法】**

レポート、学期末テスト、出席状況で評価する。また、毎回質問意見などを出席カードに書く。これも評価の対象である。

**【参考文献】**

『イソップ寓話の世界』 中務哲郎著 ちくま新書 600円

『イソップ寓話集』 中務哲郎訳 岩波文庫 700円

は  
行

科 目 名			
比較文化研究－猿鬼合戦・日米戦争漫画考			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	フィリップ・ビリングスリー Philip. Billingsley

#### 【講義概要・学習目標】

First of all, please note that the lectures will all be in ENGLISH! However, the English will be very easy to understand, so, even if you don't feel confident, why not give it a try? The topic will be "The Monkey-Demon War: Japanese and American Wartime Cartoons During the Pacific War". Here are the details (in Japanese!)

1990年に勃発した湾岸戦争のとき、当時のイラク大統領サダム・フセインを人間以下の存在として風刺する漫画がアメリカで流行った（詳しくは授業中に説明する）。これは特に珍しいことではなかった。戦争のときに自国民を掻き立て、兵隊たちをより無慈悲に戦わせるためには敵国民とその指導者を人間以下の存在に見せることは政府や軍当局にとって欠かせない手段であり、そのためにもっとも有効なメディアは漫画である。67年前に始まったあの太平洋戦争も例外ではなく、アメリカも日本も相手国を漫画で容赦なく風刺した。面白いのは、両国とも相手の人間性を否定しそれより劣った生き物として見せようとしたけれど、それぞれの国の漫画に登場した中心的な生き物は違っていた。アメリカの反日漫画の主人公は「猿」で、日本の反米漫画の場合は「鬼」が主役であった。つまり、戦争漫画で考える限り太平洋戦争は『猿蟹合戦』ではなく『猿鬼合戦』であった。

講義ではまず日本の漫画（特に政治的な風刺を行った漫画）の歴史を簡単に紹介する。続いて、太平洋戦争の背景を簡単に説明してからそれぞれの国の戦争漫画に登場する動物の検討をとおして日本とアメリカ（あるいは西洋の世界）それぞれの文化を比較しながら漫画と戦争との関わりを探る。このような試みによって漫画を新しい側面から見るだけでなく、忘れてはならないあの太平洋戦争を当事者の目とおして見ることができる。「目からうろこが落ちる」話と期待してください！

しかし、上にも書いたように講義は英語で行う。「難しい！」「無理！」と叫ぶ声がすでに聞こえてきている気がするが、受講する・しない判断を早まらないでください。通じない講義はやっても意味がないのでどの受講生もその気になれば聞き取れるようありとあらゆる工夫をする（ゆっくり喋ったり、キーワードを配ったり）から安心して受講してみてください。

#### 【講義計画】

1. コース内容の説明、授業の受け方、宿題の説明、受講生の責任に関する話。（第1回～第3回）
2. 日本の漫画や政治的風刺画の歴史について：平安時代から幕末・明治期まで（第4回～第8回）
3. 100年にわたる日米関係、アジア・アメリカ関係について：（第9回～第11回）
4. 太平洋前夜の東アジアの世界：（第12～第13回）
3. アメリカの戦争漫画とその背景について：なぜ「猿」なのか、アメリカの暴力の歴史、「白人の責務」など（第14回～第18回）
4. 日本の戦争漫画とその背景について：「鬼」の意味、「村落社会としての日本」、「明治維新の意味」、「アジアの盟主」の妄想、「桃太郎の登場」など（第19回～第26回）
5. 総括：漫画からその発信国について何が学べるのか？（第27～第28回）

#### 【成績評価の方法】

As this class is also designed to improve students' English hearing ability, attendance at every class is expected. (Special consideration will be given to final-year students busy with job-hunting.) There will also be homework in which students are expected to summarize the lectures and describe their impressions, and a test at the end of the course.

英語のヒアリング能力を磨くための授業だから毎回出席が大前提。（しかし、就職活動で忙しい受講生に配慮を払う。）そのほかに宿題（講義内容の要約など）もあり、エッセイ中心の期末テストもある。

#### 【参考文献】

John Dower: War Without Mercy: Race & Power in the Pacific

War (1986)

『コミック 日米摩擦 Not Just a Laughing Matter』(1992)

#### 【備考】

講義は英語で行う

科 目 名			
<b>比較文化研究－彫刻の世界</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	林 宏 作

**【講義概要・学習目標】**

すべての観察は比較ということの上で成り立っている。比較するという事は、その座標として、比較が行われるための一定のカテゴリーを前提とする。この講義では、エジプト、ギリシア、インド、東アジアなどにおける彫刻の特徴を概説し、比較芸術学の方法を明らかにしたい。

**【講義計画】**

1. ○ガイダンス ○授業計画について
2. 比較芸術学の課題
3. エジプト概説
4. エジプトの美術
5. エジプト彫刻の特徴
6. エジプト彫刻の永遠性
7. エジプトの作画法
8. ギリシア彫刻の起源
9. ギリシア彫刻の様式—幾何学様式とアルカイック
10. クラシック様式について
11. ヘレニズムについて
12. ビデオ観賞—ギリシアの彫刻
13. ローマ美術の基盤
14. ローマ彫刻とギリシア
15. ローマの浮彫と石棺
16. ビデオ観賞—ローマの彫刻
17. 中間試験
18. 彫刻の素材—乾漆
19. 彫刻の素材—塑
20. 彫刻の素材—銅
21. 彫刻の素材—木
22. ビデオ観賞—彫刻の素材
23. 仏像概説
24. 如来について
25. 菩薩について
26. 明王について
27. 天部について
28. 羅漢について
29. まとめ
30. 期末試験

**【成績評価の方法】**

出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。

**【参考文献】**

- 『近代芸術学の成立と課題』 吉岡健二郎著、創文社  
『芸術の世界』 井島 勉編、創文社  
『原色 日本の美術』 小学館  
『中国美術全集・彫塑編』 人民美術出版社

科 目 名			
<b>比較文明論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	串 田 久 治

**【講義概要・学習目標】**

二十世紀後半、西欧文明を見直して非西欧文明の価値を組み込む新しい関係概念と望ましい方向性を探求しようと、ヨーロッパに「比較文明」が誕生しました。知の総合を旨とする新しい学問です。

一方、西欧文明の普遍的価値を信じていたアジア諸国は、それが必ずしも世界に普遍的価値ではないことを知り、ようやくアジア独自の文明・文化の価値観に目を向け始めました。そして、2001年、国連はこの年を「文明間の対話年」とし、二十一世紀の第一ページを飾ったのです。

ところが現実世界は今なお「文明間の対立」が深く、それは今後ますます激化するであろうと予測する研究者もいます。

本講義は世界の文明・文化を単に「比較」して「普遍的な文化」を求めるものではありません。古代中国文明が提起する様々な問題（講義で紹介する）を足がかりにして、「人間の普遍性」を共に考える授業です。したがって、ただ聞いているだけの、黒板との一方通行の講義ではなく、学生諸君のプレゼンテーションとディスカッションなどによって、学生諸君が主体となる授業です。

**【講義計画】**

第一部 比較文明序説

1. The Perfect European should be……
2. 「スイカ」は何語？
3. 漢字の世界

第二部 文明の諸相

- 1 対の思考
- 2 理想的な生活
- 3 esprit エスプリ
- 4 言葉遊びの世界

第三部 「人間の普遍性」を求めて

- 1 価値観を疑う—「無用の用」
- 2 理念と現実
- 3 復讐の倫理
- 4 中華思想とユニラテラリズム

**【成績評価の方法】**

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

**【教科書】**

講義時に資料を配布する。

**【参考文献】**

- KUSHIDA'S WEB SITE <http://www1.odn.ne.jp/kushida>  
今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）  
ユルゲン・ハーバーマス著『法と正義のディスクール』（未来社）  
青木保著『異文化理解』（岩波新書）  
青木保著『多文化世界』（岩波新書）  
藤原帰一著『デモクラシーの帝国』（岩波新書）  
ノーム・チョムスキー著『メディア・コントロール』（集英社新書）  
梅棹忠夫著『文明の生態史観』（中公文庫）  
森谷正規著『文明の技術史観』（中公新書）  
サミュエル・ハンチントン著『文明の衝突』（集英社）  
伊藤俊太郎『比較文明』（東京大学出版会）  
串田久治『天安門落書』（講談社現代新書）

は  
行

科 目 名			
ビジネス情報利用			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	榎 本 光 世

**【講義概要・学習目標】**

オフィス・ソフトやインターネットの普及によって職場でも家庭でもPCは日常的に利用される不可欠な道具となって久しい。

しかし、オフィス・ソフトを職場や生活の日常に十分に役立てられるスキルを誰もが持っているわけではなく、ここに学習の必要性が生じる。

本講では実習形式で行われ、初歩的なPCの扱い方のおさらいからはじめ、中級レベル程度のスキルを得ることを目指したい。

学習目標は、

1. Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの代表的なオフィス・ソフトの基本的な使用法を習得する。
2. 特に、Excelのより高度な使用法を習得することに重点をおいている。

**【講義計画】**

1. 講義概要
2. パソコンの仕組みとWindowsの使い方
3. インターネットの利用
4. Wordの基本（その1）
5. Wordの基本（その2）
6. Excelの基本（その1）
7. Excelの基本（その2）
8. PowerPointの基本
9. Excelの中級1（セルの選択、シート、グラフ）
10. Excelの中級2（グラフ、書式、スタイル）
11. Excelの中級3（印刷、データフォーム、転記、集計）
12. Excelの中級4（シミュレーション）
13. Excelの中級5（関数）
14. Excelの中級6（マクロとVBA）

以上の内容は変更されることもある。

**【成績評価の方法】**

出席率、宿題の提出率、試験やレポートの成績、受講態度などによって総合的に評価する。

**【教科書】**

桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』を必ず持ってくる。それ以外には資料を配布する。

**【参考文献】**

開講時に指示する。

科 目 名			
ビジネス情報利用			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	榎 本 光 世

**【講義概要・学習目標】**

オフィス・ソフトやインターネットの普及によって職場でも家庭でもPCは日常的に利用される不可欠な道具となって久しい。

しかし、オフィス・ソフトを職場や生活の日常に十分に役立てられるスキルを誰もが持っているわけではなく、ここに学習の必要性が生じる。

本講では実習形式で行われ、初歩的なPCの扱い方のおさらいからはじめ、中級レベル程度のスキルを得ることを目指したい。

学習目標は、

1. Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの代表的なオフィス・ソフトの基本的な使用法を習得する。
2. 特に、Excelのより高度な使用法を習得することに重点をおいている。

**【講義計画】**

1. 講義概要
2. パソコンの仕組みとWindowsの使い方
3. インターネットの利用
4. Wordの基本（その1）
5. Wordの基本（その2）
6. Excelの基本（その1）
7. Excelの基本（その2）
8. PowerPointの基本
9. Excelの中級1（セルの選択、シート、グラフ）
10. Excelの中級2（グラフ、書式、スタイル）
11. Excelの中級3（印刷、データフォーム、転記、集計）
12. Excelの中級4（シミュレーション）
13. Excelの中級5（関数）
14. Excelの中級6（マクロとVBA）

以上の内容は変更されることもある。

**【成績評価の方法】**

出席率、宿題の提出率、試験やレポートの成績、受講態度などによって総合的に評価する。

**【教科書】**

桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』を必ず持ってくる。それ以外には資料を配布する。

**【参考文献】**

開講時に指示する。



科 目 名			
ビジネス情報利用			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期	2単位	大 嶋 耕 一

**【講義概要・学習目標】**

かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習、研究、仕事の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。

内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、データの加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。

入門的な内容を基本として授業計画を立てているが、学生個々の学習履歴（例えば「ワープロは基本的な内容を習得している」など）に応じて、アレンジができるように配慮する。また、より学習を深めるための課題も用意する。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス、テキストエディタを使ったキーボード操作
- 第2回 ファイルとフォルダの扱い、編集、クリップボードを利用した編集処理
- 第3回 ワープロ入門（1）・・・文書の書式設定と基本的な文字属性
- 第4回 Network入門（1）・・・LANとインターネット、E-mailの使い方
- 第5回 ワープロ入門（2）・・・作表、レイアウト、ビジネス文書
- 第6回 Network入門（2）・・・WWWの仕組み、WWWによる情報の検索
- 第7回 表計算入門（1）・・・文字・数値・式の入力、セルのコピー
- 第8回 表計算入門（2）・・・表の体裁を整える
- 第9回 グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携
- 第10回 クリップボードの仕組みとその活用
- 第11回～ 総合演習

**【成績評価の方法】**

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する（試験は行わない）。

**【教科書】**

必要な資料は、授業時にプリントで配布する。  
ただし、桃山学院大学『ユーザーズガイド』は各自手に入れておき、授業時には毎回持参すること。

**【参考文献】**

授業時に紹介する。

科 目 名			
ビジネス情報利用			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期	2単位	大 嶋 耕 一

**【講義概要・学習目標】**

かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習、研究、仕事の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。

内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、データの加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。

入門的な内容を基本として授業計画を立てているが、学生個々の学習履歴（例えば「ワープロは基本的な内容を習得している」など）に応じて、アレンジができるように配慮する。また、より学習を深めるための課題も用意する。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス、テキストエディタを使ったキーボード操作
- 第2回 ファイルとフォルダの扱い、編集、クリップボードを利用した編集処理
- 第3回 ワープロ入門（1）・・・文書の書式設定と基本的な文字属性
- 第4回 Network入門（1）・・・LANとインターネット、E-mailの使い方
- 第5回 ワープロ入門（2）・・・作表、レイアウト、ビジネス文書
- 第6回 Network入門（2）・・・WWWの仕組み、WWWによる情報の検索
- 第7回 表計算入門（1）・・・文字・数値・式の入力、セルのコピー
- 第8回 表計算入門（2）・・・表の体裁を整える
- 第9回 グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携
- 第10回 クリップボードの仕組みとその活用
- 第11回～ 総合演習

**【成績評価の方法】**

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する（試験は行わない）。

**【教科書】**

必要な資料は、授業時にプリントで配布する。  
ただし、桃山学院大学『ユーザーズガイド』は各自手に入れておき、授業時には毎回持参すること。

**【参考文献】**

授業時に紹介する。

は  
行

科 目 名			
<b>福祉科教育法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	林 陸 雄

**【講義概要・学習目標】**

この科目は高等学校福祉科免許の必須科目である。福祉科または総合選択科における福祉科目の授業を担当しうるための基本的な理論と技法について学習する。

学習内容は教育目標、教育内容、教育指導法等について系統的に理解するとともに、実際の授業に必要な指導計画、教材研究、授業設計、評価、改善等についての理論と技法を修得する。

授業方法は、講義、演習、模擬授業等を組み合わせて展開する。

**【講義計画】**

1. 福祉科教育の意義
2. 福祉科の学習指導
3. 福祉科の教育課程
4. 福祉科の教材研究と評価
5. 福祉科授業の方法と社会福祉の理解
6. 福祉科教育法の実際 1～5
7. 福祉科模擬授業 1～5
8. 福祉教育の歴史
9. 福祉科教諭の資質

**【成績評価の方法】**

平常点及び定期試験の結果を総合して評価する。  
出席回数が3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

**【教科書】**

硯川真旬・佐藤豊道・柿本誠『福祉科教育法』ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

適宜、授業中に紹介する。

科 目 名			
<b>福祉事情研究</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	梓 川 一

**【講義概要・学習目標】**

1. 生きることを感じあい、考えあえる講義を目指す。そのためにできる限り、演習形式を取り入れる。

2. 人間や社会について広くテーマを設定する。社会における多種多様な問題を取り上げる。主に医療福祉の分野から広く深く考察をする。

3. 講義ではコミュニケーションを重視し、ディスカッションやディベートを取り入れて進める。

**【講義計画】**

1. 生活史の意味（重度障害者、認知症高齢者、難病者、死に逝く人の人生の物語を考える）
2. コミュニケーションの意味（沈黙の意味、事例から現実的にケースワーク、グループワークを考える）
3. 障害をもつこと（権利擁護、障害者の権利）
4. 社会福祉の理論の検討
5. 偏見と差別、貧困、格差社会
6. 自己決定の検討（主体的自己決定とその前提条件）
7. 犯罪者や非行少年の育ち・環境
8. 障害者と性、高齢者と性
9. 医療福祉の実践課題（難病者の生活状況、ALS患者の自己決定、野宿生活者と結核問題、公害病や被爆者の生活史など）
10. 語りと傾聴、共感の意味
11. 死の準備教育（死に逝く人の心、死の受容、社会福祉の役割）
12. 遊びの意味（遊びと仕事、遊びと社会福祉、遊びと癒し、アートの意味）
13. 人間の価値と尊厳
14. 社会福祉の実践理論

**【成績評価の方法】**

前期と後期、2回の定期試験に基づいて評価する。

**【参考文献】**

牧洋子他編著『転換期の医療福祉』せせらぎ出版、2005年。

科 目 名			
<b>福祉職入門</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	石 田 易 司

**【講義概要・学習目標】**

就職先としての福祉現場を理解し、大学での勉強の目標を定めるために、現場で働く人に交代で来てもらい、話を聞き、みんなでその仕事について議論します。

**【講義計画】**

1 福祉の仕事 2 福祉の職業と就職状況 3 高齢者の施設 4 高齢者の地域福祉 5 障害者の施設 6 障害者の地域生活 7 児童養護施設 8 社会福祉協議会 9 NPO/NGO 10 精神保健福祉 11 医療福祉 12 障害者自立生活センター 13 公務員 14 その他の仕事

**【成績評価の方法】**

出席数と毎回のレポート

**【教科書】**

各講師唐提出資料を冊子にまとめます

**【参考文献】**

特になし

**【備考】**

インテグレーション科目  
<08SW生>のみ対象

科 目 名			
<b>フランス語 I a</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	1単位	横 道 朝 子

**【講義概要・学習目標】**

会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

**【講義計画】**

会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生のほうからも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

**【成績評価の方法】**

出席、平常点と期末試験で評価します。  
毎回小テストや小レポートを行います。

**【教科書】**

プリントを使用します。

**【参考文献】**

電子辞書は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。

**【備考】**

<02~07生>は読替一覧参照の事。

は  
行

科 目 名			
フランス語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	1単位	アニー ヤマサキ

**【講義概要・学習目標】**

会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

**【講義計画】**

会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生のほうからも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

**【成績評価の方法】**

出席、平常点と期末試験で評価します。  
毎回小テストや小レポートを行います。

**【教科書】**

プリントを使用します。

**【参考文献】**

電子辞書は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科 目 名			
フランス語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	1単位	エディルイス バンドロム Eddylouis Vandrom

**【講義概要・学習目標】**

フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

最も大切なのはクラスの人たちと実際にコミュニケーション活動をする事です。たくさんの異なる相手と共同作業をすることによって、さまざまなコミュニケーションの状況に対応する訓練ができます。

ことばがつかえるようになるためには、どんどん使ってみることが一番です。今年の教科書ではたくさんのフランス語に接し、たくさん話したり書いたりします。

これからの1年間、フランス語に時間とエネルギーを投入する以上は、使えるフランス語を身につけようではありませんか。積極的に参加して、授業時間を最大限に活用しましょう。自分から進んで、楽しんですることほど、身につけやすいものです。気楽に、愉快地にやってください。

**【講義計画】**

1. Leçon 1 道で
2. Leçon 2 カフェで
3. Leçon 3 教室で
4. Leçon 4 駅で
5. Leçon 5 カフェテリアで
6. Leçon 6 大学の食堂で
7. Leçon 7 映画
8. Leçon 8 夕食
9. Leçon 9 ビエールとジャクの家で
10. Leçon 10 ビストロで
11. Leçon 11 授業の間で
12. Leçon 12 庭で
13. Leçon 13 郵便局で
14. Leçon 14 電話で
15. Leçon 15 旅行代理で
16. Leçon 16 キャンパスで

**【成績評価の方法】**

1. 評価方法は前後の試験（1/3+1/3）及び 出席/平常点（1/3）の総合評価とする
2. 小テストの成績を総合的に評価する

**【教科書】**

Numata 他 Le francais au quotidien ASAHI

**【参考文献】**

(例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001・  
Le Dico 現代フランス語辞典(白水社)など)

**【備考】**

授業時はテキストと仏日辞書を必携のこと  
<02～07生>は読替一覧参照の事。

科 目 名			
フランス語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	1単位	本 多 雄 一 郎

**【講義概要・学習目標】**

この授業では、フランス語の「話す」「聞く」「読む」というすべての面に重点をおき、それに必要な基礎的な文法を踏まえながら、ビデオ教材を併用して口頭による会話表現の訓練や読解の練習を行っていく。そしてフランス語の基本的な運用力を養成していく。

**【講義計画】**

- (1) フランス語のアルファベと発音の特徴
- (2) フランス語の綴り字の読み方
- (3) フランス語の単語や挨拶の発音練習
- (4) 自分の身分・国籍を言う
- (5) avoirの活用（年齢の表現）
- (6) 名詞と冠詞（人や物を紹介する）
- (7) 形容詞の性・数（人の描写）
- (8) 第一群規則動詞（自分の住所や趣味を言う）
- (9) 疑問詞（相手のことを尋ねる）
- (10) 形容詞（人や物の描写）
- (11) 否定文
- (12) allerとvenir（行く・来るの表現）
- (13) 春学期の総括

**【成績評価の方法】**

定期試験と小テスト、平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

**【教科書】**

藤田裕二 新・彼女は食いしん坊！1 朝日出版社

**【参考文献】**

『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科 目 名			
フランス語 II a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	1単位	横 道 朝 子

**【講義概要・学習目標】**

会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

**【講義計画】**

会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生のほうからも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

**【成績評価の方法】**

出席、平常点と期末試験で評価します。毎回小テストや小レポートを行います。

**【教科書】**

プリントを使用します。

**【参考文献】**

電子辞書は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

は  
行

科 目 名			
フランス語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	1単位	アニー ヤマサキ

**【講義概要・学習目標】**

会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

**【講義計画】**

会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生のほうからも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

**【成績評価の方法】**

出席、平常点と期末試験で評価します。毎回小テストや小レポートを行います。

**【教科書】**

プリントを使用します。

**【参考文献】**

電子辞書は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科 目 名			
フランス語Ⅱ a <02～07生対象>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	横 道 朝 子

**【講義概要・学習目標】**

勉強の仕方は一年目と同じですが、普通のフランス人が、今読んでいる様々な書物や雑誌、新聞から色々なテーマの文章を集め、その内容を理解しながら、それに関して会話であつかえるように、フランス語の実力を養います。

**【講義計画】**

現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるように、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを応用した基本的な、様々な表現法以外に、さらに、標準的フランス語の読み書き、会話に必要で役立つ範囲にひろげて学習します。辞書は、常にクラスに持参すること。

**【成績評価の方法】**

出席、平常点と期末試験で評価します。毎回、小テストや小レポートを行います。

**【教科書】**

プリントを使用します。

**【参考文献】**

電子辞書は「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。

科 目 名			
フランス語Ⅱ a <02~07生対象>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	アニー ヤマサキ

**【講義概要・学習目標】**

勉強の仕方は一年目と同じですが、普通のフランス人が、今読んでいいる様々な書物や雑誌、新聞から色々なテーマの文章を集め、その内容を理解しながら、それに関して会話であつかえるように、フランス語の実力を養います。

**【講義計画】**

現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるように、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを応用した基本的な、様々な表現法以外に、さらに、標準的フランス語の読み書き、会話に必要で役立つ範囲にひろげて学習します。辞書は、常にクラスに持参すること。

**【成績評価の方法】**

出席、平常点と期末試験で評価します。  
毎回、小テストや小レポートを行います。

**【教科書】**

プリントを使用します。

**【参考文献】**

電子辞書は「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。

科 目 名			
フランス語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	1単位	エディルイス バンドロム Eddylouis Vandrom

**【講義概要・学習目標】**

フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

映画、ヴァカンス、買い物など身近なテーマに分けた会話を練習しながら、日本での自分の生活をフランス語で説明できるようにしたり、言葉を学びながらフランス人の生活ぶりをのぞいて、フランスの生活を体験できるようにします。

やさしいフランス語を実際の生活の場面に当てはめて練習しながら、自然に覚えていきます。笑いながら、楽しく、大きな声で、積極的に授業に参加して下さい。そうすれば心も身体もほぐれ、ストレスから解放されることでしょう。

**【講義計画】**

1. 授業の紹介と復習
2. 大学で (複合過去)
3. カフェで (代名動詞)
4. ホテルで (中性代名詞)
5. 招待された席で (単純未来)
6. 駅で (半過去)
7. はがき (関係代名詞)
8. キャンパスで (直接話法と間接話法)
9. 友達の家で (接続詞)
10. カフェテリアで (条件法)
11. 診療所で (接続法)
12. 電話で (現在分詞と過去分詞)
13. オルセー美術館で (単純過去)

**【成績評価の方法】**

1. 評価方法は前後の試験 (1/3+1/3) 及び 出席/平常点 (1/3) の総合評価とする
2. 小テストの成績を総合的に評価する

**【教科書】**

Numata 他 Le francais au quotidien 2 ASAHI

**【参考文献】**

(例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001・Le Dico 現代フランス語辞典) (白水社) など)

**【備考】**

授業時はテキストと仏日辞書を必携のこと  
<02~07生>は読替一覧参照の事。

は  
行

科 目 名			
フランス語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	1単位	本 多 雄一郎

**【講義概要・学習目標】**

この授業では、春学期に続いて、フランス語の「話す」「聞く」「読む」というすべての面に重点をおき、それに必要な基礎的な文法を踏まえながら、ビデオ教材を併用して口頭による会話表現の訓練や読解の練習を行っていく。そしてフランス語の基本的な運用力を養成していく。

**【講義計画】**

- (1) 疑問代名詞・疑問副詞（誰？何？）
- (2) 部分冠詞・数量の表現（食べる・飲む表現）
- (3) 疑問形容詞（どんな？）
- (4) 命令形
- (5) 非人称の構文（天候・時刻の表現）
- (6) 指示代名詞（買い物表現）
- (7) 比較・最上級の表現
- (8) 補語人称代名詞（人の紹介）
- (9) 数詞（値段の表現）
- (10) 代名動詞（1）（一日の生活の表現）
- (11) 代名動詞（2）（一日の生活の表現）
- (12) 複合過去（過去の出来事の表現）
- (13) 秋学期の総括

**【成績評価の方法】**

定期試験と小テスト・平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

**【教科書】**

藤田裕二 新・彼女は食いしん坊！1 朝日出版社

**【参考文献】**

『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科 目 名			
フランス語Ⅱ b <02～07生対象>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	エディルイス バンドロム Eddylouis Vandrom

**【講義概要・学習目標】**

フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

映画、ヴァカンス、買い物など身近なテーマに分けた会話を練習しながら、日本での自分の生活をフランス語で説明できるようにしたり、言葉を学びながらフランス人の生活ぶりをのぞいて、フランスの生活を体験できるようにします。

やさしいフランス語を実際の生活の場面に当てはめて練習しながら、自然に覚えていきます。笑いながら、楽しく、大きな声で、積極的に授業に参加して下さい。そうすれば心も身体もほぐれ、ストレスから解放されることでしょう。

**【講義計画】**

1. 授業の紹介と復習
2. 大学で（複合過去）
3. カフェで（代名動詞）
4. ホテルで（中性代名詞）
5. 招待された席で（単純未来）
6. 駅で（半過去）
7. はがき（関係代名詞）
8. キャンパスで（直接話法と間接話法）
9. 友達の家で（接続詞）
10. カフェテリアで（条件法）
11. 診療所で（接続法）
12. 電話で（現在分詞と過去分詞）
13. オルセー美術館で（単純過去）

**【成績評価の方法】**

1. 評価方法は前後の試験（1/3+1/3）及び 出席／平常点（1/3）の総合評価とする
2. 小テストの成績を総合的に評価する

**【教科書】**

Numata 他 Le francais au quotidien 2 ASAHI

**【参考文献】**

（例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001・Le Dico 現代フランス語辞典」（白水社）など）

**【備考】**

授業時はテキストと仏日辞書を必携のこと



科 目 名			
フランス語Ⅱ b <02~07生対象>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	本 多 雄一郎

**【講義概要・学習目標】**

この授業では、フランス語の基本的な文法の続きを学ぶことで、フランス語の全体像を把握していくとともに、より広範な運用力を身につけることを目的とする。なお授業中の作業のために辞書を必ず携帯すること。

**【講義計画】**

(前期)

- (1) 発音やつづり字の読み方
- (2) 複合過去 (過去の経験の表現)
- (3) 代名動詞 (一日の生活の表現)
- (4) 代名動詞の複合過去 (過去の生活の表現)
- (5) 半過去と大過去 (過去の状況や習慣の表現)
- (6) 複合過去と半過去の関係
- (7) 関係代名詞 (人や物の詳しい表現)
- (8) 命令形 (人に依頼する)
- (9) 序数 (物の順序の表現)
- (10) 現在分詞 (現在分詞による人や物の描写)
- (11) ジェロンディフ (分詞構文の表現)
- (12) 疑問代名詞 (どれが良いか尋ねる)
- (13) 春学期の総括

(後期)

- (1) 受動態 (尊敬される、知られている、など)
- (2) 最上級 (一番の物を言う)
- (3) 強調構文 (人や物を強調する表現)
- (4) 中性代名詞 (1) (en, y, leの用法)
- (5) 中性代名詞 (2) (en, y, leの用法)
- (6) 条件法 (1) (仮定の表現)
- (7) 条件法 (2) (仮定の表現)
- (8) 接続法 (1) (自分の願望や義務の表現)
- (9) 接続法 (1) (自分の願望や義務の表現)
- (10) 間接話法 (人の言葉を伝える表現)
- (11) 時制の一致
- (12) 時や場所を示す表現
- (13) 秋学期の総括

**【成績評価の方法】**

定期試験・小テストと平常点 (暗唱や授業中の発表) で総合評価する。

**【教科書】**

藤田裕二 彼女は食いしん坊! 2 朝日出版社

**【参考文献】**

『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

科 目 名			
プレゼンテーション入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	中 井 紀 明
02	秋学期		取 屋 淳 子
03	秋学期		蓮 田 隆 志
04	秋学期		日 下 隆 平
05	秋学期		片 平 幸
06	秋学期		岩 男 久仁子
07	秋学期		岩 男 久仁子
08	秋学期		境 真理子
09	秋学期		大 野 順 子
10	秋学期		大 野 啓
11	秋学期		取 屋 淳 子
12	秋学期		González Darío
13	秋学期		アニー ヤマサキ

**【講義概要・学習目標】**

目的: この授業では自分の考えを有効に相手に伝えることを学びます。そのためには、整然とした表現力に富む文章を書くこととともに、その表現方法を身につけることが大切なことです。昨今では、ごく当たり前になったワープロソフトによる文書作成に加えて、発表方法についてはプレゼンテーション・ソフトがよく利用されつつあります。発表内容が大切なのは当然のことですが、その方法によっても受け取り側の印象は大きく異なってきます。この授業は、大学に入学してきたばかりの皆さんが「書く」力を磨き、最終的にはそれをパワーポイントなどで発表できるようにすることを目的としています。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ワード文書作成講習 (ガイダンス)
- 第3回 ワード文書作成講習 (社説などの要約など)
- 第4回 ワード文書作成講習 (任意のテーマ設定)
- 第5回 発表と講評
- 第6回 発表と講評
- 第7回 パワーポイント講習
- 第8回 スライド作成 1
- 第9回 スライド作成 2
- 第10回 スライド作成 3
- 第11回 プレゼンテーション
- 第12回 プレゼンテーション
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 予備日
- 第15回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席50%、課題報告2回50%を目安とする。

**【教科書】**

特に使用しません。

**【参考文献】**

適宜必要な際には指示いたします。

**【備考】**

<08L生>のみ対象

は  
行

科 目 名			
プログラミング			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	榎 本 光 世

#### 【講義概要・学習目標】

プロフェッショナルもしくはアマチュアのプログラマー以外の人々にとってプログラミングのスキルを発揮できる状況はほとんどない。しかし、プログラミングの体験は有意義である。ソフトウェアには不具合（いわゆるバグ）が付き物なのは何故か、また、要求要件を満たすだけでは何故不十分なのかを実感することができる。また、プログラミングは無味乾燥な作業ではなく、パズルを解いたり、それを作り出したりするのと似た楽しさがあり、ほとんどの人は時間を忘れてプログラミング没頭する。

本講の実習ではVisual Basic（以下VBと略称）を用いる。これは統合開発環境で、編集ソフト、人間が書いた（プログラム・）コードをPCが実行できるファイルにするソフト、そしてプログラムを実行しながら調べるソフトなどが含まれる。今日、簡単に入手できるプログラミング言語ソフトの中でVBはおそらく最も理解し易いものだろうが、VBの先祖であり、かつてMS-DOSの時代にPCにバンドルされていたシンプルな言語のBASICと比べると、大部分異なり、より複雑で、しかも実用的である。また、その一方でVBはマウスを使った操作でウィンドウにボタンやテキストボックスなどを配置でき、直感的に理解しやすいという側面もある。

本講は講義形式ではなく実習形式で行われる。体系的に知識を得ることよりも試行錯誤を通じてプログラムを作り上げることに重点が置かれ、同時に自ら問題を作り、解き、さらに改良するといった、創意工夫を凝らすことが求められる。さながら作品を仕上げるアートの実践のようでもある。

本講を受講するに際してプログラミングに対する予備知識は全く不要で、未経験者を対象にしている。しかし、この時間内で初歩的なPCの使い方を説明している時間はないので習得済みであることが前提となる。

本講の学習目標は、プログラミングを体験し、初歩的なプログラムを作成できるようになることである。

#### 【講義計画】

1. 講義概要と受講上の注意とVB事始め（その1）
2. VB事始め（その2）
3. ボタンとMsgBox
4. 算術演算
5. キーボードからのデータの受け取り
6. 判断分岐（その1）
7. 判断分岐（その2）
8. 繰り返し処理（その1）
9. 繰り返し処理（その2）
10. 変数の配列
11. 自由課題プログラムの作成準備
12. 自由課題プログラムの作成
13. 自由課題プログラムの作成フォロー
14. VBA入門

以上の内容は変更される場合もある。

#### 【成績評価の方法】

出席率、宿題の提出率、自由課題プログラム、受講態度などによって総合的に評価する。自由課題プログラムは必ず提出しなければならない。

#### 【教科書】

毎時間資料を数枚配布するので、A4用のアルバムのようなバインダーを必ず用意すること。

#### 【参考文献】

開講時に指示する。

科 目 名			
プログラミング			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	榎 本 光 世

#### 【講義概要・学習目標】

プロフェッショナルもしくはアマチュアのプログラマー以外の人々にとってプログラミングのスキルを発揮できる状況はほとんどない。しかし、プログラミングの体験は有意義である。ソフトウェアには不具合（いわゆるバグ）が付き物なのは何故か、また、要求要件を満たすだけでは何故不十分なのかを実感することができる。また、プログラミングは無味乾燥な作業ではなく、パズルを解いたり、それを作り出したりするのと似た楽しさがあり、ほとんどの人は時間を忘れてプログラミング没頭する。

本講の実習ではVisual Basic（以下VBと略称）を用いる。これは統合開発環境で、編集ソフト、人間が書いた（プログラム・）コードをPCが実行できるファイルにするソフト、そしてプログラムを実行しながら調べるソフトなどが含まれる。今日、簡単に入手できるプログラミング言語ソフトの中でVBはおそらく最も理解し易いものだろうが、VBの先祖であり、かつてMS-DOSの時代にPCにバンドルされていたシンプルな言語のBASICと比べると、大部分異なり、より複雑で、しかも実用的である。また、その一方でVBはマウスを使った操作でウィンドウにボタンやテキストボックスなどを配置でき、直感的に理解しやすいという側面もある。

本講は講義形式ではなく実習形式で行われる。体系的に知識を得ることよりも試行錯誤を通じてプログラムを作り上げることに重点が置かれ、同時に自ら問題を作り、解き、さらに改良するといった、創意工夫を凝らすことが求められる。さながら作品を仕上げるアートの実践のようでもある。

本講を受講するに際してプログラミングに対する予備知識は全く不要で、未経験者を対象にしている。しかし、この時間内で初歩的なPCの使い方を説明している時間はないので習得済みであることが前提となる。

本講の学習目標は、プログラミングを体験し、初歩的なプログラムを作成できるようになることである。

#### 【講義計画】

1. 講義概要と受講上の注意とVB事始め（その1）
2. VB事始め（その2）
3. ボタンとMsgBox
4. 算術演算
5. キーボードからのデータの受け取り
6. 判断分岐（その1）
7. 判断分岐（その2）
8. 繰り返し処理（その1）
9. 繰り返し処理（その2）
10. 変数の配列
11. 自由課題プログラムの作成準備
12. 自由課題プログラムの作成
13. 自由課題プログラムの作成フォロー
14. VBA入門

以上の内容は変更される場合もある。

#### 【成績評価の方法】

出席率、宿題の提出率、自由課題プログラム、受講態度などによって総合的に評価する。自由課題プログラムは必ず提出しなければならない。

#### 【教科書】

毎時間資料を数枚配布するので、A4用のアルバムのようなバインダーを必ず用意すること。

#### 【参考文献】

開講時に指示する。

科目名			
プログラミング			
クラス	講義区分	単位数	担当者
03	秋学期	2単位	大嶋 耕一

**【講義概要・学習目標】**

プログラミング言語にはさまざまなものがあるが、本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。

パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義ではWindows用にMicrosoft社が独自に言語拡張したVisual Basicを用いることにするが、これは初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。この点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

**【講義計画】**

第1回 ガイダンス、BASIC言語とは

第2回以後（自修方式）

◆必須修得内容（進度順）

以下は全員が学習し、指示された提出物を提出する。

1. Visual Basicによるプログラム作成の実例  
処理系の起動・終了、簡単なインターフェースの設計
2. 書式、変数と代入ステートメント、  
オブジェクトとプロパティ
3. 文字列、式の表現（演算子・関数）、  
ステートメントの実行順序
4. プログラムのコンパイル、  
実行可能プログラムとショートカット
5. プログラムと制御構造  
選択構造（ifステートメント）  
反復構造（whileステートメント）

◆追加修得内容（以下は、進度に応じて追加的に学習）

6. 問題解決のためのアルゴリズム
7. ファイル入出力、サブプログラム

**【成績評価の方法】**

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する。  
（試験は実施しない）

**【教科書】**

プリントでテキストを配布する。

**【参考文献】**

ステップバイステップで学ぶには、  
薄金宏之進「Microsoft Visual Basic.NET 入門」、日経BPソフトプレス、2003  
参照用には、  
山田 健一「クイック・パワー・リファレンス VisualBasic.NET機能引きハンドブック」、ナツメ社、2003

科目名			
プログラミング			
クラス	講義区分	単位数	担当者
04	秋学期	2単位	大嶋 耕一

**【講義概要・学習目標】**

プログラミング言語にはさまざまなものがあるが、本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。

パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義ではWindows用にMicrosoft社が独自に言語拡張したVisual Basicを用いることにするが、これは初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。この点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

**【講義計画】**

第1回 ガイダンス、BASIC言語とは

第2回以後（自修方式）

◆必須修得内容（進度順）

以下は全員が学習し、指示された提出物を提出する。

1. Visual Basicによるプログラム作成の実例  
処理系の起動・終了、簡単なインターフェースの設計
2. 書式、変数と代入ステートメント、  
オブジェクトとプロパティ
3. 文字列、式の表現（演算子・関数）、  
ステートメントの実行順序
4. プログラムのコンパイル、  
実行可能プログラムとショートカット
5. プログラムと制御構造  
選択構造（ifステートメント）  
反復構造（whileステートメント）

◆追加修得内容（以下は、進度に応じて追加的に学習）

6. 問題解決のためのアルゴリズム
7. ファイル入出力、サブプログラム

**【成績評価の方法】**

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する。  
（試験は実施しない）

**【教科書】**

プリントでテキストを配布する。

**【参考文献】**

ステップバイステップで学ぶには、  
薄金宏之進「Microsoft Visual Basic.NET 入門」、日経BPソフトプレス、2003  
参照用には、  
山田 健一「クイック・パワー・リファレンス VisualBasic.NET機能引きハンドブック」、ナツメ社、2003

は  
行

科 目 名			
文学－西洋 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	国 松 夏 紀

**【講義概要・学習目標】**

ヨーロッパの文学を交流史的な観点から概観します。担当者の専門はロシア文学ですが、ロシア文学は他のヨーロッパ諸国文学の影響下に成立し、そしてまた影響を与えていますし、そういった事情はロシアに限らないからです。ロシア文学にかたよることなく、様々な具体的作品に言及し、豊富なヨーロッパ文学への読書案内を目指します。

**【講義計画】**

便宜的にオーソドックスな時代的枠組みに従って講義を進めます。

I. ヨーロッパ文学の源泉

第1回 講義概要オリエンテーション／文学とは何か？

第2回 文学のジャンル／ヨーロッパの特徴

第3回 ヨーロッパ文学のアウトライン

第4回 ヨーロッパ文学の諸源泉

II. ルネッサンス (14、15、16世紀)

第5回 中世からルネサンスへ／ダンテとボッカチオ

第6回 ルネサンスとは何か？／イタリア・ルネサンスの精華

第7回 イタリア・ルネサンスの波及

第8回 シェイクスピアとセルバンテス／『ハムレット』と『ドン・キホーテ』

III. 古典主義 (17～18世紀)

第9回 古典主義の定義と時代区分

第10回 フランス古典主義演劇／コルネイユ『ル・シッド』

第11回 ラシーヌ『アンドロマック』、『フェードル』

第12回 モリエール『タルチュフ』、『ミザントロープ』

第13回 イギリスの古典主義／反シェイクスピア

第14回 ドイツ、ロシアの古典主義

IV. 啓蒙主義 (18世紀)

第15回 英仏関係を中心に／モンテスキュー、ヴォルテール

第16回 デイドロと『百科全書』及びリチャードソンの書簡体小説

第17回 ジャン・ジャック・ルソーの仕事

V. ロマン主義 (18～19世紀)

第18回 ロマン主義の源泉／イギリスの詩・散文・『オシアン』

第19回 イギリスからドイツへ／ハーマン・ヘルダー・ゲーテ・シラー

第20回 ドイツからフランスへ／スタール夫人『ドイツ論』

第21回 独仏からロシアへ／プーシキン『スペードの女王』

VI. リアリズム (19～20世紀)

第22回 小説の時代 フランス／バルザック、スタンダール、フローベール

第23回 イギリス／オースティン、ディケンズ、ブロンテ姉妹

第24回 ロシア／ゴーゴリ、ツルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイ

VII. 象徴主義と《世紀末》

第25回 新ロマン主義／散文リアリズムから詩の時代へ

第26回 「後進」ロシア文化（文学）の「逆襲」／ラテンアメリカ文学の「逆襲」

VIII. 《両大戦間》・20世紀

第27回 散文リアリズムの最終実験／プーレスト、ジョイス、ムジールその他

第28回 21世紀文学の可能性へ向けて

**【成績評価の方法】**

春学期末レポートにより評価します。1回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。出席重視、遅刻・私語厳禁。

**【教科書】**

特に定めません。

**【参考文献】**

ヨーロッパ文学に関する参考文献は、枚挙に暇がありません。教室でその都度掲げることになります。

科 目 名			
文学－西洋 III			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	高 田 里 恵 子

**【講義概要・学習目標】**

第一のテーマは、われわれが現在、「文学」と呼んでいるものが西洋においていつ誕生したか、ということである。それを、ドイツ文学の歴史を辿りながら考えていきたい。

第二のテーマとしては、ナチス時代のことが、文学や映像にどのように描かれているか、ということを取りあげる。このテーマを通して、日本の過去の問題も考えていきたい。

**【講義計画】**

1. 天才美学の誕生——文学的感動とは何か

2. ロマン主義文学と恋愛——『若きウエルテルの悩み』

3. 世紀転換期と男らしさの変容

4. 映画のなかにあらわれたヒトラー

**【成績評価の方法】**

最後に期末試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。

**【教科書】**

教書は使用しない。

**【参考文献】**

藤本淳雄他著『ドイツ文学史』（東京大学出版会）

そのほか、授業中に指示する。

科 目 名			
文学－日本Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	深 澤 徹

#### 【講義概要・学習目標】

「文学」の講義は、日本と諸外国に分かれて、複数開講されている。「日本Ⅱ」と副題されているように、それらのなかで本講義は、前近代の日本の文学をあつかう。

中学・高校の古文の教科書でなじみのある、平安時代の古典テキスト、中でも『源氏物語』を中心に題材として取り上げる。しかし中学高校の時のように、細かい字句の解釈や、文法にこだわるのではなく、それらのテキストが書かれた時代的・文化的背景に注目していくなかで、楽しく読み味わうことを心がける。その結果として、文学テキストを通して、時代の文化の総体を理解することに努める。

ちなみに本講義の主題は、秋学期集中で行なう「日本文化論」と緊密に連動している。東アジア中華文化圏に属しながら、そこから離れて独自の歴史を歩み始める、平安時代後期の日本の文化的特性（その頂点に『源氏物語』が位置する）を、カナ文化の創出過程とからめて論じていく。

あつかうテキストは古典古文だが、そのつど現代語訳しながら講義を進めていくので、歴史や古典が苦手だという学生の、積極的な受講を期待する。もちろん古典が好きで歴史も好きという学生は、大歓迎である。

#### 【講義計画】

1. イントロダクション（『源氏物語』論への階梯）
2. 戦後の国民的アイデンティティ創出運動について
3. オリエンタリズムの呪縛とそこからの解放について
4. 「日本文化論」ブームの時代的・文化的背景について
5. 起源としての「平安文学」発見と、「中世文学」の隠蔽
6. 自己言及（セルフ・レファランス）について
7. 時間把握の方法としての暦の変遷について
8. 宇多・醍醐朝の文化について
9. 『古今和歌集』の編纂意図について
10. 自己言及テキストとしての「日記文学」
11. 『土佐日記』成立の歴史的・文化的背景
12. 『かげろう日記』成立の歴史的・文化的背景
13. 教場にて中間試験
14. 答案返却と講評
15. 後半の講義へ向けてのイントロダクション
16. 古代律令体制の空洞化と、都市平安京の生活文化の成熟
17. 『新猿楽記』における社会学的まなざしについて
18. 宮廷女房という職業
19. 宮廷女房日記としての『紫式部日記』
20. 『源氏物語』と『紫式部日記』との「因」と「地」の関係
21. 『源氏物語』前史の物語について
22. 『源氏物語』成立の歴史的・文化的背景について
23. 『源氏物語』の語り手の位置について
24. 『源氏物語』の語りにおける多声性について
25. 『源氏物語』における王権の論理について
26. 『源氏物語』における人形愛のモチーフについて
27. 『源氏物語』における仏教的救済の不可能性について
28. まとめ

#### 【成績評価の方法】

記述式のテストを2回（1回目は教場にて中間試験を、2回目は期間内の正規試験として）行ない、その総合点で評価する。3回に一度くらいの頻度で出席を採るが、試験の評価の低いものに関しては、その出席回数を考慮する場合がある。

#### 【教科書】

特に定めない。

#### 【参考文献】

参考文献として、深澤著『中世神話の煉丹術』（人文書院 1994）、同『自己言及テキストの系譜学』（森話社 2002）を挙げ

ておく。どちらも複数冊が図書館に収蔵されているが、講義内容と深く連動した内容なので、特に興味関心のある人は、書店で購入しておくくと便利である。

科 目 名			
文化社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	北 川 紀 男

**【講義概要・学習目標】**

文化は人間にとって第二の本能ともいわれ、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない重要な研究課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、ついで人間と文化の間に介在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処かわれば、品かわる」とは、文化と社会の関係を巧くいいえて、社会学的にみて興味ある表現である。

以上の基礎的な考察を踏まえて、複雑多岐に分化し目まぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」「国際化」「情報化」「共生化」の視点にたつて、批判的に考察をすすめてみたい。

現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。

**【講義計画】**

- (1) 学説史
  - ①社会学における文化研究の歴史
  - ②文化社会学の二つの潮流
  - ③文化社会学成立の背景
- (2) 文化の概念
  - ①文化の基本的属性
  - ②シンボル・意味・価値としての文化
  - ③文化の類型
- (3) 文化と社会規範
  - ①規範としての文化
  - ②文化と社会化
  - ③文化の基底としてのタブー
- (4) 生活文化
  - ①生活様式としての文化
  - ②文化と空間・時間。役割
- (5) 文化と文明
  - ①意味象としての文化
  - ②社会過程・文明過程・文化運動
  - ③文明社会の諸問題
- (6) 知識の社会学
  - ①知識社会学
  - ②イデオロギー論
  - ③科学の社会学
- (7) 大衆化と文化
  - ①大衆社会の構造
  - ②大衆文化の特徴
  - ③大衆の被操作性
- (8) 国際化と文化
  - ①民族文化と国民文化
  - ②国際化と文化摩擦
  - ③異文化間コミュニケーション
- (9) 情報化と文化
  - ①情報化社会
  - ②メディア文化の発達
- (10) 共生化と文化
  - ①高齢化社会と文化
  - ②高齢者・障害者と共生
  - ③ジェンダーと共生

**【成績評価の方法】**

原則として学期末試験に基づいて評価するが、学習状況を見てレポートを課し加味する。

**【教科書】**

北川紀男 文化社会学研究 八千代出版

**【参考文献】**

授業中に適宜指示する

科 目 名			
文化人類学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	小 池 誠

**【講義概要・学習目標】**

文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチを通して、異文化に対する理解を深めることを目的とする。また、多様性を通して現れてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだし、文化人類学の視点を身につけてもらいたい。

地域に根ざした日常文化を学ぶだけでなく、グローバル化が進む現代世界で、地域社会がどのように変化しているかも考えていきたい。また、講義では、日本の民俗行事からアフリカの婚姻制度まで、世界中の多様な文化を取り上げる予定である。受講生の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を講義のなかに取り入れていく。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス：文化人類学とは何か？
- 第2回 文化とは何か
- 第3回 異文化との出会い（1）
- 第4回 異文化との出会い（2）
- 第5回 異文化との出会い（3）
- 第6回 家族の多様性（1）：家族とは何か
- 第7回 家族の多様性（2）：世界の多様な家族
- 第8回 家族の多様性（3）：日本の核家族化
- 第9回 親族と出自：祖先との系譜のたどり方
- 第10回 東アジアの父系社会
- 第11回 母系社会：インドネシアのミナンカバウ社会
- 第12回 結婚の多様性：誰が誰と結婚するか
- 第13回 ネパールの一妻多夫婚
- 第14回 交換と権力
- 第15回 トロブリアンド島民の首長制（1）
- 第16回 トロブリアンド島民の首長制（2）
- 第17回 人種と民族
- 第18回 国家のなかの民族とエスニシティ
- 第19回 宗教と紛争
- 第20回 日本におけるエスニシティ
- 第21回 文化人類学の宗教研究：呪術と儀礼
- 第22回 シャーマニズム：恐山のイタコ
- 第23回 クリスマスの人類学
- 第24回 正月の文化人類学（1）：時間と儀礼
- 第25回 正月の文化人類学（2）：山古志村の正月行事
- 第26回 インドネシア・スンバ島の結婚・家族・儀礼（1）
- 第27回 インドネシア・スンバ島の結婚・家族・儀礼（2）
- 第28回 インドネシア・スンバ島の結婚・家族・儀礼（3）
- 第29回 講義のまとめ
- 第30回 試験

**【成績評価の方法】**

期末試験の素点をもとにして成績をつける。ただし、講義終了時に必要に応じて提出を求める出席カード（コメントを書く）も加味して総合評価を決める。

**【教科書】**

なし

**【参考文献】**

講義のなかで必要に応じて紹介する。

科 目 名			
法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	赤 井 朱 美

**【講義概要・学習目標】**

概要

この講義では、受講者に現代日本法の概観を与えたうえで、市民の社会生活に関連の深い法分野について基礎的な知識を講述する。そこで、まず現代日本法を三大別し、公法分野（憲法、刑法、国際法等）、私法分野（民法、商法等）、社会法分野（労働法等）につき略説する。以下、[講義計画]に則って授業を進めていく予定である。なお、私語は厳禁。その他、受講時の留意事項について最初の授業時に言及する。

目標

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法および行政法の基礎を理解させる。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

**【講義計画】**

- 1 社会生活と法
- 2 民法
  - 1) 総則（成年後見を含む）
  - 2) 物権
  - 3) 契約
  - 4) 不法行為
  - 5) 親族
  - 6) 相続
- 3 憲法
  - 1) 基本原理
  - 2) 基本的人権
  - 3) 地方自治
- 4 行政法
  - 1) 行政行為・行政手続
  - 2) 行政不服審査
  - 3) 行政訴訟
  - 4) 情報公開
  - 5) 地方行政組織

**【成績評価の方法】**

講義した範囲の内容から出題する定期末試験による評価。出席点は加味しない。あくまで素点評価とする。

**【教科書】**

森泉 章「法学」有斐閣ブックス  
池田真朗・犬伏由子・野川忍・大塚英明・長谷部由起子「法の世界へ」有斐閣アルマ

**【備考】**

<SW生>対象

科 目 名			
法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	吉 見 研 次

**【講義概要・学習目標】**

この講義は、受講者に現代日本法の全体像を把握させたうえで、市民の日常生活と関係の深い法分野全般について基本的な法律知識を修得させることを目標とする。そこで、まず、①市民の日常的な経済生活に直結する契約関係の法律について、つぎに、②市民が事故に遭遇した場合の法律関係について、最後に、③市民の家族生活に関する法律の基礎について講述していく。私法分野が中心となるが、公法分野（憲法、刑事法、訴訟法、国際法等）についても随所で言及する。いうまでもなく、授業中の私語は厳禁。その他、受講時の留意事項について最初の授業時に説明する。

**【講義計画】**

- 第1回 市民生活と法
- 第2回 公法と私法
- 第3回 民事法と刑事法
- 第4回 一般法と特別法
- 第5回 契約の成立と効力
- 第6回 契約の無効と取消し
- 第7回 制限行為能力
- 第8回 売買契約総説
- 第9回 売買契約と所有権
- 第10回 売買契約の不履行
- 第11回 売主の責任
- 第12回 消費者契約法
- 第13回 特定商取引法
- 第14回 無限連鎖講防止法
- 第15回 金銭消費貸借契約
- 第16回 保証契約
- 第17回 借家契約
- 第18回 契約自由の原則とその修正
- 第19回 不法行為の要件
- 第20回 特殊の不法行為
- 第21回 不法行為特別法
- 第22回 不法行為の効果
- 第23回 製造物責任法
- 第24回 結婚の法律
- 第25回 離婚の法律
- 第26回 親子の法律
- 第27回 相続の法律
- 第28回 遺言の法律
- 第29回 まとめと補論
- 第30回 学期末試験

**【成績評価の方法】**

基本的な知識を幅広く、かつ正確に修得していることを確認するために、正誤文選択による短答式の学期末試験を予定している。ちなみに、昨年度は、各問いずれも4肢選択方式の計20問を出題した（1問5点）。

**【教科書】**

菅野和夫ほか（編）『ポケット六法 平成20年版』有斐閣  
\*他社の『六法』でも可

**【参考文献】**

授業時間中に参考書を紹介し、必要な資料のコピー等を配布する。

は  
行

科 目 名			
法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4単位	前 田 徹 生

**【講義概要・学習目標】**

本講義では、これから法学を勉強しようとする諸君に法学の基礎的な概念を整理し、説明することを狙いとする。制定法主義に立脚するわが国のような場合、法の体系を理解することがきわめて重要である。その基礎的知識につき理解し、それらがどのような運用がなされているかを中心に講義をすすめたい。

**【講義計画】**

I. 法学概論

1. 法とは何か
  - ・社会生活と法
  - ・法と強制
  - ・法の目的
  - ・権利と義務
2. 法学とは何か
  - ・法学とは
  - ・法学の歴史
  - ・法学の諸分野
3. 法の分類
4. 法の適用
  - ・法と裁判
  - ・法の解釈
  - ・裁判制度
5. 裁判の基準となるもの
6. 現代の裁判と裁判員制度

II. 国家と法

1. 憲法の内容と種類
2. 明治憲法と日本国憲法の相違
3. 国民主権
4. 平和主義
5. 基本的人権
6. 権力分立
7. 憲法改正論

**【成績評価の方法】**

定期試験の結果を基本とし、講義期間中3回程度の出席をとる。この出席点を加味して総合判定をおこなう。

**【教科書】**

伊藤正己・加藤一郎編 現代法学入門〔第4版〕有斐閣

**【参考文献】**

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法〔第4版〕』岩波書店  
長谷部恭男・杉田敦『これが憲法だ!』

科 目 名			
法学特講—民事再生法会社更生法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	本 間 法 之

**【講義概要・学習目標】**

講義の対象として、企業・事業の再建を主たる目的とする再建型の倒産処理手続を取り上げる。再建型の手続には、民事再生法に基づく民事再生手続と会社更生法に基づく会社更生手続とがあるが、本講義では、民事再生手続を中心に、再建型倒産処理手続の基礎的事項についての基本的な理解を図りたい。なお、折に触れて会社更生手続にも言及し、両手続との比較において、現行の再建型処理手続の全体像が把握できるように努めたい。

授業の目標は、受講生が再建型倒産処理手続に関する基本的な知識を修得し理解することにある。倒産処理は、法律問題の‘るつぼ’であり、実体法と手続法が激しく交錯する場である。講義では、倒産処理手続の理解を通じて受講生の民事法全体の理解を深めるよう努めたい。

**【講義計画】**

- 第1回 倒産処理制度の必要性
- 第2回 再建のスキーム
- 第3回 民事再生手続の流れ・特徴
- 第4回 民事再生手続の開始
- 第5回 民事再生の機関
- 第6回 再生計画
- 第7回 再生債務者の地位と法律関係の処理（1）
- 第8回 再生債務者の地位と法律関係の処理（2）
- 第9回 民事再生における相殺
- 第10回 民事再生における否認（1）
- 第11回 民事再生における否認（2）
- 第12回 財産査定
- 第13回 民事再生手続の終了/破産手続への移行
- 第14回 簡易再生・同意再生
- 第15回 個人再生

**【成績評価の方法】**

定期試験期間中の試験は行わず、下記の①及び②に基づいて、総合的に評価する。

- ①受講態度（出席状況、予習・復習状況、講義に対する積極性）（40%）
- ②授業中に適宜実施する試験（1～2回程度を予定）（60%）

なお、講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処する。

**【教科書】**

講義では、レジュメを配布する予定である。講義に際しては常に最新版の「六法」を携行すること。「六法」の種類は問わないが、「破産規則」、「民事再生規則」や、会社更生規則」など、参照が必要な規則類が掲載されている六法を用意すること。

**【参考文献】**

講義の際に、適宜紹介する。



科 目 名			
法学入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	馬 場 巖

**【講義概要・学習目標】**

人は共同社会の中で生活をしている。そのなかで、各人が勝手な行動をするとすれば、秩序が乱れ安心して生活ができないことになってしまう。安心して社会生活がおくれるようにするために法律が存在する。そのため、法律とはどのようなものであるのかを明らかにする。

**【講義計画】**

- ・ガイダンス
  - ・法とは何か
  - ・法と他の社会規範について
  - ・法源
  - ・権利能力と胎児・自然人の権利能力・
  - ・意思能力・制限行為能力
  - ・親子
  - ・相続
  - ・契約・種類・債務不履行
  - ・契約・危険負担・保証・債権譲渡
  - ・物権・種類・物権変動・
  - ・物権・用益物権・担保物権
  - ・不法行為・知的財産権
  - ・試験
- これらの項目について講義をする。

**【成績評価の方法】**

試験による。

**【教科書】**

長谷川日出世/土屋 茂/中山政義 著 やさしい法の学び方 成文堂

**【備考】**

<08 J 生>のみ対象

科 目 名			
法情報学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	関 堂 幸 輔

**【講義概要・学習目標】**

法は元来私たちの社会生活に身近なものです。今日の高度情報化社会にあつては、人々が法に関する情報に触れる機会がより一層増加しています。また一方で、情報化によって現在は法の在り方やその解釈・運用も変わりつつあります。この講義では、「法に関する情報」と「情報に関する法」という二つの面からさまざまな問題を取り上げて、それらを考察することを目標とします。

**【講義計画】**

おおむね以下のとおり講義を進めていく予定です（変更する場合があります）。

1. 法とその情報（法律以外の「法」）
2. 法情報に関するリテラシー
3. 法における「情報」の意義
4. 情報の性質と法
5. 情報の独占と知的財産（1）
6. 情報の独占と知的財産（2）
7. 情報の独占と知的財産（3）
8. 情報のデジタル化による影響
9. 情報流通による不法行為（1）
10. 情報流通による不法行為（2）
11. 情報公開制度（1）
12. 情報公開制度（2）
13. 個人情報保護制度（1）
14. 個人情報保護制度（2）
15. 前期試験
16. 情報に関する法規制（1）
17. 情報に関する法規制（2）
18. 情報に関する法規制（3）
19. 表現の自由とメディア（1）
20. 表現の自由とメディア（2）
21. 表現の自由とメディア（3）
22. 表現の自由とメディア（4）
23. 情報モラルとサイバー犯罪（1）
24. 情報モラルとサイバー犯罪（2）
25. 最近の裁判例（1）
26. 最近の裁判例（2）
27. 最近の裁判例（3）
28. 最近の裁判例（4）
29. 最近の裁判例（5）
30. 後期試験

**【成績評価の方法】**

各学期末（前期・後期いずれも）に実施する試験を主とし、平常点を従として評価します。平常点は、授業内でやりとりするコメント・カード（詳細は授業で説明）の記述から、授業に対する積極性や興味・関心の程度を計ることにより評定します。

**【教科書】**

講義ノートを担当者のウェブ（<http://www.sekidou.com/>）において公開し、適宜更新します。

**【参考文献】**

必要に応じて授業内にて指示します。

は  
行

科 目 名			
<b>法職インターンシップ</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	寺 田 友 子

**【講義概要・学習目標】**

インターンシップとは、在学中に企業等において研修的な就業体験をする制度で、大学教育と社会での実地体験を結合することにより、教育効果をいっそう挙げることを目的とする。

法学部で開講する法職インターンシップも同様であって、在学中弁護士事務所等法職の事務所において、就業体験を得ることで、大学での教育効果をいっそう高め、又、学生の職業意識を涵養、醸成することなどを目的として実施する。

なお、本科目は、事前に実施される応募（基幹科目の単位を平均B以上であること等）、選考の手続きを経て、受講決定を受けていない場合には、履修手続きができないので注意すること。

**【講義計画】**

プログラムの概要

(1) 事前研修

- A プログラム・応募資格等のガイダンス
- B パソコンを駆使しての検索能力を高めるための事前研修
- C ビジネスマナーの指導
- D 研修要領の説明と報告書の作成指導

(2) 研修期間

夏期休暇中に、弁護士事務所等で研修を受ける（60時間以上、2週間の予定）

(3) 事後研修

研修結果の報告

**【成績評価の方法】**

事前研修、研修先からの評価、研修報告書及び事後研修などを総合的に勘案して評価する。

**【備考】**

受講対象者は3回生で、学科選択科目に位置する。

科 目 名			
<b>法職オリエンテーション</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	前 田 徹 生

**【講義概要・学習目標】**

法学部の学生諸君は、将来、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹、司法書士、公務員、警察官、あるいは企業家、一般企業のサラリーマンへ進む方が多いと思います。法職オリエンテーションは、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹実務家、法務関係の公務員、実務家、国内外で法務に携わるビジネスマン、ビジネスの世界で活躍する人々等をゲスト・スピーカーとして招き、また、ビデオ等を利用して、実社会での法実務の興味深い事例や事件を報告してもらいます。それによって、これから学習する法の世界や実社会を具体的に体得し、学習へのモチベーションを高めるとともに将来の職業選択の一助となることをねらいとしています。

**【講義計画】**

どのような方をゲスト講師とするかは未定です。講義開始時点で、一覧表を配布します。

参考のため、作年度の主な講師一覧を添付いたします。

- ① 9月28日（金） 講師：松田聡子（法学部教授）  
テーマ：法職オリエンテーション・ガイダンス
- ② 10月5日（金） 講師：伊田和泰氏（県立ぐんま学園勤務・本学卒業生）  
テーマ：「共生共育～子どもと共に生きていくことについて」
- ③ 10月12日（金） 講師：東城氏（大阪府警察本部警察官採用センター）  
テーマ：「警察官の職務」
- ④ 10月19日（金） 講師：佐野正幸氏（さくら法律事務所・弁護士・元裁判官）  
テーマ：「裁判官の仕事と生活」
- ⑤ 10月26日（金） 講師：辰野 勇氏（(株)モンベル代表取締役社長・冒険家）  
テーマ：「遊ビジネス——冒険と夢を語る」
- 11月2日（金） 祝日休講
- 11月9日（金） 大学祭休講
- ⑥ 11月16日（金） 講師：佐野正幸氏（さくら法律事務所・弁護士・元裁判官）  
テーマ：「弁護士の仕事と生活」
- ⑦ 11月23日（金） 講師：新垣たずさ氏（環境庁・本学卒業生）  
テーマ：「公的仕事の多様性」
- ⑧ 11月30日（金） 講師：木本博之氏（兵庫県行政書士会理事・W.セミナー専任講師）  
テーマ：「行政書士の仕事」
- ⑨ 12月7日（金） 講師：藤村輝子氏（藤村法律事務所弁護士・元検察官）  
テーマ：「検事、その多彩な職域と職務——格好よくするのは楽じゃない——」
- ⑩ 12月14日（金） 講師：辰野 勇氏（(株)モンベル代表取締役社長・冒険家）  
テーマ：「グローバル・マーケットへの挑戦——カリフォルニア連邦地裁陪審裁判を経験して——」
- ⑪ 12月21日（金） 講師：久米川良子氏（久米川法律事務所・弁護士）  
テーマ：「弁護士として」
- ⑫ 1月11日（金） 講師：藤原照明氏（元丸紅株式会社・バイルート、香港、コロポ勤務）  
テーマ：「国際ビジネスと日本」
- ⑬ 1月18日（金） 松岡直樹氏（甲南大学法科大学院・本学卒業生）
- ⑭ 1月25日（金） 2007年度法科大学院、公務員、裁判官事務官合格体験報告

**【成績評価の方法】**

二分の一以上の出席を単位認定の最低条件とする。  
2回のレポートと出席率を総合して成績評価の判断をおこなう。

**【教科書】**

なし

**【備考】**

インテグレーション科目

科 目 名			
法女性学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 田 聡 子

**【講義概要・学習目標】**

男女共同参画社会基本法が制定されて以来、男女共同参画社会を目指すさまざまな取り組みが具体的に行われている。法女性学では、民法や刑法、労働法などを素材にしてわが国における女性・男性・性を取り巻く法環境を概観し、男女共同参画の観点から法制度の問題点やこれからの展望を探っていく。諸外国との比較も欠かせない視点である。

**【講義計画】**

1. ガイダンスー法女性学が目指すもの
2. 随胎罪と中絶規制
3. 中絶規制と産む権利
4. 優生保護法から母体保護法へ
5. 人口政策と「リプロの権利」
6. 家族法の概観
7. 婚姻制度の課題
8. 家族制度と戸籍制度
9. 離婚制度の課題
10. 同性愛と法
11. 性のグラデーション、ジェンダーそして法
12. 親子関係と法
13. 生殖補助技術の現状
14. 生殖補助技術の法的課題
15. 生殖補助技術とジェンダー
16. 性暴力と法
17. ストーカー行為と法
18. ドメスティックバイオレンスと法
19. 恋人の間の暴力
20. 人身売買と売買春
21. 労働法と働く権利
22. セクシュアルハラスメントと法
23. 男女雇用機会均等法の課題
24. 養育・介護・年金とジェンダー
25. 政治とジェンダー
26. 女性差別撤廃条約・北京会議そして日本
27. 男女共同参画社会基本法が目指すもの
28. まとめ

**【成績評価の方法】**

学期末試験で判断（ただし、受講生数によっては講義時の課題提出や小テストを実施）

**【教科書】**

参考文献のほか、とくに用いない。

**【参考文献】**

辻村みよ子『ジェンダーと法』（不磨書房）、浅倉むつ子他『ジェンダー法学』（不磨書房）、浅倉むつ子他『フェミニズム法学』（明石書店）、金城清子『ジェンダーの法律学』（有斐閣）、山下泰子他『法女性学への招待』（有斐閣）、吉岡睦子他『ジェンダー法講義』（民事法研究会）、門広乃里子他『法学入門』（不磨書房）

科 目 名			
法制史ー西洋法と日本法の出会い			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	的 場 かおり

**【講義概要・学習目標】**

この講義の目的は、わたしたちが普段「あたりまえ」と考えている法概念や法体系を「歴史」と「比較」という2つの視点から検証することである。

「歴史」・・・いま私たちが用いる法律やそのシステムの基礎は、実は誕生してから100年、場合によっては50年あまりの歴史しかない。そしてこの現代法の基礎をたどれば、「近代法」に行き着く。現代法の出発点である「近代法」を学習する。

「比較」・・・明治の幕開けとともに開始された日本の「法の近代化」では、そのモデル法を中国法から西洋諸国の法に変更し、精力的に西洋近代法が受容された。したがって「近代法」を考えるうえで、日本と西洋の近代法を比較することは不可欠である。

**【講義計画】**

【1学期】日本法の近代化にあたりモデルとなった、ヨーロッパとりわけ大陸法系諸国の近代法を学習する。

1. 法の近代化とは
2. 近代化とナポレオン
3. 三月前期のドイツ～法典編纂論争を中心に
4. 三月革命
5. フランクフルト憲法とプロイセン憲法の欽定
6. ビスマルクによるドイツ統一
7. ドイツ帝国憲法ならびにその他の法典の編纂

【2学期】明治維新とともに はじまる日本の近代を法という観点から読みとく。

1. 明治維新と近代化政策
2. 中央集権化と行政機関の改革
3. 大日本帝国憲法の欽定とその特徴
4. ボアソナードと刑法典の編纂
5. 治安立法～「臣民の権利」における法律の留保
6. 旧民法と明治民法～民法典論争の意味とその結果

**【成績評価の方法】**

①授業への参加態度、②レポート（1学期）、③テスト（2学期）に基づいて総合的に評価する。

**【教科書】**

岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版、1996年）

**【参考文献】**

適宜授業中に指示する。

ただし、講義の基本的理解を助ける文献として、富永健一著『日本の近代化と社会変動』（講談社、1990年）、村上淳一著『近代法の形成』（岩波書店、1979年）、川口由彦著『日本近代法制史』（新世社、1998年）、勝田有恒他著『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）、山中永之祐編『日本近代法案内：ようこそ史料の森へ』（法律文化社、2003年）などが挙げられる。

は  
行

科 目 名			
法哲学－正義・権利・人権			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	沼 口 智 則

**【講義概要・学習目標】**

「法とは何か」という問いは、法を学ぶ者にとって最初に問い、そして最後にもう一度問う問題である。

法哲学は、この問いに正面からとりくむ学問であるといえよう。法を通じて、現代をとらえ未来を展望するための基軸（視座）を獲得するための旅が、この問いから始まる。本講義では、「正義・権利・人権」を中心に法哲学の基本問題にアプローチしていきたい。

**【講義計画】**

メイン・テーマ「正義・権利・人権」

1. 法哲学とは何か
2. 欧米諸国の法哲学の傾向－英・米・独を中心として－
3. アジア諸国の法哲学の傾向－日本・韓国を中心として－
4. 現代正義論・権利論・人権論
5. 現代法哲学と二十一世紀の諸問題－たとえば生命倫理・地球環境問題・核問題・民族や宗教紛争・テロ問題etc…－

**【成績評価の方法】**

夏休みに簡単なレポート（指示する課題図書の中から選択）を書いてもらうとともに、学年末試験（論述式選択問題）で総合評価する。春・秋学期中に授業中に書ける程度の小レポートを要求する場合もある。

**【教科書】**

竹下賢・角田猛之編 マルチ・リーガル・カルチャー 法文化へのアプローチ 改訂版 晃洋書房

**【参考文献】**

開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義でその都度指示する。

科 目 名			
法哲学－正義論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	山 川 偉 也

**【講義概要・学習目標】**

アリストテレス『ニコマコス倫理学』第五巻における「正義論」のテキストを読み解く。

**【講義計画】**

アリストテレス『ニコマコス倫理学』第五巻における「正義論」は、西洋における正義論の最も重要な古典である。これに精通することなくして西洋法思想史を語ることはできない。西洋思想史上におけるアリストテレスの位置づけ・意義の解明から始めて、徐々に『ニコマコス倫理学』およびその第五巻の子威容に入っていく。

**【成績評価の方法】**

毎回授業最後に出すクイズへの解答内容ならびに最終試験の出来具合を見て判定する。

**【教科書】**

アリストテレス『ニコマコス倫理学』（上）岩波文庫

**【参考文献】**

山川偉也著『哲学者ディオゲネス－世界市民の原像－』

科目名			
簿記			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	4単位	河野 勉

#### 【講義概要・学習目標】

簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも1年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表・損益計算書）を作成しなければならない。

その決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、企業にとって、ディスクロージャー（情報公開並びに透明性）& アカウンタビリティの必要性が最重要視されている。

決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。

企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。

更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパーレス化と帳簿との関連についても言及したい。

#### 【講義計画】

<前半>

1. 複式簿記の原理…
  - (1) 簿記の意義と目的
  - (2) 簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益）
  - (3) 簿記の仕組み（取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目）
2. 仕訳帳と元帳…
  - (1) 仕訳と仕訳帳
  - (2) 転記と元帳
3. 試算表…
  - (1) 試算表の意味と種類
  - (2) 試算表の貸借合計不一致
4. 決算（その1）…
  - (1) 決算の意味と手続
  - (2) 帳簿決算（英米式・大陸式）

<後半>

5. 取引の記帳…
  - (1) 現金・預金取引
  - (2) 商品売買取引（仕入帳・売上帳・商品有高帳・商品売買益の計算）
  - (3) 信用取引
  - (4) 手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）
  - (5) 有価証券取引
  - (6) 固定資産取引
  - (7) 個人企業の資本取引
6. 決算（その2）…
  - (1) 決算整理の意味
  - (2) 棚卸表
  - (3) 棚卸減耗損と商品評価損
  - (4) 貸倒引当損と貸倒引当金
  - (5) 有価証券評価損
  - (6) 減価償却
  - (7) 費用・収益の繰延べと見越し
  - (8) 精算表

#### 【成績評価の方法】

簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定3級に合格した場合は、成績評価に加算する。

#### 【教科書】

加古 宜士・渡部 裕互（編著）  
「新検定簿記 ワークブック3級」（中央経済社）  
「新検定簿記講義3級」

科目名			
簿記			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	通期	4単位	山本 浩二

#### 【講義概要・学習目標】

企業は、利益を獲得することを目的にして、さまざまな活動を行っている。簿記は、企業が営むさまざまな経済活動を貨幣金額で記録する重要なシステムであり、経営学や会計学を学ぶにあたっての必須の基礎知識である。簿記の目的は、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることである。本講義では、商業を営む企業の簿記である商業簿記を前提にして、複式簿記の基本原則、日常の取引の記録から決算にいたる簿記の一連の手続きを説明する。簿記は、資格としても役立ち、日本商工会議所主催の検定試験が行われている。検定試験合格に必要な知識を含めて、簿記と会計の基本知識を講義する。

#### 【講義計画】

- (1) 複式簿記の基本原則
- (2) 複式簿記の計算構造
- (3) 仕訳と勘定記入
- (4) 試算表、精算表の作成
- (5) 元帳の締め切りと財務諸表の作成
- (6) 個別勘定科目の処理－現金、当座預金
- (7) 個別勘定科目の処理－商品売買
- (8) 個別勘定科目の処理－売掛金、買掛金、手形
- (9) 個別勘定科目の処理－有価証券、固定資産その他の勘定
- (10) 決算手続きと決算整理事項

#### 【成績評価の方法】

出席と中間試験および期末試験の成績で評価する。

#### 【教科書】

加古宜士・渡部裕互編著『新検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社  
加古宜士・渡部裕互編著『新検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社

#### 【参考文献】

必要に応じて指示するが、日商簿記検定試験3級用のテキストならば、いずれも参考文献として適している。

は  
行

科 目 名			
保険論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	武 田 久 義

**【講義概要・学習目標】**

保険はリスクに対処する経済的手段の一つである。リスクに対する合理的管理法は、一般にリスク・マネジメントと呼ばれており、その手段は、基本的にリスク・コントロールとリスク・ファイナンスに分けて考えられる。そして保険は、リスク・ファイナンスのなかで中心的な役割をなしている。リスクが増大している社会では、リスク・マネジメントや保険の学習はおそらく不可欠のものとなるだろう。

ところで、日本の保険制度は、現在転換期にあると思われる。以前の日本では考えられなかったような様々な出来事が起きている。これは、保険制度に限らず、日本自体が歴史的な転換期にあるからであろう。

この講義では、まず最初に、リスク・マネジメントと保険についての基礎的な学習を行う。その上に立って歴史や文化等の諸要素を考慮しつつ、転換期における保障制度のあり方についても考えていきたい。

**【講義計画】**

主な講義内容は、次の通りである。

- ①講義についての全体的な説明
  - ②リスクの意味と内容
  - ③～④リスク・マネジメントについて (1)、(2)
  - ⑤保険の意義
  - ⑥保険の役割
  - ⑦～⑧保険の類似制度 (1)、(2)
  - ⑨保険の契約
  - ⑩～⑫保険の種類と代表的な保険について (1)、(2)、(3)
  - ⑬～⑭現代社会と保険・保障 (1)、(2)
  - ⑮日本人と保障・保険
  - ⑯～保険の歴史と文化 (1)～(7)
- 保障制度の将来  
まとめ

**【成績評価の方法】**

期末テストとレポート等による。

**【教科書】**

期末テストとレポート等による。

**【参考文献】**

保険に関連するものは、基本的に参考になる。

科 目 名			
ボランティア論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	大 野 順 子

**【講義概要・学習目標】**

市民社会を形成する新しいセクターとして、その社会的地位を確立しつつあるボランティア活動、市民活動、社会貢献活動、NPO等についての基本的理解を中心に、その実態、社会的意義等、ボランティア活動概念の変化、及び、その多様な活動内容を検証していく。

**【講義計画】**

講義概要

1. ボランティアと市民社会の関係
  - (1) 市民という概念／市民性
  - (2) 市民活動・ボランティア活動
  - (3) 市民社会という概念の変化
  - (4) 公益性について
2. NPO (非営利組織) とは何か
  - (1) 組織運営について
  - (2) NPO法・制度
  - (3) 社会的役割
  - (4) その他
  - (5) 多様な活動領域
3. ボランティアの新しいあり方
  - (1) 連携・協働
  - (2) 企業の社会貢献・社会的責任
  - (3) 教育とボランティア
4. その他
  - (1) ボランティアコーディネーター
  - (2) ネットワーキング
  - (3) 活動の評価
  - (4) ボランティアのケア
  - (5) ひとはなぜボランティア活動をするのか

以上の内容を、状況に応じて組み合わせながら授業を展開していく予定です。

**【成績評価の方法】**

毎時のコメントカード (出席カード) の内容、課題レポート、試験等により総合的に評価する。

**【教科書】**

特に指定しない。

毎時テーマに沿ったレジュメを配布する。

**【参考文献】**

『ボランティアと市民社会～公共性は市民が紡ぎだす～』編者：立木茂雄 発行：晃洋書房 1997年初版

『なぜボランティアか「思い」を生かすNPOの人づくり戦略』著者：スーザン・エリス 訳者：筒井のり子他 発行：海象社 2001年初版

『非営利組織の経営－原理と実践－』著者：P・F・ドラッカー 訳者：上田惇生他 2004年第18刷

『哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造』著者：ロバート・D・パトナム 訳：河田潤一 2001年

『学生のためのボランティア論』岡本榮一他著 大阪ボランティア協会発行 2006年

科 目 名			
マーケティング論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	鈴 木 幾 多 郎

**【講義概要・学習目標】**

市場を作り上げ、企業の未来を切り開いていくためにはマーケティングが不可欠である。この講義では、マーケティングの役割、市場機会とマーケティング・マネジメント、価値創造と顧客創造、価値実現と顧客維持、消費者市場と消費者行動の分析、競争構造と競争戦略、マーケティング・チャネル戦略、製品開発とポジショニング、価格戦略、ブランドとブランディング戦略などのマーケティング問題を分析するための基本概念を説明し、具体的な事例を紹介しながらマーケティング戦略の考え方を解説する。

**【講義計画】**

1. マーケティングの役割
2. 市場機会とマーケティング・マネジメント
3. 市場創造と企業活動
4. 価値形成と価値実現のマーケティング
5. マーケティング組織のデザイン
6. 事業の定義
7. 競争構造と競争戦略
8. マーケティング・チャネル戦略
9. 関係性マーケティング
10. ブランドとブランディング戦略
11. ITと現代のマーケティング戦略

**【成績評価の方法】**

レポートならびに試験で評価する。

**【教科書】**

栗木契・余田拓郎・清水信年 売れる仕掛けはこうしてつくる 日本経済新聞社  
「参考文献」石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナール・マーケティング入門』日本経済新聞社

**【備考】**

<02~06生>  
共通自由科目として、B生対象外  
B生は学科教育科目

科 目 名			
マスコミの英語研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	沖 野 泰 子

**【講義概要・学習目標】**

学習目標： ニュースの読解、聴き取り能力を伸ばす。  
講義概要： 近年相次いで看板アンカーの変更が見られた米3大ネットワーク局の中からABCのニュースを視聴し、ニュースの聴き取り練習をする。また、アメリカ、ニューヨーク州で英語学習者向けに発行されているNews for You紙の記事を読み、ニュース英語特有の表現に慣れ、リーディングのスピードを上げられるようにしたい。テキスト2冊とも、トピックが政治関連のものより社会的なものの方が多いため、親しみやすい内容になっている。

できるだけ多くの英語に触れることで、英語受信能力を上げることを目指すので、決まったベースでの課題の提出がある。なるべく共通のテーマを持つニュースをまとめて読み聴きするため、必ずしもテキストの順には進まないため、注意していただきたい。

**【講義計画】**

ABC World News 10 : ABC  
News for you 2008/2009 : NY で表す

前期

- |      |           |              |
|------|-----------|--------------|
| 第1回  | オリエンテーション | ニュース英語の特徴    |
| 第2回  | テクノロジー、IT | ABC: Unit 1  |
| 第3回  |           | NY: Unit 20  |
| 第4回  |           | ABC: Unit 13 |
| 第5回  |           | NY: Unit 1   |
| 第6回  | テクノロジーと医療 | ABC: Unit 2  |
| 第7回  |           | NY: Unit 12  |
| 第8回  | 世界の若者     | ABC: Unit 3  |
| 第9回  |           | NY: Unit 7   |
| 第10回 | 環境問題      | ABC: Unit 4  |
| 第11回 |           | NY: Unit 10  |
| 第12回 | 経済と環境問題   | ABC: Unit 4  |
| 第13回 |           | NY: Unit 18  |
| 第14回 | 人物        | ABC: Unit 5  |

後期

- |      |           |                  |
|------|-----------|------------------|
| 第1回  | 人物        | NY: Unit 9       |
| 第2回  |           | ABC: Unit 6      |
| 第3回  |           | NY: Unit 6 or 14 |
| 第4回  | ビューティー    | ABC: Unit 7      |
| 第5回  |           | NY: Unit 4       |
| 第6回  | 教育        | ABC: Unit 8      |
| 第7回  |           | NY: Unit 15      |
| 第8回  | イラク戦争     | ABC: Unit 10     |
| 第9回  |           | NY: Unit 2       |
| 第10回 | テクノロジーと健康 | ABC: Unit 11     |
| 第11回 |           | NY: Unit 8 or 11 |
| 第12回 | 農業        | ABC: Unit 12     |
| 第13回 |           | NY: Unit 19      |
| 第14回 | 宗教、信仰     | ABC: Unit 14     |

**【成績評価の方法】**

出席・平常点：30% 課題：30% 小テスト：40%で評価の予定

**【教科書】**

山根 繁、Kathleen Yamane ABC World News 10 金星堂  
大月 実 News for You 2008/2009 Edition 成美堂

**【参考文献】**

適宜指示する。

**【備考】**

授業の進め方、課題等について最初の授業で説明するので、必ず出席すること。

は・ま行

科 目 名			
マス・コミュニケーション論Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	石 田 あゆう

**【講義概要・学習目標】**

マス・コミュニケーションといわれてもなかなか具体的なイメージがわからないかもしれない。本講義では、いわゆる「メディア」（新聞、ラジオ、電話、テレビ、インターネットなど）を通じたコミュニケーションの特徴を理解したうえで、「マス・コミュニケーション」とは何か、その問題点は何か、なぜこうしたことを学ぶ必要があるのか（必要とされているのか）についての思考を深める。

大きくは次の三つのテーマに分けて講義を行う予定である。第一に、「マス・コミュニケーションの理想と現実」、第二に、「マス・コミュニケーション研究における今日の問題の所在」、第三に「マス・コミュニケーションが生み出す文化」である。

マス・コミュニケーション論は、基本的に個人的関心を超えて、社会や公的問題が意識できないならば受講することに意味はない。受講に当たっては、普段から今世の中では何が話題になっているのかについて敏感であることが求められる。

**【講義計画】**

1. 講義ガイダンス（受講者はできるだけ出席のこと）
2. マス・コミュニケーションと人類史
3. 「活字コミュニケーション」から考える（1）
4. 「活字コミュニケーション」から考える（2）
5. 「活字コミュニケーション」から考える（3）
6. マス・コミュニケーション研究の歴史
7. メディアの影響について（1）
8. メディアの影響について（2）
9. メディアの影響について（3）
10. メディアの影響について（4）
11. マス・コミュニケーションと文化（1）：写真と芸術
12. マス・コミュニケーションと文化（2）：雑誌文化論
13. マス・コミュニケーションと文化（3）：ベストセラー論
14. マス・コミュニケーションと文化（4）：戦争映画論
15. 最終試験

**【成績評価の方法】**

試験60%  
課題レポート30%  
出席点その他10%

**【教科書】**

特に指定しない。適宜資料を配付、紹介する。

**【参考文献】**

阿部潔『日常のなかのコミュニケーション』北樹出版、2000年  
佐藤卓己『現代メディア史』岩波書店、1998年  
田崎 篤郎、児島 和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開 改訂新版』北樹出版、2003年

科 目 名			
マス・コミュニケーション論Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	渡 辺 悟

**【講義概要・学習目標】**

戦後史に立ち会った新聞記者の取材や思いを追体験することでジャーナリズムの可能性と課題を探る。さまざまなジャンルから事件をピックアップし、記者がいかに肉薄したか、し得なかったか再現を試みつつ、事件の今日的意味を考える。

①ジャーナリズムの生理と論理を理解することで、新聞が無謬ではあり得ないという事実も含めた立体的な情報リテラシーを体得する②歴史を、無機的な年表としてではなく、生きた人間の営みの集合体として理解し、併せて戦後史＝時事問題の大まかな土地鑑を獲得する。

**【講義計画】**

- 1 新聞概論
- 2 封印された原爆報道
- 3 敗戦の日の報道
- 4 サンフランシスコ条約
- 5 下山事件
- 6 日本兵の帰国
- 7 3億円事件
- 8 赤ちゃんあっせん事件
- 9 富士・八幡製鉄合併
- 10 「女のしんぶん」
- 11 考古学報道
- 12 西山事件
- 13 ボル・ボト大虐殺
- 14 水俣病
- 15 ある記者のがん闘病記  
——を軸に、世の中の最新の動きを交えながら行う。あくまでも現在の時事的視点からの授業であり、過去の解説ではない。

**【成績評価の方法】**

レポート試験 51% 提示するテーマについて自由に書いてもらう。結論の是非ではなく、結論に至る筋道と説得力を基準に評価する。  
日常点・その他 49%

**【教科書】**

毎日新聞社 20世紀事件史 歴史の現場 毎日新聞社

**【参考文献】**

必要に応じて授業時に伝える



科 目 名			
マルチメディア実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	森 下 舒 弘

**【講義概要・学習目標】**

今日、情報社会・人間生活においてコンピュータの発達は目覚ましいものがある。文字だけでなく画像（静止画）、映像（動画）、音声データ等処理することができるようになってきた。それらを通じて提供される情報は、社会の変革をもたらすほどの影響力を持ち、またそれらを扱う能力メディアリテラシー（メディアの読み取り、書く能力）は、必要不可欠となってきている。

本講義では、メディア統合、情報・ネットワーク時代のそれぞれのメディア特性、基礎理論を理解する。さらに表現手段として活用能力を、単にメディアコンテンツが作成できるというだけでなく、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を、実習で身につける事を目的とする。

**【講義計画】**

以下のように進行する。

- 第1回：マルチメディアの定義
- 第2回：情報メディアとは
- 第3回：マルチメディアの歴史
- 第4回：メディアリテラシーとは
- 第5回：情報検索について、事例研究
- 第6回：編集実習A（パワーポイントによる）
- 第7回：編集実習A・課題制作
- 第8回：編集実習A・課題提出
- 第9回：関連法規、倫理との関係
- 第10回：編集実習B・テーマ設定
- 第11回：編集実習B・コンテンツの展開
- 第12回：編集実習B・表現企画
- 第13回：編集実習B・発表・プレゼン準備
- 第14回：まとめ

**【成績評価の方法】**

実習（課題提出）と、出席点で総合評価

**【教科書】**

特になし。適宜プリント資料配布

**【参考文献】**

講義時に適宜提示する

科 目 名			
マルチメディア実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	8月集中	2単位	平 井 尊 士

**【講義概要・学習目標】**

今日、情報化社会において知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められる。特に、情報の電子化技術の中で、マルチメディアなどのメディアが進展する中で、デジタルコンテンツを有効に活用するとともに研究者や技術者自らが外に向かって情報を発信するための作成技術を身に付ける事が必要になっている。

そこでメディアを発信していく際の基礎的な知識から応用技術について取り上げ演習する。具体的には、コンピュータを利用したメディアの活用方法を各種メディアの現状、特性、活用などの観点から、情報メディアについて基礎能力（図形処理や画像処理）を習得する中で、学生がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするために学習活動の充実に努める。あわせて、関連法規、倫理についても学ぶ。ただし、マルチメディアについて学習させるときには、単に技術的に各メディアの技術ばかりに深入りしないようにも注意を払う。

**【講義計画】**

1. マルチメディア概論（特徴と利用方法）
  - 1) マルチメディア概論
  - 2) 各マルチメディアの利用方法
  - 3) 学校における情報環境
2. ソフトウエアを選択して、メディアの表現や発信
  - 1) デジタルコンテンツの作成方法（ブラウザベース）
  - 2) 印刷物の電子化技術
  - 3) デザイン技法とのかかわり
3. モデル化とシュミレーション（作品作成）
  - 1) モデル化
  - 2) マルチメディア作成技法（図形処理、画像処理）
4. シュミレーション（表現方法の工夫・情報の統合）  
SGML XMLの処理演習と活用事例
5. マルチメディアと周辺領域の関連
  - 1) 情報検索およびデータベースとマルチメディア
  - 2) 関連法規、倫理との関連
6. まとめ

**【成績評価の方法】**

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する。出席点については各授業1回出席について1点。

**【教科書】**

必要に応じて適宜容易する

**【参考文献】**

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社 2003. 4）

科 目 名			
マルチメディア論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	森 下 舒 弘

**【講義概要・学習目標】**

今日、世界でやり取りされる情報伝達の方法は多様である。新聞、雑誌等の印刷媒体。ラジオ、テレビ等の電波媒体。そしてインターネットに代表される電子媒体は、ネットワークメディアとしてさらに機能が拡大している。それらを通じて提供される情報は、人間生活において必要不可欠の要素となっている。また現代では、コンピュータの発達・変化だけでなく、メディアのコンテンツが、ネットワーク上で融合するメディア融合の時代（マルチメディア時代）とも言われている。

本講義では、情報メディアはソフトウェア、表現、環境等とどのような関連を持つのか、その基礎理論、歴史等を学習することにより、ユビキタス社会での知識、情報の活用、新しいものを生み出す創造力を身につける事を目的とする、

**【講義計画】**

※以下のように進行する。

- 第1回：ガイダンス、マルチメディアの定義
- 第2回：メディア（媒体）とは
- 第3回：情報メディアの歴史①（アナログ）
- 第4回：情報メディアの歴史②（デジタル）
- 第5回：メディアリテラシーとは
- 第6回：ユビキタス社会とは
- 第7回：ネットワーク社会
- 第8回：マルチメディアと行政
- 第9回：マルチメディアと産業
- 第10回：マルチメディアと教育
- 第11回：感情表現の可能性
- 第12回：マルチメディアの光と影
- 第13回：メディアの倫理と関連法規
- 第14回：マルチメディアの将来像、まとめ

**【成績評価の方法】**

出席を兼ねた小テスト（随時）  
定期試験と出席点で総合評価

**【教科書】**

特になし。適時プリントを配布。

**【参考文献】**

第1回講義時および適時提示する。

科 目 名			
マルチメディア論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	8月集中	2単位	平 井 尊 士

**【講義概要・学習目標】**

今日、世界でやりとりされる主な伝達方法は、郵便、新聞、電話、テレビ、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報化社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。

そこで本講義においては、メディアとソフトウェア、表現、環境はどのような関連をもつのか、「Microsoft Office 2000」などの既存のソフトを利用し、基礎理論（図形処理や画像処理）を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を発揮できるようになることを期待している。

また、メディアを取り巻く技術の進展の早さゆえに、メディアに関する研究は、過去を捨て去ってきた傾向が見受けられるため、歴史を振り返りつつ、メディアを取り巻いてきた社会制度の整備についても学習する。

**【講義計画】**

1. マルチメディア概論（特徴と利用方法）
  - 1) マルチメディアの現在
  - 2) 各マルチメディアとインターネット
2. ソフトウェアとメディア
3. 表現とメディア（「Microsoft Office 2000」等の利用）
  - 1) 電子化技術の追求
  - 2) メディアとしての仮想現実空間
  - 3) メディアとリアリティ（公共媒体と広告媒体）
  - 4) 図形表現とその演習
  - 5) 画像表現とその演習
4. 環境とメディア
  - 1) メディアと環境
  - 2) メディアと歴史
  - 3) メディアと倫理（ことばの暴力）
  - 4) 関連法規との関連
5. まとめ：マルチメディアの意義

**【成績評価の方法】**

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する。出席点は各授業1回出席について1点

**【教科書】**

必要に応じて 適宜容易する

**【参考文献】**

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社 2003. 4）

科 目 名			
<b>民事執行法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	本 間 法 之

#### 【講義概要・学習目標】

民事執行法とは、簡単に言えば、強制執行の手続を定める法律のことです。民法・商法などの実体法上の権利は、民事訴訟の判決によって観念的に形成（実現）され、強制執行手続によって事実として形成（実現）されることとなります。本講義では、この民事執行手続の基礎を概説します。

民事執行法は、「民法・商法→民事訴訟法」に続く民事法の一連の流れの延長線上にあります。本講義を受講する学生諸君には、民法、商法（会社法）、並びに、民事訴訟法、及び倒産処理法（破産法、民事再生法会社更生法）を併せて受講することが望まれます。

#### 【講義計画】

- 第1回 民事執行法の位置づけ
- 第2回 民事執行制度の意義と基本構造
- 第3回 執行機関と執行法上の不服申立て
- 第4回 不動産執行（1）差押え
- 第5回 不動産執行（2）売却の準備
- 第6回 不動産執行（3）買受人の法的地位
- 第7回 不動産執行（4）引渡命令
- 第8回 不動産執行（5）執行競合・配当要求
- 第9回 動産執行
- 第10回 債権執行（1）差押え
- 第11回 債権執行（2）換価・配当
- 第12回 非金銭執行（1）引渡・明渡執行
- 第13回 非金銭執行（2）代替執行、間接強制、意思表示義務
- 第14回 まとめ

#### 【成績評価の方法】

定期試験期間中の試験は行わず、下記の①及び②に基づいて、総合的に評価します。

- ①受講態度（出席状況、予習・復習状況、講義に対する積極性）（40%）
- ②授業中に適宜実施する試験（1～2回程度を予定）（60%）

なお、講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

#### 【教科書】

講義では、レジュメを配布する予定です。

講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、「民事執行規則」が掲載されている六法を用意して下さい。

#### 【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

科 目 名			
<b>民事訴訟法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	本 間 法 之

#### 【講義概要・学習目標】

民事訴訟法の判決手続について概説します。判決手続とは、訴えの提起から審理を経て判決の確定に至るまでの裁判の手続のことです。民事訴訟法に代表される手続法と、民法・商法などの実体法は、しばしば車の両輪に例えられます。実体法上の権利の保障は、その権利の実現の手続がなければ、画に描いた餅にすぎません。この意味で、手続法の学習は必要不可欠であり、「権利実現の鍵となる民事訴訟法を学ぶことによって初めて権利の何たるかが理解できる」といっても過言ではありません。多くの大学の法学部で民事訴訟法が必修科目とされているのはこのためです。

法学学は、実体法・手続法の双方の学習を通じて初めて理解することができるものです。そこで、本講義の受講生には、商法（会社法）、さらに民事執行法および倒産処理法（破産法・民事再生法会社更生法）を併せて受講することが望まれます。「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法→倒産処理法」と学んで初めて民事法の全体法が理解できるのです。

#### 【講義計画】

- (1) 民事紛争と民事訴訟
- (2) 民事裁判と裁判を受ける権利（手続保障）：裁判権の限界、訴訟と非訟
- (3) 現代社会における民事訴訟の課題
- (4) 訴訟の開始
- (5) 訴訟要件
- (6) 審判の対象（その1）
- (7) 審判の対象（その2）
- (8) 受訴裁判所
- (9) 訴訟当事者（その1）
- (10) 訴訟当事者（その2）
- (11) 訴訟当事者（その3）
- (12) 訴訟審理の基本構造（その1）
- (13) 訴訟審理の基本構造（その2）
- (14) 訴訟審理の基本構造（その3）
- (15) 訴訟審理の過程（その1）
- (16) 訴訟審理の過程（その2）
- (17) 訴訟審理の過程（その3）
- (18) 訴訟審理の過程（その4）
- (19) 証拠（その1）
- (20) 証拠（その2）
- (21) 証明責任（その1）
- (22) 証明責任（その2）
- (23) 証拠調べの手続
- (24) 訴訟の終了
- (25) 既判力
- (26) 執行力と形成力
- (27) 複雑な訴訟（その1）
- (28) 複雑な訴訟（その2）
- (29) 複雑な訴訟（その3）
- (30) 裁判に対する不服申立て（上訴制度）

#### 【成績評価の方法】

定期試験期間中の試験は行わず、下記の①及び②に基づいて、総合的に評価します。

- ①受講態度（出席状況、予習・復習状況、講義に対する積極性）（30%）
- ②授業中に適宜実施する試験（3回程度を予定）（70%）

なお、講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

#### 【教科書】

講義では、レジュメを配布する予定です。

近年、重要な法改正が相次いでいますので、講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、民事訴訟規則が掲載されている六法を携行して下さい。特に、本講義とあわせて民事執行法や倒産処理法の受講も考えている人は、民事執行規則・民事再生規則・会社更生規則など、参照

が必要な規則類が掲載されているものを購入して下さい。

**【参考文献】**

講義の際に、適宜紹介します。

科 目 名			
<b>民俗学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 野 啓

**【講義概要・学習目標】**

民俗学は伝統的な生活慣行を対象とした学問であり、その対象に迫る手段としてフィールドワークを取り入れていることに特色があると考えられている。そこで、本講では前期に生活慣行を伝統として認識するというは、学問的にどのような意義を持つのかについて検討する。民俗学におけるフィールドワークは、どのような特質を有しており、どのような問題点を有しているのかについて述べてゆく。また、後期では前期の講義を踏まえつつ、具体的な研究テーマがどのように展開してきたのかについて検討してゆくことにする。

**【講義計画】**

- 第1回  
ガイダンス  
伝統を対象とすることとは？
- 第2回  
近代知としての民俗学
- 第3回  
民俗学の前史
- 第4回  
柳田民俗学の発生
- 第5回  
柳田民俗学の展開
- 第6回  
柳田民俗学の展開
- 第7回  
柳田民俗学の残したもの
- 第8回  
地域民俗学の展開
- 第9回  
地域民俗学の問題と現在の民俗学
- 第10回  
民俗学が描いてきた世界
- 第11回  
民俗学が対象としたもの、しなかったもの
- 第12回  
民俗調査とその手法
- 第13回  
民俗誌の作成（調査データをどのように使うのか）
- 第14回  
学史と方法論についてのまとめ
- 第15回  
前期試験
- 第16回  
墓制研究の概要
- 第17回  
様々な両墓制の解釈について
- 第18回  
両墓制をめぐる民俗学の思考について
- 第19回  
村落社会研究の概要
- 第20回  
多様な村落社会をいかに理解するのか
- 第21回  
多様な村落社会をいかに理解するのか
- 第22回  
村落類型論と地域民俗学
- 第23回  
家論と同族論の概要
- 第24回  
家族の延長としての家・同族1
- 第25回  
家族の延長としての家・同族2
- 第26回  
生活集団としての家・同族1
- 第27回  
生活集団としての家・同族2

第28回  
構造的把握と機能的把握  
第29回  
民俗学の課題  
第30回  
後期試験

**【成績評価の方法】**

試験…80%、小レポート…20%

**【参考文献】**

赤田光男ら編『講座日本の民俗学10民俗研究の課題』雄山閣出版  
岩本通弥変『現代民俗誌の地平3 記憶』朝倉書店  
などを参考文献とする。また、必要に応じて参考文献などを講義中に紹介する

科 目 名

民法 I (総則)

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	佐 藤 啓 子

**【講義概要・学習目標】**

民法の基本的な知識を履修し、民法の内、第一編「総則」を学ぶ。  
また、専門科目を学ぶにあたってのガイダンスを引き続き行う。

**【講義計画】**

授業進行上、多少の前後はある。

第一—三講の途中まで 序論  
第三講の途中から 民法の構造  
第四—六講 自然人  
第七講 物  
第八—十二講 法律行為  
第十三—十六講 代理  
第十七・十八講 無効・取消し  
第十九講 条件、期限、期間  
第二十一—二十四講 時効  
第二十五—二十七講 法人  
第二十八講 民法における試験解答の書き方について

**【成績評価の方法】**

出席とその態度、随時行う小テスト及び期末テストとする。

**【教科書】**

甲斐道太郎ほか編 新民法概説 1 第4版 総則・物権 有斐閣  
星野英一ほか編 民法判例百選 I 有斐閣  
雑誌です。厳密にはISBNではなくISSNです。  
ポケット六法、コンサイス六法、デイリー六法のいずれか  
学期の途中で2009年版と買い換えること

**【参考文献】**

内田貴『民法 I』東京大学出版会・ISBN4130323318

ま  
行

科 目 名			
民法Ⅱ [J]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	佐 藤 啓 子

**【講義概要・学習目標】**

民法の中の第二編「物権」を学ぶ。社会人としての知識がない学生にとってはわかりにくい分野だが、近代における取引の発展の基礎になる部分なので心して学んでほしい。

**【講義計画】**

第一―三講 物権法総論  
 第四―第六講途中まで 物権変動  
 第六講途中―第八講 占有権  
 第九・十講 所有権  
 第十一講―第十二講途中 用益物権  
 第十二講途中―第一三講 担保物権総説  
 第十四・十五講 法定担保物権  
 第十六・十七講 質権  
 第十八講―第二十一講の途中 普通の抵当権  
 第二十一講の途中―第二十二講 特殊の抵当権  
 第二十三講―第二十八講 非典型担保

**【成績評価の方法】**

出席とその態度、随時行う小テスト及び期末テストとする。

**【教科書】**

甲斐道太郎ほか編 新民法概説 1 第4版 総則・物権 有斐閣  
 星野英一ほか編 民法判例百選Ⅰ 有斐閣  
 雑誌です。厳密にはISBNではなくISSNです。  
 ポケット六法、コンパクト六法、デイリー六法のいずれか  
 2008年版を持参すること

**【参考文献】**

内田貴『民法Ⅰ』東京大学出版会・ISBN4130323318  
 内田貴『民法Ⅲ』東京大学出版会・ISBN4130323334

科 目 名			
民法Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	田 中 志 津 子

**【講義概要・学習目標】**

一定の財産上の行為を請求する権利である債権の意義、目的、内容について、具体的な事例を取り入れつつ講義を進める。  
 債権の効力や多数当事者の債権関係等、私人間の法律関係を学ぶ上で重要な事柄の理解を目指す。

**【講義計画】**

- ・受講時の注意、民法における債権総論の位置付け、債権の意義
- ・債権の意義・法的性質、債権の目的、債権の種類（1）
- ・債権の種類（2）
- ・債権の効力序説・現実的履行の強制
- ・債務不履行（1） 履行遅滞
- ・債務不履行（2） 履行不能
- ・債務不履行（3） 不完全履行
- ・債務不履行（4） 損害賠償の範囲
- ・債権者代位権（1）
- ・債権者代位権（2）
- ・債権者取消権（1）
- ・債権者取消権（2）
- ・第三者による債権侵害
- ・多数当事者の債権債務関係（1） 可分・不可分債務、連帯債務①
- ・多数当事者の債権債務関係（2） 連帯債務②
- ・多数当事者の債権債務関係（3） 保証債務①
- ・多数当事者の債権債務関係（4） 保証債務②
- ・多数当事者の債権債務関係（5） 保証債務③
- ・債権譲渡（1）
- ・債権譲渡（2）
- ・債権譲渡（3）
- ・債務引受
- ・債権の消滅（1） 弁済・代物弁済
- ・債権の消滅（2） 供託・相殺
- ・債権の消滅（3） 更改・免除・混同

\*適宜小テストを行う

**【成績評価の方法】**

試験（約80%）及び授業態度等（約20%）により総合的に評価する。

**【参考文献】**

- ・民法判例百選（1）（別冊ジュリスト（No.159）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114595；第5版版1巻（2001/09））
- ・民法判例百選（2）（別冊ジュリスト（No.160）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114609；第5版版2巻（2001/10））

\*理解を深めるため、上記指定教科書とは別に基本書（特に指定しない）を読むことを推奨する。  
 詳細は授業にて説明する。

**【備考】**

- ・携帯電話の着信音は必ず切っておくこと。
- ・その他、授業の妨げになる行為を行った者は退出させる。
- ・最新の六法を必ず持参すること。
- ・授業計画を目安に授業を進めるが、進捗状況により講義の順序等を変更することがある。

科 目 名			
民法Ⅳ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	田 中 志津子

**【講義概要・学習目標】**

典型契約を中心に、具体的事例を用いつつ、契約という法的関係を理解することを目標とする。

また、契約関係がない場合の法的処理についても学習する。

**【講義計画】**

- ・受講時の注意、民法における債権各論の位置付け、契約の成立（1）
  - ・契約の成立（2）
  - ・双務契約の牽連関係（1） 同時履行の抗弁権、危険負担①
  - ・双務契約の牽連関係（2） 危険負担②
  - ・双務契約の牽連関係（3） 解除権①
  - ・双務契約の牽連関係（4） 解除権②
  - ・贈与契約、交換契約、売買契約（1）
  - ・売買契約（2）
  - ・売買契約（3）
  - ・使用貸借契約、消費貸借契約、賃貸借契約（1）
  - ・賃貸借契約（2）
  - ・賃貸借契約（3）
  - ・雇用契約、請負契約（1）
  - ・請負契約（2）、委任契約
  - ・組合契約、終身定期金契約、和解契約
  - ・事務管理・準事務管理
  - ・不当利得（1）
  - ・不当利得（2）
  - ・不法行為（1） 不法行為総論
  - ・不法行為（2） 過失
  - ・不法行為（3） 違法性
  - ・不法行為（4） 因果関係
  - ・不法行為（5） 損害賠償請求権
  - ・不法行為（6） 使用者責任、工作物責任
  - ・不法行為（7） 共同不法行為
- \*適宜小テストを行う。

**【成績評価の方法】**

試験（約80%）及び授業態度等（約20%）により総合的に評価する。

**【参考文献】**

- ・民法判例百選（1）（別冊ジュリスト（No.159）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114595；第5版 版1巻（2001/09））
- ・民法判例百選（2）（別冊ジュリスト（No.160）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114609；第5版 版2巻（2001/10））

\*理解を深めるため、上記指定教科書とは別に基本書（特に指定しない）を読むことを推奨する。  
詳細は授業にて説明する。

**【備考】**

- ・携帯電話の着信音を必ず切っておくこと。
- ・その他、授業の妨げになる行為を行った者は退出させる。
- ・最新の六法を必ず持参すること。
- ・授業計画を目安に授業を進めるが、進捗状況により講義の順序等を変更することがある。

科 目 名			
民法Ⅴ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	永 水 裕 子

**【講義概要・学習目標】**

この講義では、家族関係をめぐる紛争が生じた場合に、解決の基準となる民法第4編「親族」、第5編「相続」および関連諸法（家事審判法等）を取り上げる。これら諸法のしくみを把握するだけでなく、生殖補助医療（死後受精や代理懐胎）により出生した子の法的地位やいわゆる300日問題等の現代的問題をも取り扱うことで、家族と社会と法とのかかわりを理解してもらうよう努める。また、判例紹介を常に行うことにより、裁判における条文解釈の展開を学ぶ。

**【講義計画】**

- 第1回：序説
- 第2回：家事事件処理の手続
- 第3回：氏名と戸籍、親族
- 第4回：婚姻1（婚姻の成立および無効・取消し）
- 第5回：婚姻2（婚姻の一般的効力）
- 第6回：婚姻3（夫婦財産制1）
- 第7回：婚姻4（夫婦財産制2）、婚姻の解消
- 第8回：裁判離婚1（770条1項1号から4号）
- 第9回：裁判離婚2（770条1項5号）
- 第10回：婚姻解消の効果1（財産分与）
- 第11回：婚姻解消の効果2（子の監護と親権）
- 第12回：内縁
- 第13回：親子1（嫡出推定制度）
- 第14回：親子2（認知制度）
- 第15回：親子3（生殖補助医療をめぐの問題）
- 第16回：親子4（養子法の沿革、養子縁組の成立）
- 第17回：親子5（養子縁組の無効・取消し、離縁）
- 第18回：親子6（特別養子縁組）
- 第19回：親権
- 第20回：後見・保佐・補助、扶養
- 第21回：相続法の基礎
- 第22回：相続人と相続分
- 第23回：相続の効力1（相続の一般的効果）
- 第24回：相続の効力2（遺産の共有）
- 第25回：相続の効力3（遺産分割）
- 第26回：相続の承認・放棄
- 第27回：遺言
- 第28回：遺留分
- 第29回：まとめ
- 第30回：期末試験

**【成績評価の方法】**

期末試験および出席による。

**【教科書】**

高橋朋子・床谷文雄・棚村政行 民法7親族・相続（第2版）有斐閣  
久貴忠彦・米倉明・水野紀子編 家族法判例百選（第6版）有斐閣

科 目 名			
民法A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	徳 野 剛

**【講義概要・学習目標】**

民法は、最初に総則だけを少々詳しく勉強してもなかなか理解しにくいものであって、一応、民法全体の輪廓を把握して、その後、さらに総則から個別的に詳細に勉強するのがよいであろう。法律用語、基礎知識を習得し、具体的事例、判例なども用いながら講義を進めていく。

民法の知識・理解はあらゆる法の知識、理解の基礎になるものである。本講義では、民法のうち、第一編「総則」を学習する。関連事項、必要に応じて、物権、債権、家族法等にも触れることもある。「総則」の中心である意思表示、法律行為などは特に重要であり、この点にも考慮してやっていきたい。

**【講義計画】**

1. 序説
2. 民法の基本原則、体系
3. 人（1） 権利能力、意思能力、行為能力
4. 人（2） 法人
5. 権利の客体「物」
6. 法律行為
7. 意思表示
8. 代理
9. 法律行為の無効・取消
10. 条件 期限
11. 期間
12. 時効
13. 法律行為と取消（1）
14. 法律行為と取消（2）
15. 総則演習

**【成績評価の方法】**

基本的には、期末の筆記試験によるが、出席状況、授業中の態度等によって評価する。

**【教科書】**

半田正夫「やさしい民法総則」法学書院

**【参考文献】**

「ホーンブック民法Ⅰ」民法総則  
伊藤 進 編  
北樹出版  
最新の六法（出版社は問わない）

**【備考】**

講義には、その流れがあるので、できるだけ多く出席願いたい。その際六法全書（最近版）を持参願いたい。

科 目 名			
民法B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	徳 野 剛

**【講義概要・学習目標】**

物権は、特定の物を直接的かつ排他的に支配して一定の利益を享受しうる権利である。物権の客体は、特定の物（有体物）でなければならない。債権は不特定債権を目的としても成立しうるが、物権の客体は特定物にかぎられる。例外的に財産権を客体とする物権も認められている。

物権の意義・本質から話を始めていく。物権の変動、公示の原則、公信の原則等を述べ、物権の種類は民法その他の法律で定められているもの以外は作出できないことに言及する。その後、担保物権に進んでいく。以上のようなところを考慮し、事例、判例なども採用して講義を進める。

**【講義計画】**

1. 序説
2. 物権の意義と本質
3. 物権の変動
4. 不動産登記
5. 所有権
6. 占有権
7. 物権的請求権
8. 用益物権
9. 担保物権概説
10. 留置権
11. 先取特権
12. 質権
13. 抵当権
14. 根抵当権
15. 譲渡担保

**【成績評価の方法】**

基本的には、期末の筆記試験によるが、出席状況、授業中の態度等によって評価する。

**【教科書】**

伊藤 進 編〔改訂版〕「ホーンブック民法Ⅱ物権法」北樹出版

**【参考文献】**

山野目 章夫「初歩からはじめる物権法」〔第4版〕日本評論社  
最新の六法（出版社は問わない）。

**【備考】**

講義には、その流れがあるので、できるだけ多く出席願いたい。その際、六法全書（最近版）を持参して下さい。



科 目 名			
民法入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	馬 場 巖

**【講義概要・学習目標】**

民法は、人が生活するうえで重要な法律です。本講義は、以後の民法の各科目の理解の一助となるよう重要事項につき講義を行います。

**【講義計画】**

・民法の基本原則・権利能力・意思能力・制限行為能力・法律行為・代理・物権の種類・物権変動・用益物権・担保物権・契約の種類・債務不履行・保証・危険負担・瑕疵担保責任・債権譲渡・不法行為・親子・相続等について講義をします。

**【成績評価の方法】**

試験によります。

**【教科書】**

未定

科 目 名			
メディアリテラシー入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	境 真理子

**【講義概要・学習目標】**

メディアリテラシーとは、私たちの生活を取りまくメディアを読み解き、使いこなし、表現する複合的な能力の事です。今日の社会では、さまざまな情報がメディアを介して奔流のように流れ込んできますが、一方で私たちは情報を無自覚に受け取っていないでしょうか。その質を見分け、判断し、選択し、表現しているでしょうか。授業はこの問いから出発し、膨大な情報があふれる社会の迷路を克服するための基礎的な知識を学びます。また、さまざまなメディアに着目するなかから、他者を理解し、豊かで創造的な社会のあり方を考えます。

**【講義計画】**

- 1, 私とメディアリテラシー：全体オリエンテーションと解説
- 2, 私のメディアマップ：身の周りのメディアをマッピングし自分の位置を確認する
- 3, 私に身近なメディア：放送がもつメッセージと影響力を知る
- 4, 私のメディアヒストリー：メディアの歴史を学ぶ
- 5, 私のメディア生活1：自分と情報の関係を分析・理解する
- 6, 私のメディア生活2：情報を受けとる自分を対象化する
- 7, 私が好きなメディア：好きなメディア、嫌いなメディアの特徴と仕組みを知る
- 8, 私が使うメディア：よく利用するメディアの種類と生産の仕組みを知る
- 9, 私が作るメディア：主体的な情報収集と作る意図、創造的な表現を考える
- 10, 私が送るメディア：発信する責任を考える
- 11, デイアでつながる：メディアを通してコミュニケーションを生み出す
- 12, メディアで遊ぶ：携帯電話を使ったワークショップ実践
- 13, メディアを選ぶ：取材ゲームを通じた実践
- 14, メディアを考える：総合ディスカッション、振り返りとまとめ
- 15, 試験

**【成績評価の方法】**

出席、リアクションシート、及び期末試験による評価

**【教科書】**

特に指定しない。

**【参考文献】**

水越伸編「メディアリテラシーの工具箱」（東大出版会2005）

**【備考】**

授業の一部に、グループ作業やワークショップの手法が取り入れられる。  
今日的なメディア話題はその都度、内容に反映させる。

<08L生>のみ対象

科 目 名			
<b>文字・表記論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤 原 健

**【講義概要・学習目標】**

言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。

日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ／こんにちは」「そのとうり／そのとおり」「ぬのじ／ぬのぢ」のどちらの表記が正しいか、自信を持って言えるだろうか。

外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。

**【講義計画】**

1. 日本語の表記法と基準
  - 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）
  - 2) 平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）
  - 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）
  - 4) 送り仮名の付け形
  - 5) ローマ字の種類と表記法
2. 文字に関する知識
  - 1) 漢字の成り立ち（六書、部首、画数、字形等）
  - 2) 仮名の成り立ち（真名、平仮名、片仮名等）

**【成績評価の方法】**

定期試験（半期科目であるので、秋学期1回）により評価する。詳しくは、授業初回に説明する。

**【教科書】**

富田隆行・眞田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック（2）新・表記』国際交流基金／凡人社

**【参考文献】**

清水義昭（編）『概説 日本語学・日本語教育』（おうふう）

科 目 名			
<b>野外レクリエーション実習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	益 田 博

**【講義概要・学習目標】**

組織キャンプを題材として、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者への野外活動指導に関する理論とプログラムを学ぶ。また、安全管理やプログラム運営の技術、グループワークの体験ができるよう夏期休暇中のキャンプ指導実習を行う。体験を通して主体的に学ぶことを重視する。

**【講義計画】**

- 野外レクリエーションと野外教育
- 組織キャンプの理解
- キャンプの対象とプログラム
- 福祉とレクリエーション
- キャンプと福祉対象者
- 個々のプログラムの運営と指導
- 救急法
- 野外活動とリスクマネジメント
- キャンプ実習
- 記録と評価

**【成績評価の方法】**

出席点と、小グループによる研究と発表、レポートなどにより評価します。

**【教科書】**

石田易司 Camping For All—障害者キャンプマニュアル エルピス社

**【参考文献】**

授業中に紹介します。

ヨーロッパ経済論

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	棚 池 康 信

【講義概要・学習目標】

この講義ではヨーロッパの経済統合（EU）について論じてゆく。EUは共通通貨ユーロの紙幣とコインが発行され、従来の国民通貨はすでに姿を消している。この共通通貨の導入は、ヨーロッパ各国の市場が一体化し、ヨーロッパ企業がヨーロッパ市場を単一のものとして行動しつつあることが前提となっている。また、経済政策も多くの分野で共同体やECB（欧州中央銀行）に権限が移されている。このようにEUは経済統合の面ではきわめて高い段階に到達しており、さらにそのディメンションは政治統合から、市民的統合の側面を加えつつある。また2004年には、中東欧諸国を中心に10カ国が新たに参加し、ヨーロッパの一体的空間はさらに経済的・政治的重要性を高めている。しかしながら昨年末は、リスボン条約に調印して統合の新たな粋実を与えられた。このようなヨーロッパ経済統合の現状を理解することがこの講義の課題である。ユーロを導入したヨーロッパ経財の現状は実に興味深い、単なる現状理解にとどまらず、統合の歴史的過程と国際経済環境の中に、EU経済の現状を立体的に位置付けることを目標とする。

【講義計画】

前期

市場統合とユーロの導入

1. 2005年のEU；一つの挫折
2. EUの到達点
3. 経済統合論とEU
4. 連邦の経済学と補完性原理
4. 経済統合と新機能主義
5. EU統合と条約
6. EU統合と機構
7. EU統合の過程（4つの統合局面）
8. EUの統合過程と第3局面
9. 92年市場統合の概要
10. 92年市場統合の意義
11. 70年代の通貨統合の過程
12. スネークとその挫折
13. スネーク挫折の意義
14. EMSとECU
15. EMSとERM

後期

1. 第2局面におけるヨーロッパの停滞
2. 統合環境の変化とSMP
3. SMPと共同市場
4. 統合環境の変化とSEA
5. SEAとヨーロッパ統合の局面変化
6. SMPとSEA
7. 市場統合とEMU
8. EMUとドロール計画
9. マーストリヒト条約とEMU
10. EMU第2段階の意義
11. ユーロの導入と政策統合
12. ユーロ経済
13. 市場統合のとリスボン戦略
14. リスボン条約
15. 総括

【成績評価の方法】

前期・後期末の試験によるが、経過によっては授業中の小テストを実施する。

【教科書】

棚池康信『EUの市場統合』晃洋書房

【参考文献】

田中素香他『現代ユーロ経済』有斐閣

島野卓爾他編『EU入門』有斐閣

清水貞俊『欧州統合への道』ミネルヴァ書房

内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論』ミネルヴァ書房

科 目 名			
ヨーロッパ文化研究－イタリア文化と都市			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	和 栗 珠 里

**【講義概要・学習目標】**

イタリアはユネスコ世界文化遺産が最も多い国である。そのほとんどは都市に集中し、ローマやフィレンツェなど、都市の歴史地区がまるごと世界遺産に指定されている場合も少なくない。イタリアの文化は都市の文化なのである。イタリアの主要都市は古代に起源を持ち、中世には各々が独立した都市国家を形成していた。そのような多様性と長い歴史がイタリア文化の豊かさを生み出したといえる。この講義では、まずイタリア都市の全般的な特徴について説明し、その後、個々の都市の文化を歴史的な背景とともに論じていく。

**【講義計画】**

1. イタリア都市論
2. ローマ
3. シチリア島の都市
4. 海港都市（ラヴェンナ、ピサなど）
5. ヴェネツィア
6. ミラノ
7. フィレンツェ
8. 内陸都市（シエナ、ペルージャなど）
9. ナポリ
10. トリノ

**【成績評価の方法】**

平常点（毎講義末にその日の講義の要点をまとめて提出したもの）とレポートによる。

**【教科書】**

プリント配布

**【参考文献】**

- 藤沢道郎『物語イタリアの歴史 解体から統一まで』中央公論社、1991年  
 山辺規子・藤内哲也編『イタリア都市社会史研究入門』昭和堂、2008年（予定）  
 河島英昭監修『読んで旅する世界の歴史と文化 イタリア』新潮社、1993年  
 清水廣一郎・北原敦編『概説イタリア史』有斐閣、1988年

科 目 名			
ヨーロッパ文化研究－フランス文化の諸相			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	アニー ヤマサキ

**【講義概要・学習目標】**

現在のフランス人のライフスタイルや思考傾向などについて色々なアスペクトを通して説明いたします。

**【講義計画】**

- \*個人としてのフランス人
  - 外観意識
  - 礼儀作法
- \*フランスの家族
  - 男女のあり方
  - 若者たち
  - 日常生活
- \*フランスの社会
  - 社会構成
  - 社会生活
  - 価値観
- \*仕事とレジャー
  - 就労人口
  - ひまな時間とヴァカンス

**【成績評価の方法】**

平常点。講義のまとめ方および感想の質的内容によって成績を評価します。火、金、それぞれの提出は、8回以上でなければなりません。鉛筆は禁止です。

**【教科書】**

講義ですので、テキストがありません。ノートを取り、各講義の最後の20分間でまとめを提出すること。

**【参考文献】**

- 「現代フランス情報辞典」（増補版）草場安子 大修館 2001年  
 「フランス新・男と女」 ミュリエル・ジョリヴェ/鳥取絹子 訳 平凡社 2001年  
 「知っていそうで知らないフランス」 安達功 平凡社 2001年  
 「フランスの知恵と発想」 小林善彦 白水社 1992年  
 「はじめて学ぶフランス」 関谷和彦 細身和志 山上浩嗣（共著） 関西学院出版会 2004年

科 目 名			
ヨーロッパ文化研究－ロシア文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	国 松 夏 紀

**【講義概要・学習目標】**

ヨーロッパvs.アジア、後進性vs.先進性、強固な規範vs.激しい逸脱、聖vs.俗、限らない夢想vs.現実主義、... 様々な局面において相矛盾する要因をはらむロシアとその文化を歴史的に検討する。

おそらくは、極めて図式的ではあるが、これら矛盾の「止揚」こそがロシアとその文化なのである。さらに一般的にも、「文化」とは様々な局面での「接触」における対立解消装置・機能であるうとの見通しのもと、講義を進める。

**【講義計画】**

下記参考文献の枠組みを借用する。ただし、この枠組みを超える範囲、とりわけソ連崩壊後に関しては、適宜補足する。

- 第1回 (序) 講義概要／ロシア文化の対立軸  
 第2回 ロシア文化の特異性・突発性  
 I. 背景 10世紀から13世紀  
 第3回 森のロシア・ロシアの森／イコンとは何か？ 手斧とは何か？  
 第4回 ロシアの源流キエフの興亡  
 第5回 モンゴル・タタールのくびき (アジアのロシア支配)  
 II. 接触 14世紀初期～17世紀  
 第6回 モスクワ公国の思想体系  
 第7回 西欧の到来／ノヴゴロド、「ラテン人」  
 第8回 「ドイツ人」、宗教戦争  
 III. 教会分裂の世紀 17世紀中期～18世紀中期  
 第9回 内部分裂／大変動  
 第10回 西欧への転向／分派教徒の伝統  
 第11回 新世界としてのペテルブルク  
 第12回 守勢のモスクワ／両首都の時代  
 IV. 貴族文化の世紀 18世紀半ば～19世紀半ば  
 第13回 紆余曲折の啓蒙思想  
 第14回 ナポレオンのロシア侵入とアレクサンドル1世  
 第15回 反啓蒙思想／カトリック、敬虔派、ロシア正教  
 第16回 「呪われた問題」／哲学の昂揚、歴史の意味  
 第17回 芸術の予言的役割、消えたマドンナ、「ハムレット問題」  
 V. 新しき岸辺へ 19世紀後半  
 第18回 社会思想への転換  
 第19回 ナロードニキ芸術の苦悩  
 第20回 新たな展望？／憲政自由主義、弁証法的唯物論  
 第21回 神秘主義的観念論  
 VI. 不安定な巨像  
 第22回 二つの世紀の狭間で／ロシアの世紀末・終末  
 第23回 ロシア革命とソ連邦の誕生  
 第24回 つかの間のアヴァン・ギャルド芸術  
 第25回 映像の世紀幕開け／エイゼンシュテイン  
 第26回 パステルナークとその時代  
 第27回 ソ連邦崩壊 (カタストロフィ) とロシア連邦の誕生  
 第28回 21世紀ロシアとその文化

**【成績評価の方法】**

春学期末レポートにより評価します。1回きりですので、力を期待します。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり、「感想文」を提出。これも評価の対象とします。出席重視、遅刻・私語厳禁。

**【教科書】**

特に定めません。

**【参考文献】**

ジェームズ・H・ピリントン著 (藤野幸雄訳)  
『聖像画 (イコン) と手斧 ロシア文化史試論』  
勉誠出版 (株) 2000年5月刊 (英語版原著は1966年刊)  
ISBN 4-585-03068-9 C0022

科 目 名			
リハビリテーション論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	倉 澤 茂 樹

**【講義概要・学習目標】**

少子高齢社会や都市部への人口集中などを背景に、リハビリテーションは転換期を迎えている。本講義

では、まず「リハビリテーション」「健康」について、その概念と考え方を確認し、リハビリテーションの現状と今後のあり方について学習する。また、各論として身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害のリハビリテーションを紹介し、現状と課題について考察を深める。

**【講義計画】**

1. リハビリテーションとは
2. 健康と病気と障害 健康とは？・病気とは？・障害とは？
3. リハビリテーション医療の流れ  
リハビリテーションの専門職  
急性期・回復期・維持期
4. これからのリハビリテーション  
予防・終末期
5. リハビリテーションの実際  
身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害

**【成績評価の方法】**

筆記試験

**【教科書】**

なし (当日、印刷物を配布)

**【参考文献】**

入門 リハビリテーション概論 第六版 中村隆一編集 医歯薬出版株式会社  
これからのリハビリテーションのあり方 日本リハビリテーション病院・施設協会編集 青海社  
地域リハビリテーション原論 Vol. 4 大田仁史著 医歯薬出版株式会社

や・ら・び

科 目 名			
リメディアル科目－日本語力を鍛え直すⅠ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	辻 洋一郎

**【講義概要・学習目標】**

皆さんは、授業を聞いてしっかりメモはとれますか？社会人にも通じるようなキチンとしたメールを書けますか？大学の講義で課せられるレポートの書き方は知っていますか？

本講義は皆さん方が直面するこのような課題の取り組み方を具体的に解説し、実際にトレーニングすることで、大学に必要な「日本語力」について再確認し、能力を向上させることを目的にしています。ですから一般的な大学の講義とは異なり、実際に手を動かして取り組んでゆくことが強く求められます。他の講義に比べて多少しんどいかもしれませんが、がんばって講義を受けてゆくうち、どんどん自分の知識の吸収能力や思考力が高まってゆくことを実感するはずですよ。

大学入学を機に、勉強しなおそう、新たに何か取り組みたいという方にはピッタリです。

尚、秋学期にも同じ趣旨で使用教材をVTRに変えた授業を行います。2つは連動していますので、続けてとると効果的です。また、同様に自分の能力を鍛えるという意味で、春学期に開講される「共通自由特別講義－IT活用の実際」もオススメです。併せて受講されることを推奨します。

**【講義計画】**

- (01) オリエンテーション
- (02) メモの取り方①／文章の書き方①
- (03) メモの取り方②／文章の書き方②
- (04) メモの取り方③／文章の書き方④
- (05) レポートとは／レポートの書き方①
- (06) レポートの書き方②
- (07) メモの取り方④／文章の書き方④
- (08) メモの取り方⑤／文章の書き方⑤
- (09) メモの取り方⑥／文章の書き方⑥
- (10) メモの取り方⑦／文章の書き方⑦
- (11) メモの取り方⑧／文章の書き方⑧
- (12) 本の読み方①
- (13) 本の読み方②
- (14) まとめ

**【成績評価の方法】**

出席と受講態度、提出物の完成度で評価します。

**【教科書】**

別途指示します。

**【参考文献】**

必要に応じて指示します。

**【備考】**

<08生>のみ対象

科 目 名			
リメディアル科目－日本語力を鍛え直すⅡ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	辻 洋一郎

**【講義概要・学習目標】**

この講義は春学期に開講する「リメディアル科目－日本語力を鍛え直すⅠ」の続編で、教材をVTRに変えて行なうものです。詳細は上記講義の項目をご覧ください。

**【講義計画】**

- (01) オリエンテーション
- (02) VTRの要点を押さえる訓練①
- (03) VTRの要点を押さえる訓練②
- (04) VTRの要点を押さえる訓練③
- (05) VTRの要点を押さえる訓練④
- (06) VTRの要点を押さえる訓練⑤
- (07) VTRの要点を押さえる訓練⑥
- (08) VTRの要点を押さえる訓練⑦
- (09) VTRの要点を押さえる訓練⑧
- (10) VTRの要点を押さえる訓練⑨
- (11) VTRの要点を押さえる訓練⑩
- (12) VTRの要点を押さえる訓練⑪
- (13) VTRの要点を押さえる訓練⑫
- (14) まとめ

**【成績評価の方法】**

出席と受講態度、及び毎回の提出物で評価します。

**【教科書】**

ありません。

**【参考文献】**

ありません。

**【備考】**

<08生>のみ対象

科 目 名			
<b>流通論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	岸 本 裕 一

#### 【講義概要・学習目標】

流通とは、生産と消費という2つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通を考える視野を持つことであり、かつまた、時代の要請に応えるべく、フロンティア精神でもって思考構築を行なうことであろう。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、建学の精神にいう世界の市民としての視点から、新世紀の流通・マーケティングの最前線を理解することということになる。

さて、講義内容は、講義計画に示すように多岐にわたるが、その一部を紹介する。まずはじめに、世界経済のトレンドと流通や、流通論の範囲と対象などの概論を学んだ後、各論に入る。まず、教科書2を用いつつ、ブランド論・販売促進論を講義する。販売促進の1つであるテレビCMは、現代社会を映す鏡であることを踏まえたい。また、フロンティア産業としてのエンターテインメント・ビジネス論が興味深い。教科書1を用いつつ、音楽ビジネス・マーケティングの展開やギャンブル産業・マーケティングの新展開、特にカジノ開設の是非などに触れていきたい。ビデオやCD等を駆使しながら、わが国独特のこの状況をも含めて、リアルタイムに動くものを取り入れていくつもりである。

#### 【講義計画】

##### A 流通論の包括的理解

0. 流通論では何を学ぶか一本講義の課題と方法
1. 今、日本流通シーンでは何が起きているのか
2. 世界経済のトレンドと流通
3. 流通論の範囲と対象
4. 流通研究の理論研究 1 & 2 (課題提示)

##### B 流通経済の実際の側面

1. 食品産業80兆円の構造
2. 食品産業のグローバル競争
3. ブランド作りの実際
4. インタネットと流通
5. 広告による販売促進—テレビCMを中心に—
6. SCM (サプライチェーンマネジメント) の展開
7. GM (遺伝子組み換え食品) の是非と流通経済
8. 内外価格差と日本食の海外浸透
9. 学校給食と食育教育
10. ドラッグストアと業態間競争
11. 地域振興と地域ブランド形成 (道の駅など観光も含む)

##### C ヒューマンネットワークとエンタテインメントビジネス (コンテンツ流通を踏まえて)

1. コンテンツ&エンターテインメント・ビジネスをめぐる課題と視覚
2. 音楽ビジネス・マーケティングの展開
3. J-POPの海外浸透
4. ギャンブル産業・マーケティングの新展開(カジノ開設の是非)
5. 舞台芸術と観客動員
6. 放送ビジネスマーケティング—特にFM放送をめぐって—
- D 今後の流通の展望—地域経済と世界経済—

#### 【成績評価の方法】

定期試験の点数と、平常提出物の評価と、授業での参加と貢献、出席頻度などを総合的に評価して行なう。

#### 【教科書】

進行に従い指示する。

#### 【参考文献】

進行に従い指示する。

科 目 名			
<b>流通論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	隅 田 孝

#### 【講義概要・学習目標】

流通とは生産と消費を架橋する経済的、社会的活動を意味する。従来、流通は生産—仲介—消費という流れを基本として行われていた。また、流通の形態は産業ごとに多様であり、複雑なものである。たとえば、ある産業では仲介業者が重層的に介在する流通システムが確立されている。

今日では、インターネットの普及により流通の様相が大きく変化してきている。製品のカスタマイゼーションや B to B、B to C、C to C 取引に見られるように、流通システムは進化の過程にあるといつてよいだろう。

本講義では、流通の基本概念を理解した上で、マーケティング論におけるブランド、消費者行動、インターネット・マーケティングなど流通と密接にかかわりをもつトピックを取り上げ、流通システムの進化について理解していく。

#### 【講義計画】

1. オリエンテーション
2. 流通システムの基本概念
3. 市場の概念
4. 製品・販売促進・価格・流通チャンネル
5. ブランド
6. 消費者ニーズ
7. 消費者行動
8. 消費文化
9. インターネット・マーケティング
10. ブランド・コミュニティ
11. まとめ

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

#### 【成績評価の方法】

出席状況、理解度確認テスト、レポート、期末試験などにより総合的に評価する。

#### 【教科書】

授業中に指示する。

#### 【参考文献】

(社)日本マーケティング協会 (編)『マーケティング・ベーシックス』第二版、同文館、2001年。

科 目 名			
<b>臨床心理学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	岡 井 哲 明

**【講義概要・学習目標】**

「臨床心理学」とは、心の健康を失いバランスを崩している人（疾病を含む）に対する心理学的な治療実践から生まれた体系であり学問である。元々、人間の行動を科学する学問である「心理学」から派生した分野であり、生涯にわたり人間を対象にしている。

現代は、複雑な社会であり、私たちを取り巻く環境の変化は変転目まぐるしく、私たちの心がそれに十分ついていけない状態にある。心の病はもはやボーダレスに社会に広がっているという感じさえある。ひとりひとりが心の置き場をどこに求めれば良いのかが分からなくなりつつある。

本講義では、臨床心理学の幅広い体系的な総論から各論までを取り扱うが、特に、無意識の概念を導入し、人間を無意識を含めた自律的な機能の総体としてとらえる「精神分析療法」を中心に据えて展開する。

必要に応じて具体的な事例や社会現象を紹介し、人間の心に対する理解を深め、悩める人への援助についても触れるつもりである。受講者自身が、今まで以上に人間に対する関心を深め、今後の人生に役立てる契機となれば幸いである。

**【講義計画】**

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の歴史
3. 代表的な治療技法
  - ①精神分析療法
  - ②ユングの分析療法
  - ③行動療法
  - ④クライエント中心療法
  - ⑤ゲシュタルト療法
  - ⑥その他
4. 集団療法と家族療法
5. 精神医学的診断
6. アセスメント（心理査定）
7. 臨床心理学的地域援助

**【成績評価の方法】**

出席及びレポートの成績を最終的な評価とする。

**【教科書】**

特に指定はしない。

**【参考文献】**

随時、講義の中で紹介する。

科 目 名			
<b>倫理学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	木 下 昌 巳

**【講義概要・学習目標】**

倫理学とは、一言で言えば、「人間はいかに生きるべきか」という問題を考え、その問いに答えようとする学問である。この授業では、古代ギリシアから現代に至るまでの西欧の主要な思想家の倫理思想を年代順に取り上げ、彼らの思想の基本的な立場と考え方の道筋を学ぶ。価値感が混迷する現代においては、自分が何を大切に、どのような生き方をするかということを各人が考えなければならない。この授業は、このような問題を自ら考えようとするときに、その手がかりとなるような思想、考え方を身につけることを目標とする。

**【講義計画】**

1. 古代ギリシアの倫理思想
2. 西欧近代の倫理思想
3. 現代の倫理思想

各テーマ毎に10回程度の講義をおこなう予定。

**【成績評価の方法】**

学年末のテストによる。

**【教科書】**

初回授業で指示する。

**【参考文献】**

授業中に適宜指示する。



科 目 名			
<b>歴史学－浮世絵の社会＝文化構造</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	佐 賀 朝

**【講義概要・学習目標】**

「浮世絵の社会＝文化構造」と題し、何人かの著名な浮世絵師の作品を取り上げながら、日本の民衆文化を多彩な形で創造した近世（江戸時代）の巨大都市・江戸の社会をのぞく。

文化の表層をなぞるのではなく、文化をつくり出す基礎となった社会そのものの構造にもメスを入れる形で「江戸」の文化創造力の源泉に迫りたい。

本講義では、まず歌麿・写楽・北斎などの作品について、作品論的な観点から考察をくわえる。その上で、彼らの作品を成立させた社会的な背景を探るべく、浮世絵の画題となった江戸の多様な社会＝空間や文化現象について論じていく。具体的には、芝居興行、遊廓、両国（盛り場）、講中、町火消、若者仲間などを取り上げる。

こうした作業を通じて、日本文化を社会的な観点から研究していく方法を学ぶとともに、社会構造分析と結びついた文化研究の新しい可能性を探っていきたい。

**【講義計画】**

- ・写楽の役者絵と芝居の世界  
写楽の第一期作品について／寛政期の芝居興行と江戸・上方／芝居地の社会構造
- ・広重名所絵の虚像と実像  
広重名所絵の虚構性／両国一名所の社会構造
- ・歌麿の美人画と吉原  
歌麿「北国五色墨」について／新吉原と仮宅
- ・北斎「富嶽三十六景」と江戸の富士信仰  
北斎の作画変遷と「富嶽三十六景」／江戸の講中
- ・国芳と江戸の民衆世界  
奇想の絵師・国芳／町火消と若者仲間
- ・浮世絵の社会＝文化構造  
錦絵の毒素／錦絵をめぐる社会構造

**【成績評価の方法】**

出席・受講態度、小テスト、定期試験などにより総合的に評価する。

**【参考文献】**

- ・浅野秀剛・吉田伸之編『浮世絵を読む』1～6（朝日新聞社、1997～98年）
- ・吉田伸之『身分的周縁と社会＝文化構造』（部落問題研究所、2003年）

その他、授業のなかで随時、提示する。

科 目 名			
<b>歴史学－海のシルクロード史を読む</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	深 見 純 生

**【講義概要・学習目標】**

海のシルクロードの歴史をあとづける。

この講義は、海から歴史を見ると同時に史料を読むという、ちょっと欲張った内容である。海から歴史を見ることで、無意識のうちに陸中心になっている私たちの歴史観を反省する手掛かりになることを期待している。あわせて、具体的な史料を取り上げることによって、史料の背景、史料の読み方、史料の解釈など歴史学の方法の基礎的なことがらにも触れる。

地域としては東南アジアを中心に扱う。そこには地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が交易世界と結びついて、典型的な海域アジア世界が成立した。時間的には2000年前の始まりから、ヨーロッパ勢力がアジア海域世界に登場する以前、つまり15世紀までを扱う。この間の、東南アジアを中心とする交易システムの形成とその変化をあとづけることになる。

いわゆるノート講義であるが、テキストに指定した資料集が必携である。

視覚的な理解のためビデオ資料も用いる。

**【講義計画】**

- 第1章 序論
- 1. 海のシルクロード総説
- 2. 東南アジア海域世界論
- 3. モンスーンの風土東南アジア
- 第2章 モンスーン航海以前
- 4. 『漢書』地理志——現地商船による転送
- 5. 『エリュトウラー海案内記』——ヒッパロスの風
- 6. 回転紋土器とビーズ
- 7. 『後漢書』——2世紀の変化
- 8. 3世紀の海洋東南アジア
- 第3章 モンスーン航海の確立
- 9. 法顕『仏国記』——モンスーン航海の確立
- 10. 5－6世紀の海洋東南アジア
- 11. 前2世紀～後6世紀の総括
- 第4章 マラッカ海峡交易帝国
- 12. 赤土国——最初のマラッカ海峡交易帝国
- 13. 求法巡礼僧たち
- 14. 交易帝国シュリーヴィジャヤ
- 15. シャイレーンドラ朝の時代
- 16. 唐代の広州
- 17. 中国船の南海進出
- 18. 8－10世紀の海洋東南アジア
- 第5章 宋元代の海のシルクロード
- 19. 朝貢からみた宋代の南海
- 20. 『嶺外代答』にみる海外世界認識
- 21. 『嶺外代答』にみる航路と航海時季
- 22. 11世紀のマラッカ海峡
- 23. 都会とネットワークの変化
- 24. 長い13世紀のマレー半島とスマトラ
- 25. 中国船・中国人の南インド進出
- 26. 「海賊型中継交易国家」三仏齊の終焉
- 第6章 ムラカの時代
- 27. 鄭和の大航海
- 28. ムラカの発展

**【成績評価の方法】**

時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。

**【教科書】**

深見純生 史料集 歴史学 海のシルクロード史を読む  
いわゆるノート講義であるが、テキストに指定してある史料集が必携である。

**【参考文献】**

- 辛島昇・大村次郷『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社 2000〔桃園A292.09〕
- 長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989〔桃園A209〕

ら  
行

科 目 名			
<b>歴史学—大日本帝国の興亡</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	望 月 和 彦

**【講義概要・学習目標】**

本講は、わが国の20世紀前半の歩みをふり振り返り、新たな歴史認識を得ようとするものである。本講は、従来、わが国歴史学が立脚してきたマルクス主義唯物史観に拠らず、全く異なる歴史評価を行う。歴史を学ぶことは、単に過去の事物を取り上げて懐古趣味に耽ることではない。歴史を知ること、現在を知ることであり、将来を予測する手がかりを得ることでもある。このまま世の中が進んでいけばどのような結果になるのか、現在の私たちにはどのような選択肢があり、各選択肢からどのような結果が生まれると考えられるか、このような問題を複雑極まる人間社会の問題としてとらえようとするれば、その手がかりは過去の事例に求めるしかない。

本講の関心も単なる過去に対する回顧ではなく、現在社会の問題解決にある。歴史は繰り返すというが、20世紀前半のわが国の歴史を見れば、その感を益々強くせざるを得ない。そこにはバブル経済の発生とその崩壊、無原則な国際協調政策の弊害、グローバルスタンダードへの無思慮な追従、これらの経済・外交政策の失敗による社会の閉塞感、等々といった今日のわが国社会が直面する問題が、違った形で現れていることが分かる。従って、この時代に何が行われ、何が行われなかったかを考察することは、現在の問題をどう解決すればよいかを考える際に大変有益であろう。

さらに、20世紀前半のわが国の歴史を概観することで、現在のわが国が置かれた状況を歴史の流れの中で把握することができる。それは現在の私たちのできることで、できないこと、すべきこと、すべきでないことをある意味で規定している。

本講を受講すれば、歴史とは単なる過去の出来事の回顧ではなく、まさに「過去に対する現在の政治である」ことが了解されよう。

本講は、高校で日本史を学習し、日本の近現代史について相当程度知識を持っている人を前提にしている。決して分かりやすい講義ではない。それを覚悟して受講すること。

**【講義計画】**

- 第1回 歴史の捉え方
- 第2回 20世紀初頭における東アジア情勢
- 第3回 日露戦争その1 日露戦争の原因と開戦
- 第4回 日露戦争その2 日本海海戦と講和
- 第5回 日露戦争後の世界情勢
- 第6回 大正政変
- 第7回 第一次世界大戦と日本その1 参戦と対華二十一条要求
- 第8回 第一次世界大戦と日本その2 工業化の進展と大衆消費社会の到来
- 第9回 政党内閣の成立とその結果
- 第10回 ワシントン体制
- 第11回 関東大震災と第二次護憲運動
- 第12回 政党の対立と昭和金融恐慌
- 第13回 田中義一内閣の外交政策と張作霖爆殺事件
- 第14回 浜口内閣成立と金解禁問題
- 第15回 ロンドン海軍条約をめぐる対立
- 第16回 テロとクーデターの時代の幕開け
- 第17回 満州事変
- 第18回 犬養内閣成立と高橋是清による景気回復政策
- 第19回 5・15事件、軍部の台頭、皇道派と統制派
- 第20回 2・26事件
- 第21回 日中戦争と総動員体制
- 第22回 日本の安全保障政策
- 第23回 第二次世界大戦勃発と日米交渉
- 第24回 日米開戦
- 第25回 敗戦に至る経緯、原爆投下
- 第26回 降伏と占領
- 第27回 占領政策
- 第28回 講和に至るまで

**【成績評価の方法】**

成績評価は期末試験によって行う

### 【参考文献】

授業時に配付するプリントで指示する。高校の日本史の教科書や副教材、日本史用語集、年表など持参することをおすすめする。

### 科 目 名

## 歴史学—歴史から何を学ぶか

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	串 田 久 治

### 【講義概要・学習目標】

「以史為鑑 察往知来」—歴史から何を学ぶか

今に伝わる多くの歴史書のひとつに、宋の司馬光（しばこう）が著した歴史書『資治通鑑（しちつがん）』がある。これは読んで字のごとく、過去の歴史を来るべき時代の治に資し、人間の鑑（かがみ）とするという歴史観である。ただ、歴史を鑑戒とする考え方は司馬光だけのものではなく、中国では古代から伝統的に受け継がれたものである。今も「史を以て鑑と為し、往を察して来を知る（人間の歴史を鑑とし、過去の過ちを察して未来の行方を知る）」精神は健在である。歴史に教訓が記録されない時、そして歴史に学ぶことができない時、歴史は繰り返される。

以上は拙著『儒教の知恵』の一節です。本講義は中国の歴史書に記録される史料を通して、歴史を記録することの意味を、そして歴史を学ぶことの意味を考えながら今日の日本や世界を考え、二十一世紀の世界を模索するものです。

### 【講義計画】

第一部 歴史を記録することの意味

- 1 History と 史
- 2 直 筆経と緯
- 3 春秋・樛机・乗

第二部 歴史と思想

- 1 陰陽五行思想
- 2 十干十二支
- 3 経（たていと）と緯（よこいと）
- 4 天の思想：革命・天道・災異

第三部 歴史を読み解く

- 1 名と実
- 2 婦人の義
- 3 宋襄の仁
- 4 経と権
- 5 神格化

### 【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

### 【教科書】

串田久治 儒教の知恵—矛盾の中に生きる 中公新書

### 【参考文献】

入江 昭著『歴史を学ぶということ』（講談社現代新書）  
宮崎市定著『中国に学ぶ』（中公文庫）  
市井三郎著『歴史の進歩とは何か』（岩波新書）  
串田久治著『中国古代の「謡」と「予言」』（創文社）  
串田久治著『ゆっくり楽に生きる漢詩の知恵』（学研）  
串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）  
今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）  
武田泰淳著『司馬遷—史記の世界』（講談社学術文庫）  
加地伸行著『史記—司馬遷の世界』（講談社現代新書）  
KUSHIDA' S WEB SITE

<http://www1.odn.ne.jp/kushida>

科 目 名			
<b>レクリエーションワーク</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	弘 中 陽 子

**【講義概要・学習目標】**

すべての人が地域の中で、いきいきと豊かに生活をする上で、レクリエーションの重要性が言われています。この講義では、生活とレクリエーションの関連性を踏まえた上で、「よりよい生活」「豊かな生活」について考えていきます。また、レクリエーション援助者として、福祉サービス利用者に応じたレクリエーション活動の援助の方法や技術等を実践的な演習の中で、修得することを目的とします。

**【講義計画】**

1. オリエンテーション（授業の目的、内容や進め方、評価方法等の説明）
2. レクリエーションの基本的理解
3. 福祉領域におけるレクリエーションの考え方
4. 生活とレクリエーションの関係Ⅰ
5. 生活とレクリエーションの関係Ⅱ
6. レクリエーション援助の考え方
7. レクリエーション援助プロセス
8. 個別レクリエーション援助について考えるⅠ
9. 個別レクリエーション援助について考えるⅡ
10. グループを介したレクリエーション援助について考えるⅠ
11. グループを介したレクリエーション援助について考えるⅡ
12. グループを介したレクリエーション援助計画を実践するⅠ
13. グループを介したレクリエーション援助計画を実践するⅡ
14. グループを介したレクリエーション援助計画を実践するⅢ
15. これからの福祉レクリエーションについて考える（まとめ）

**【成績評価の方法】**

この授業では、「自分自身の心で感じ、考え、動く」ことが、重要と考えています。よって、一方的な講義形式ではなく、受講生一人ひとりが主役となるような演習的形式で展開します。よりよい授業となるようにお互い取り組んでいきましょう。次の3点を総合的に評価をします。①平常点（出席、主体的・積極的な受講態度） ②提出物（授業内で指示をした課題等も含む） ③授業内の発表等

**【教科書】**

長尾正子・石田易司 長尾正子の介護レクリエーション エルピス社

**【参考文献】**

石田易司著「アイスブレイク」エルピス社、2001

科 目 名			
<b>連結会計論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	柴 理 梨 亜

**【講義概要・学習目標】**

単独企業の財務諸表に代わってグループ企業の連結財務諸表が主役になった今、本講義ではその連結財務諸表について学びます。例えば、はなぜそのような連結財務諸表が必要なのか、その制度とはなにを目的としているのか、その財務諸表の構成は、などを理解するのが目的である。

本講義を受講するにあたって、簿記、会計と財務諸表の基礎知識が不可欠である。

**【講義計画】**

1. 証券取引法に基づく情報開示制度
2. 連結決算制度
3. 連結貸借対照表
4. 連結損益計算書
5. 連結剰余金計算書
6. 連結キャッシュ・フロー計算書
7. 連結財務諸表の注記事項
8. 連結の範囲と基準

**【成績評価の方法】**

出席、ミニテストや授業中の参加、期末テストを総合的に評価する

**【教科書】**

新日本監査法人 図解早わかり 連結決算書入門 BSIエデュケーション  
練習問題も必要に応じてプリントして配布する

科 目 名			
<b>労使関係論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	上 田 修

**【講義概要・学習目標】**

政・労・使をその制度主体とする労使関係制度は、小さな政府、労働組合組織率の長期的低下傾向、さらにアメリカにおけるニューエコノミーの成功に基礎づけられた株主権論の擡頭によって、その基盤を大きく揺るがせられようとしています。日本もその例外ではありません。労使関係は、雇用、賃金、処遇といった働く人びとの生活に密接に係る事柄がどのような制度的枠組みにおいて決められるのか、またそのプロセスにおいて見られる各国の特徴とは何かといった問題に焦点をあてるものです。このことをとおして、人びとの暮らしのあり方を考えようとなります。例えば、現在、問題となっているフリーターの増加に象徴される若年層の雇用、中高年層のリストラ、主婦層を中心とするパートの増大といった各種の雇用問題は労使関係とどのような結びつき、関わりがあるのでしょうか。この授業では、労使関係という視点から雇用を中心とする労働世界の変容を取りあげ、考察します。

**【講義計画】**

- 第1回 はじめに
- 第2回 労使関係論とは何か
- 第3回 働く世界の基礎知識 (1)
- 第4回 働く世界の基礎知識 (2)
- 第5回 働く世界の基礎知識 (3)
- 第6回 働く世界の基礎知識 (4)
- 第7回 若年層の雇用問題 (1)
- 第8回 若年層の雇用問題 (2)
- 第9回 若年層の雇用問題 (3)
- 第10回 女性労働の多様化 (1)
- 第11回 女性労働の多様化 (2)
- 第12回 女性労働の多様化 (3)
- 第13回 女性労働の多様化 (4)
- 第14回 女性労働の多様化 (5)
- 第15回 非正規労働の増大 (1)
- 第16回 非正規労働の増大 (2)
- 第17回 高齢層の雇用問題 (1)
- 第18回 高齢層の雇用問題 (2)
- 第19回 高齢層の雇用問題 (3)
- 第20回 高齢層の雇用問題 (4)
- 第21回 働き過ぎ社会の病理 (1)
- 第22回 働き過ぎ社会の病理 (2)
- 第23回 働き過ぎ社会の病理 (3)
- 第24回 日本の労使関係 (1)
- 第25回 日本の労使関係 (2)
- 第26回 日本の労使関係 (3)
- 第27回 日本の労使関係 (4)
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

成績は、学期末テスト (80%)、出席および授業時に課すレポート (20%) によって評価します。

**【教科書】**

使用しません。ただし、講義内容の概略 (レジュメ) を配布します。

**【参考文献】**

講義概要 (レジュメ) で指示します。

科 目 名			
<b>老人福祉論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	坪 山 孝

**【講義概要・学習目標】**

- 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。
- 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。
- 3 老人の福祉需要の把握方法について理解させる。
- 4 老人福祉に関する法 (介護保険法及び老人保健法を含む) とサービスの体系について理解させる。
- 5 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。
- 6 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
- 7 老人のための地域及び住環境の歳暮と福祉用具について理解させる。
- 8 老人に対する相談援助活動について理解させる。

**【講義計画】**

- 1 高齢社会と老人
  - 1) 老化と老人
  - 2) 家族と老人
  - 3) 社会と老人
- 2 現代社会と老人福祉
  - 1) 老人福祉理念の発達
  - 2) 概念と範囲
  - 3) 役割と意義
- 3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
  - 1) 把握方法
  - 2) 具体的内容
- 4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
  - 1) 老人福祉法
  - 2) 介護保険法
  - 3) 老人保健法及びその他の関連法規
- 5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
  - 1) 在宅サービス
  - 2) 施設サービス
- 6 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
- 7 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
  - 1) 組織・専門職
  - 2) 連携のあり方
- 8 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
  - 1) 地域と住環境の整備 (バリアフリー)
  - 2) 福祉用具
- 9 老人に対する相談援助活動
  - 1) 相談援助活動尾をすすめるうえでの留意点
  - 2) 具体的事例

**【成績評価の方法】**

授業時に実施する小テスト、レポートおよび試験による

**【教科書】**

村川浩一・黒田研二・坪山孝・松井奈美 編 高齢者福祉 第一法規出版

**【参考文献】**

老人福祉論 社会福祉学習双書、全国社会福祉協議会  
国民の福祉の動向 厚生統計協会  
他、適宜、紹介する

科 目 名			
<b>労働経済論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	吉 田 恵 子

**【講義概要・学習目標】**

配布するレジュメをもとに講義を進める。  
学習目標は労働経済の知識を理解すること、自分自身が「働く」ことを実感として捉えられるようになることである

**【講義計画】**

イントロダクション  
いろいろな働き方—サラリーマン、自営業者—  
データで見る日本の労働市場  
賃金と雇用の決まり方  
なぜ人によって賃金は違うのか  
「学び」と「訓練」  
人が会社をやめるとき  
若年をめぐる雇用  
女性、高齢者をめぐる雇用  
高失業の経済学  
まとめ

**【成績評価の方法】**

小テスト（四回）と期末テスト

**【参考文献】**

「労働経済学入門」太田 聡一（著）、橋本 俊詔（著） 有斐閣  
「マンキュー経済学〈1〉ミクロ編」N.グレゴリー マンキュー（著）、N.Gregory Mankiw（原著）、足立 英之（翻訳）、小川 英治（翻訳）、石川 城太（翻訳）、地主 敏樹（翻訳）東洋経済

**【備考】**

<E生>のみ対象

科 目 名			
<b>労働経済論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	大 西 祥 恵

**【講義概要・学習目標】**

労働は現在の大学生にとって身近なトピックである。というのも、入学当初よりアルバイトを行う者もいれば、在学の後半期には就職活動に取り組む者もいるからである。さらに、大学卒業後、民間企業や行政に勤務する者が多数いるという現状を考えると、少なからぬ人が人生において一定の時間を職場での労働に費やすことになるといえよう。だとすれば、労働に関する基本的な事項を在学中に学ぶことは意義深いことである。本講義の前半では、企業の規模や形態に注目する形で、大企業、公企業、中小企業における労使関係について学ぶ。そして、後半においては労働者の属性に注目する形で、性別や国籍の違いによって現時点では就業状況にどのような特徴がみられるのかという点について学ぶ。

**【講義計画】**

1. 日本の生産主義と労働者（1）日本の生産主義
2. 日本の生産主義と労働者（2）外圧と生産主義
3. 日本の生産主義と労働者（3）規制緩和と生産主義
4. 大企業における労働者（1）「日本的経営」と労働問題
5. 大企業における労働者（2）フレキシビリティと労働問題
6. 大企業における労働者（3）「自発」調達のメカニズム
7. 公企業における労使関係（1）公共部門の特徴
8. 公企業における労使関係（2）国鉄民営化
9. 公企業における労使関係（3）電電公社民営化
10. 公企業における労使関係（4）郵政制度の変革
11. 中小企業における労働者（1）中小企業の類型
12. 中小企業における労働者（2）下請製造業
13. 中小企業における労働者（3）新たな展開
14. 女性労働者（1）労働力の女性化
15. 女性労働者（2）積極的女子労働力政策
16. 女性労働者（3）男女雇用機会均等法の制定と改正
17. 女性労働者（4）労働と生活のバランス
18. 外国人労働者（1）歴史
19. 外国人労働者（2）オールドカマーの労働問題
20. 外国人労働者（3）ニューカマーの労働問題
21. 外国人労働者（4）日本における外国人政策
22. 日本型福祉国家（1）企業中心社会と社会保障制度
23. 日本型福祉国家（2）企業中心社会と家族政策
24. 日本型福祉国家（3）日本型福祉国家の明暗

**【成績評価の方法】**

試験、講義中におこなう取り組み、出席状況および出席態度などにて評価する。

**【教科書】**

戸塚秀夫・徳永重良編著『現代日本の労働問題<増補版>』ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

講義中に指示することがある。

**【備考】**

<SS生>のみ対象

科 目 名			
労働法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	上 田 達 子

#### 【講義概要・学習目標】

雇用者（サラリーマン）が全就業者の8割をしめる雇用社会である日本において、働き方のルール（労働法）を知ることは必要不可欠でしょう。労働法は、（1）個々の労働者と使用者との労働契約（雇用関係）を規律する雇用関係法、（2）労働組合と使用者との団体的関係に関する労使関係法、（3）雇用の促進と失業の予防、職業紹介、能力開発等を内容とする雇用政策法（労働市場法）の3領域からなります。

本講義では、労働法の基本的な内容のほか、社会経済のグローバル化・少子高齢化等に伴う日本型雇用システム（長期雇用、年功序列型賃金、企業別組合）の変化と労働法の変容について、裁判例や事例問題をもとに、分かりやすく解説します。

#### 【講義計画】

- 第1回 雇用社会の変化と労働法
- 第2回 労働法の枠組み—アルバイトと労働者、労働組合、使用者
- 第3回 労働条件の決定システム
- 第4回 労働契約の成立—採用内定、試用
- 第5回 労働契約上の権利義務
- 第6回 賃金—賃金の決定・支払方法に関する規制
- 第7回 労働時間（1）労働時間・休日規制、ホワイトカラー・エグゼンプション
- 第8回 労働時間（2）時間外・休日労働、年次有給休暇
- 第9回 雇用平等—男女雇用機会均等法、セクシュアル・ハラスメント等
- 第10回 人事異動（1）配転、出向、転籍
- 第11回 人事異動（2）昇格・昇進・降格、育児介護休業法・キャリア権との関係
- 第12回 職場規律と懲戒処分
- 第13回 労働契約の終了（1）退職、定年制、解雇
- 第14回 労働契約の終了（2）整理解雇
- 第15回 進捗調整日
- 第16回 雇用形態の多様化（1）期間雇用労働者と雇止め規制
- 第17回 雇用形態の多様化（2）パートタイム労働者
- 第18回 雇用形態の多様化（3）派遣労働者
- 第19回 労働組合法（1）労働組合、団体交渉
- 第20回 労働組合法（2）労働協約、不当労働行為
- 第21回 労働条件の変更（1）就業規則、労働協約
- 第22回 労働条件の変更（2）個別合意による変更、変更解約告知
- 第23回 雇用政策と法（1）失業（予防）と法政策
- 第24回 雇用政策と法（2）高齢者雇用、外国人雇用と法政策
- 第25回 労働者の健康とプライバシー
- 第26回 営業秘密の保護と競争禁止義務
- 第27回 内部告発
- 第28回 企業組織の再編—合併、事業譲渡、会社分割と労働契約
- 第29回 企業年金
- 第30回 進捗調整日

#### 【成績評価の方法】

学期末の試験により評価します。

#### 【教科書】

菅野和夫・西谷敏・荒木尚志編 労働判例百選 [第7版] 有斐閣

#### 【参考文献】

開講時に紹介します。

科 目 名			
ロシア語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	1単位	国 松 夏 紀

#### 【講義概要・学習目標】

これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正格には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。

英語より7文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいりいろいろあります）を練習して覚えることから始めます。

そして、初級の基本的な文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ、特に春学期は、感覚的にロシア語になれることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習をしましょう。

#### 【講義計画】

春学期 I aと秋学期 II aは同一の教科書を使用します。春学期はその前半を以下の予定で学習します。

- 第1回 オリエンテーション/ロシア語の辞書案内
- 第2回 文字と発音 I
- 第3回 文字と発音 II
- 第4回 文字と発音 III 文字と発音のまとめ
- 第5回 名詞の性、形容詞の変化、「AはBである」
- 第6回 単語と練習
- 第7回 名詞の複数形、所有代名詞、形容詞の語尾
- 第8回 単語と練習
- 第9回 人称代名詞、動詞の規則変化（現在形）、副詞
- 第10回 名詞の対格、動詞の不規則変化（любить）
- 第11回 「～したい」、命令形、方向と場所の表現
- 第12回 数詞、時間の表現、年齢の表現
- 第13回 名詞の性のまとめ
- 第14回 春学期末試験（ペーパーテスト）

#### 【成績評価の方法】

出席を何よりも重視します。とにかく、たとえ予習が間に合わなくとも、メゲゲずに教室に出てきてロシア語に触れること。その平常の努力点と春学期末試験とで総合的に評価します。

#### 【教科書】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子 ロシア語へのパスポート（改訂版）白水社

#### 【参考文献】

辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。

#### 【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科 目 名			
ロシア語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	1単位	杉 野 ゆ り

**【講義概要・学習目標】**

ロシア語はロシア連邦に住む約1億5千万人が使用し、CISの国々で異なる民族間のコミュニケーションの手段として使われています。ロシア連邦の極東にあるウラジオストク市は大阪から約2時間の飛行距離です。ロシアは隣国でありながら、日本人にはあまりよく知られていません。可能性に満ちた未知の国ロシアについて、その豊かな文化に触れるためにロシア語の勉強をはじめましょう。

**【講義計画】**

教科書は導入部分「文字とその読み方」と10課からなります。「文字とその読み方」と各課について2～3回の授業を当てて、第5課まで進みます。

**【成績評価の方法】**

欠かさず授業に出席して意欲的に勉強する態度を評価します。平常点（出席回、小テスト）と定期試験で評価します。

**【教科書】**

諫早勇一、服部文昭、大平陽一 セメスターのロシア語 白水社

**【参考文献】**

露和辞典は授業で紹介します。

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科 目 名			
ロシア語 II a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	1単位	国 松 夏 紀

**【講義概要・学習目標】**

春学期 I a の続き、後半戦となります。長い夏休みの後、ロシア語の基礎固めを急いで再開します。ここが頑張りどころです。

**【講義計画】**

- 春学期と同じ教科書、後半第10課からとりかかります。
- 第1回 春学期末（I a）試験講評、秋学期オリエンテーション
  - 第2回 「行く・来る」を表す動詞、行き先の表現
  - 第3回 名詞の生格、所有代名詞、所有の表現
  - 第4回 曜日の表現、未来の表現、形容詞の変化
  - 第5回 名詞の前置格と場所の表現、不規則動詞 *жить* の変化
  - 第6回 動詞 *учиться* の変化、前置詞 *в* と *на*
  - 第7回 動詞の過去形、名詞の対格（2）、人称代名詞の対格
  - 第8回 動詞の変化のまとめ
  - 第9回 名詞の与格・造格、不規則動詞 *писать*
  - 第10回 完了体動詞と不完了体動詞
  - 第11回 動詞の未来、形容詞の格変化
  - 第12回 「行く・来る」を表す動詞（2）、前置詞のまとめ
  - 第13回 格変化のまとめ
  - 第14回 秋学期末試験

**【成績評価の方法】**

春学期に引き続き、出席重視です。平常点と学期末試験との総合評価も同様です。

**【教科書】**

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子 ロシア語へのパスポート（改訂版）白水社

**【参考文献】**

春学期に引き続き、授業中に随時「参考文献」並びに「新旧ロシア情報」を紹介して行きます。

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。



科 目 名			
ロシア語Ⅱ a <02~07生対象>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	国 松 夏 紀

**【講義概要・学習目標】**

旧カリキュラム「ロシア語Ⅰa・Ⅰb」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語の会話文を読み、それを基にして話したり、聞いたりする練習や書く練習もします。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、未だ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し補いながら、こまめに辞書も引きながら読んでいきましょう。それと同時に、教科書添付のCDなどで、ネイティブの発音をシッカリ聞き、自分でも精一杯声を出して滑らかに読めるように・話せるように練習してください。地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けるでしょう。

**【講義計画】**

教科書は全部で20課です。それに「文字と発音」がつきます。目標としては春学期10課、秋学期10課仕上げる予定です。以下の予定は、主な表現/主な文法事項 を示します。

<春学期>

- 第1回 オリエンテーション/ロシア語はどんなことばか?
- 第2回 文字と発音 (復習1)
- 第3回 文字と発音 (復習2)
- 第4回 ○○は△△です/文法上の「性」
- 第5回 ○○は△△ではない (否定) /挨拶の表現
- 第6回 これは私のスーツケースです/所有代名詞・指示代名詞
- 第7回 あそこに古い写真があります/形容詞、名詞の「性」
- 第8回 雑誌を読んでいます/動詞の現在変化
- 第9回 日本語を話します/動詞の現在変化、名詞の複数形
- 第10回 彼女はどこに住んでいるのですか/動詞 жить の変化、前置詞、場所の表現
- 第11回 電話を持っていますか/所有の表現、命令形
- 第12回 音楽を聞いているのですか/動詞 писать の変化、名詞の各変化、体格の用法
- 第13回 小包を送りたい/動詞 хотеть, идти の変化
- 第14回 春学期末試験 (ペーパーテスト)

<秋学期>

- 第15回 春学期末試験講評、秋学期オリエンテーション
- 第18回 日本文学を勉強していました/動詞の過去
- 第19回 家にいました/любить の現在変化、быть の過去
- 第20回 今晚はお客様が来ます/動詞の来來、動詞 петь, есть, пить, танцевать の現在変化
- 第21回 カサがありません/名詞の生格の用法
- 第22回 夫にプレゼントを買いだいたい/名詞の与格の用法
- 第23回 紅茶には普通ミルクを入れて飲みます/造格の用法
- 第24回 日本料理店でアントンを見かけました/形容詞の格変化
- 第25回 それがアントンでないはどうして分かるのですか?/動詞の完了体と不完了体の区別
- 第26回 捨てるのなら手伝います/動詞 помочь の変化
- 第27回 もし私が鳥だったら/仮定法、動詞 нравиться の用法
- 第28回 秋学期末試験 (ペーパーテスト)

**【成績評価の方法】**

必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、教室に出てくること。その「平常点」と春学期末・秋学期末の試験により、総合的に評価します。

**【教科書】**

黒田龍之助 ニューエクスプレス ロシア語 (CD付) 白水社

**【参考文献】**

授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。

科 目 名			
ロシア語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	1単位	杉 野 ゆ り

**【講義概要・学習目標】**

春学期に引き続き、初級文法の完成をめざします。教科書の練習問題で応用力をつけましょう。

**【講義計画】**

教科書の第6課から10課まで進みます。

**【成績評価の方法】**

欠かさず出席して意欲的に勉強する態度を評価します。平常点 (出席、小テスト) と定期試験で評価します。

**【教科書】**

諫早勇一、服部文昭、大平陽一 セメスターのロシア語

**【備考】**

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科 目 名			
ロシア語Ⅱ b <02~07生対象>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	杉 野 ゆ り

**【講義概要・学習目標】**

初級文法に基づいて、会話力と読解力の向上をめざします。辞書を引いて予習にはげみ、文章の内容を確認しつつロシア語の実力を高めてください。付属のCDを使って聞き取りも訓練してください。

**【講義計画】**

教科書は13課から成ります。前期で7課、後期で残り6課を進む予定です。

**【成績評価の方法】**

欠かさず出席して意欲的に勉強する態度を評価します。平常点（出席回、小テスト）と定期試験で評価します。

**【教科書】**

諫早勇一、服部文昭、大平陽一、イリーナ・メーリニコワ セメスターのロシア語読本 白水社

科 目 名			
論述作文 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	岩 男 久仁子

**【講義概要・学習目標】**

文章で、自分の意見を明確に表現できるようになる。それは、読み手に理解されるような文章を書けるようになることである。また、人前での「発表」をする練習も取り入れる。

時間中は手書きで原稿を書くが、それを自ら添削し、書き直して提出する時にはパソコンのワープロソフトで作成したものを、提出する。

**【講義計画】**

<春学期>

自己紹介、履歴書など、自分の事柄を中心としたテーマで、毎回800~1000字程度の文章を書く。テーマは授業時のはじめに伝える。

<秋学期>

一つのテーマを決めて「論文」を仕上げる。「卒業論文」を書くために必要なスキルを身につける。参考文献の探し方、注釈の付け方など。

**【成績評価の方法】**

筆記による試験は行わない。出席重視。遅刻厳禁（欠席とみなす）。

文章の評価は個々の努力により評価する。

**【参考文献】**

授業時に紹介する。

**【備考】**

毎回授業時に用意するもの

- ・国語辞典（電子辞書可、辞書代わりの携帯電話は不可）
- ・論述作文用の原稿用紙

必要時にプリントを配布。

科 目 名			
論述作文 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	大 野 順 子

**【講義概要・学習目標】**

『文章を書く』という作業に慣れていただくために、さまざまなテーマや課題を与え、毎時間、小論文を作成することを通して、基礎的な論文を完成できるまでの能力を身につけることを目指します。

**【講義計画】**

**【春学期】**

文章を書くことに抵抗なく取り組んでいける姿勢をつくるため、実際に文章を書く作業（1000字以内を予定、授業内に提出厳守）を継続して行きます。そのため、共通のテーマを挙げ、毎回それについて文章を書く訓練をします。同時に、論文の構成や情報収集／参考文献の検索方法等についても学習します。また、必要に応じて、毎時の課題論文を受講生間で共有し、良い点、悪い点を互いに指摘・批判しあう（批評／クリティーク）ワークショップも行います。

**【秋学期】**

受講生各個人が、それぞれ関心のあるトピック（課題）を選び、半年間をかけて本格的な論文作成に向けて、個別に指導が中心になります。秋学期第一回目の授業時には「論文の書き方」についてのビデオを視聴します。課題論文で扱う課題については夏期休暇中に考え、論文作成計画書（アウトライン）を作成し、秋学期最初の授業時に提出します。

※受講生人数により、若干、授業計画、及び進め方に変更が生じる場合があります。

**【成績評価の方法】**

1. 出席（遅刻は欠席扱い）
2. 毎時の課題小論文
3. 夏季、冬季休暇中の課題（図書要約）
4. 最終課題、及び試験
5. 授業への積極的参加  
以上により、総合的に評価する。

注1) 提出物の締切等厳守。

注2) 長期休暇中の課題とは、書籍（小説、絵本、詩集、エッセー、紀行文／旅行文以外の書籍）を読み、A4 1枚程度に本の内容を要約したものを休暇明けに提出してもらいます。

**【教科書】**

特になし。  
テーマに沿ったレジュメを配布する。

**（重要）**

春学期の授業では実際に文章を書く作業が中心となります。使用する原稿用紙は大学生協で大学指定の原稿用紙（B5サイズ）を第一回目の授業までに必ず購入し、持参してください。

**【参考文献】**

適時紹介する。

科 目 名			
論述作文 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	木 下 昌 巳

**【講義概要・学習目標】**

これまで作文を書き慣れていなかった人を対象として、いわば「大人らしい」作文が書けるようになることを目標とする。作文に上達するためには、とりあえず実際に書いてみなければならぬし、そうしないと上手くはならない。この授業では、1テーマごとに、2コマの授業を使って、こちらが決めたテーマについて800字程度の作文を書いてもらう練習をくり返す。春学期は、原稿用紙に鉛筆で書き、秋学期は、パソコンを備えた部屋に写って、パソコンを使って書いてもらう予定。（参加希望者は、秋学期の始まりまでには、キーボードを打てるようになってほしい。）文章を書くことが苦手だと思っている人の積極的な参加を希望する。

**【講義計画】**

提示するテーマに関する作文を、2-3回の授業で1作品のペースで書いて、提出してもらう。

**【成績評価の方法】**

作文の提出回数による。80パーセント以上の提出は必須。最後まで真面目に出席している人なら、単位取得は困難ではない。

**【教科書】**

なし

**【参考文献】**

授業中に適宜指示する。

科 目 名			
論述作文 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	村 田 佳 隆

**【講義概要・学習目標】**

論理的で明快な文章を書くための訓練をするが授業の目標である。実際に文章を書いてみて、その過程を振り返り、自分の思考や表現を鍛え直す。さらにそれを次に生かしていく。訓練はこのプロセスの繰り返しである。たくさんの文章、たくさんの言葉をインプットすること、自分の頭の中でもう一度考え直してみること、他人にわかるような形に作り直すこと、以上のことを心がけて欲しい。

**【講義計画】**

- ・さまざまな種類の文章に実際に当たってみる。
- ・自分自身の意見を短文で表現できるようにする。
- ・最終的な「作品」を仕上げる。
- ・長期休暇には作文を課す。

**【成績評価の方法】**

出席と提出された作品による平常評価。

**【教科書】**

特になし。

**【参考文献】**

授業中に指示する。

科 目 名			
論述作文 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	国 松 夏 紀

**【講義概要・学習目標】**

判りやすい、筋の通った、論理的整合性を有する文章を、あまり力を入れて堅くならず、出来る限り自然体で書けるようになることを目標として、かなり意識的に力を入れて努力を積み重ねることとする。

外国語学習では、聞く・話す・読む・書くの4技能の密接な関連が声高に語られるのに、母語（ネイティブ・ランゲージ）に関しては、あまり意識されないのは不思議である。つまり、聞くことによって話すことが出来るようになるのと同様に、読むことによって書くことが出来るようになるのである。逆に言えば、読まずにいきなり書くことは出来ない。分かりやすく言えば、「論文」を読まずにいきなり論文を書くことは出来ない。研究論文は先行論文から生まれるのであるし。

そこで本講では、読む訓練と書く訓練を連動させて行く。両者をつなぐのが、ディスカッションである。積極的発言を期待する。

**【講義計画】**

春学期は「読む」に重点をおき、秋学期は「書く」に重点を置く。

<春学期>

第1回 オリエンテーション／自己紹介（口頭）

第2回 新聞を読む（1）

第3回 新聞を読む（2）一般記事

第4回 新聞を読む（3）論説記事、コラム

第5回 新聞記事を原稿用紙に書き写す。

第6回 雑誌を読む（1）

第7回 雑誌を読む（2）

第8回 学術雑誌（大学紀要等）を読む

第9回 雑誌記事・論文を原稿用紙に書き写す。

第10回 本を読む（1）

第11回 本を読む（2）

第12回 本の内容を要約する。

第13回 要約に基づいて口頭発表する。

第14回 春学期まとめのディスカッション

<秋学期>

第15回 オリエンテーション／教室では1週おきに「時事ネタ」から800字の論述。教室外では各自のテーマで2400字の論文執筆、学期末に提出。

第16回 「時事ネタ」から800字の論述①

第17回 課題①添削結果コメント／ディスカッション

第18回 「時事ネタ」から800字の論述②

第19回 課題②添削結果コメント／ディスカッション

第20回 各自のテーマ2400字論文の構想（計画書）発表

第21回 前回の続き、コメント、ディスカッション

第22回 「時事ネタ」から800字の論述③

第23回 課題③添削結果コメント／ディスカッション

第24回 「時事ネタ」から800字の論述④

第25回 課題④添削結果コメント／ディスカッション

第26回 2400字論文中間報告会

第27回 「時事ネタ」から800字の論述⑤

第28回 課題⑤添削結果コメント／ディスカッション  
2400字論文完成稿提出

**【成績評価の方法】**

すべての提出物により総合的に評価します。

**【教科書】**

特に定めません。

**【参考文献】**

教室で適宜紹介します。

**【備考】**

毎時間、論述作文用原稿用紙、国語辞典・用字辞典等を荷物になりますが、持参してください。

科 目 名			
論述作文 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	森 田 登代子

**【講義概要・学習目標】**

一般的にみて論文を書くことは苦手という人が多い。書く機会がないというのが一番大きな理由であろう。第二に自分の言いたいことを的確に、そして手短かに相手に伝えるコミュニケーション力が訓練づけられていないこともあげられる。とくに現代の教育システムではその力は大きく欠如していることは否めない。文章力を高めるにはその最も基本になるコミュニケーション力を養うこと—自分の思っていること、意図すること、それを文字に移すこと、それらを訓練する能力を高めることしかないだろう。本講義ではそのノウハウを伝えることを主目的とする。まず正しい日本語、その意味を自分の力で理解すること、次にこれは学術論文でよく見られることだが、何が言いたいかわからない文章や美辞麗句でマスを増やすのではなく、自分の言いたいことは何かを的確に把握して、ストレートな文章を書くこと。そのための訓練をすることが肝要である。人間の身体でたとえるのなら、骨格にあたる部分、その部分を強くすれば骨がぼろぼろになる骨粗鬆（こつしょう）は避けられる。その骨も正しい位置にはめ込まなくてはならない。そうすれば肉付けにあたる段落ごとの要旨が的確に把握できる。最後に血管の流れがスムーズであれば健康な身体となる。同じように論文ならば文脈がスムーズに進めば、わかりやすい文章ができる。誰が読んでも自分の意図することが伝達できているような論文を作成したい。そのための基本的な訓練をおこなう。

**【講義計画】**

時事問題などの現代をとりまくテーマを中心に、随筆から専門の論文分野までを含むテーマをあてる。その問題、テーマ、論文の意図は何か、要旨を把握し、次に自分の言いたいこと、書きたいことをまとめ、それを決められた字数で書く練習をおこなう。文脈などにも考慮する。研究したい分野についても資料（史料）の振り方など、どのように引用すべきかなどを考えながら、限られた授業時間内で段落や文脈を的確に押さえた論文を書く練習をする。

**【成績評価の方法】**

①出席回数 ②提出された論文内容 ③授業中の態度

**【教科書】**

森田登代子『はじけてダンス!』（小学館）。このほかこちらで用意した学術論文・時事問題の記事など。

**【参考文献】**

齋藤孝『コミュニケーション力』（岩波新書）

科 目 名			
論理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	山 川 偉 也

**【講義概要・学習目標】**

現代論理学の基礎を教え、そのことを通じて「世界市民」としての素養を培うことを目的とする。

**【講義計画】**

現代において論理学を学ぶことの意義はどこにあるのかを説くことから始め、命題論理学や述語論理学の基礎を教えることへと入っていく。そして、物事を筋道立てて考えることの大切さを徹底的に教える。

**【成績評価の方法】**

授業では、毎回、練習問題を解いてもらう。その積み重ねが、合理的に思考することの最も確かな訓練となる。練習問題への積極的な取組が評価の重点項目となる。

**【教科書】**

山川偉也・清水真一『論理開眼』世界思想社

